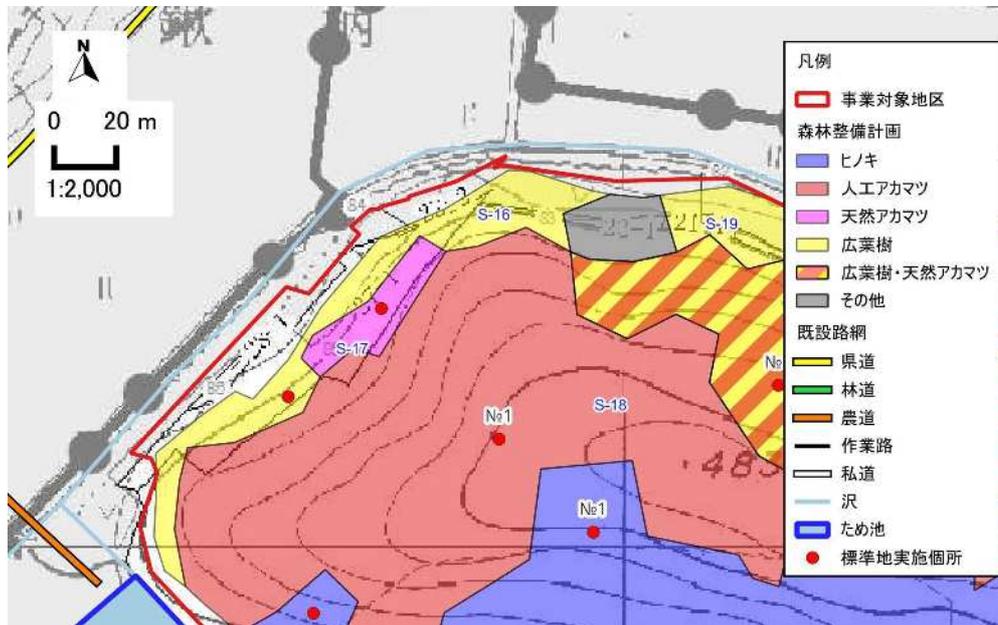


## 1.18 詳細設計(S-16 地区)

図表 220 S-16 地区



標準地調査の結果をもとに、S-16 地区の現況について図表 221 にまとめる。

図表 221 S-16 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹、13～14 齢級(62～67 年生)
実測面積	0.22ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	374 本(1,700 本/ha)、104.94m <sup>3</sup> (477.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 19cm、平均樹高 14m、形状比 74
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	コナラ、クリ、ヤマザクラ等の高木性の樹種が多い。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-16 地区の標準地

図表 222 S-16 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	242 本(1,100 本/ha)、76.34m <sup>3</sup> (347.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 20cm、平均樹高 14m
伐採率	64.7%(本数)、72.7%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 223 にまとめる。

図表 223 S-16 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	広葉樹	更新伐 ⇒	広葉樹
実測面積	0.22ha		0.22ha
本数	374 本(1,700 本/ha)		132 本(600 本/ha)
蓄積	104.94m <sup>3</sup> (477.0m <sup>3</sup> /ha)		28.60m <sup>3</sup> (130.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	19cm、14m		18cm、12m
相対幹距比(Sr)	17%		34%
形状比(H/D)	形状比 74		形状比 67

## ○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 224 S-16 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	13~14	更新伐 64.7% (整備後本数 600 本/ha)
...	...	...
令和 11 年	1	萌芽整理
...	...	...
令和 18 年	2~	除伐

## ○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

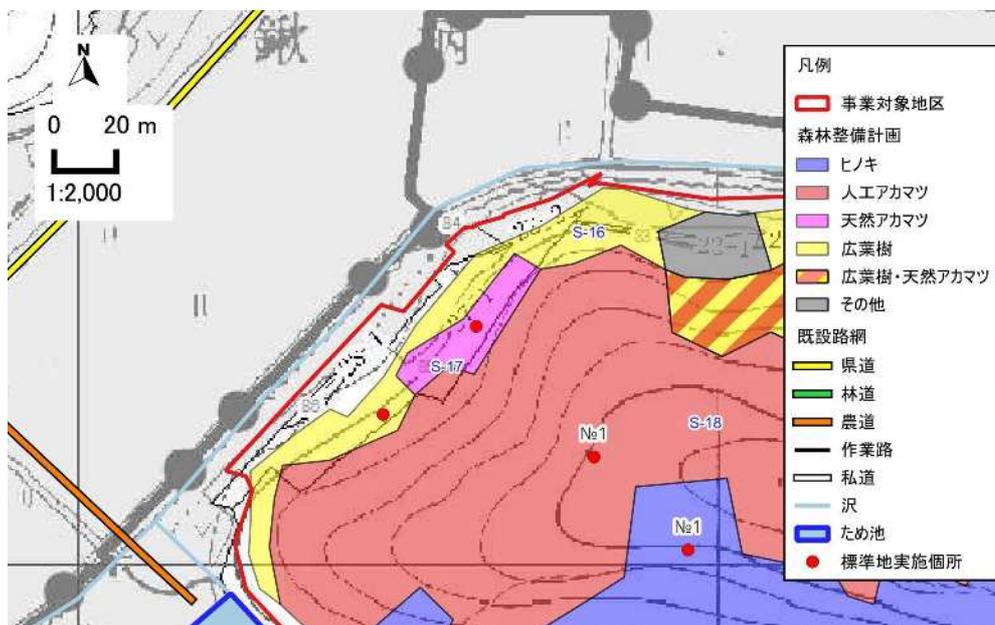
図表 225 S-16 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		76.34	m3	—	—	—
内 訳	AB材	51.53	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C材等	10.61	m3	13.9%	棚積み	—
	その他	14.12	m3	18.5%	棚積み	—
枝 葉		24.43	m3	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.19 詳細設計(S-17 地区)

図表 226 S-17 地区



標準地調査の結果をもとに、S-17 地区の現況について図表 227 にまとめる。

図表 227 S-17 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	天然アカマツ、13～14 齢級(62～67 年生)
実測面積	0.07ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	112 本(1,600 本/ha)、32.76m <sup>3</sup> (468.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 18cm、平均樹高 14m、形状比 78
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。マツ枯れが見られる。モミが混じる。ミズキ、ナラ等の高木性の広葉樹が多く混じる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-17 地区の標準地

図表 228 S-17 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	70 本(1,000 本/ha)、18.06m <sup>3</sup> (258.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 17cm、平均樹高 13m
伐採率	62.5%(本数)、55.1%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 229 にまとめる。

図表 229 S-17 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	天然アカマツ	更新伐 ⇒	天然アカマツ
実測面積	0.07ha		0.07ha
本数	112 本(1,600 本/ha)		42 本(600 本/ha)
蓄積	32.76m <sup>3</sup> (468.0m <sup>3</sup> /ha)		14.70m <sup>3</sup> (210.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	18cm、14m		20cm、14m
相対幹距比(Sr)	18%		29%
形状比(H/D)	形状比 78		形状比 70

○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 230 S-17 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	13~14	更新伐 62.5% (整備後本数 600 本/ha)
...	...	...
令和 11 年	1	萌芽整理
...	...	...
令和 18 年	2~	除伐

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

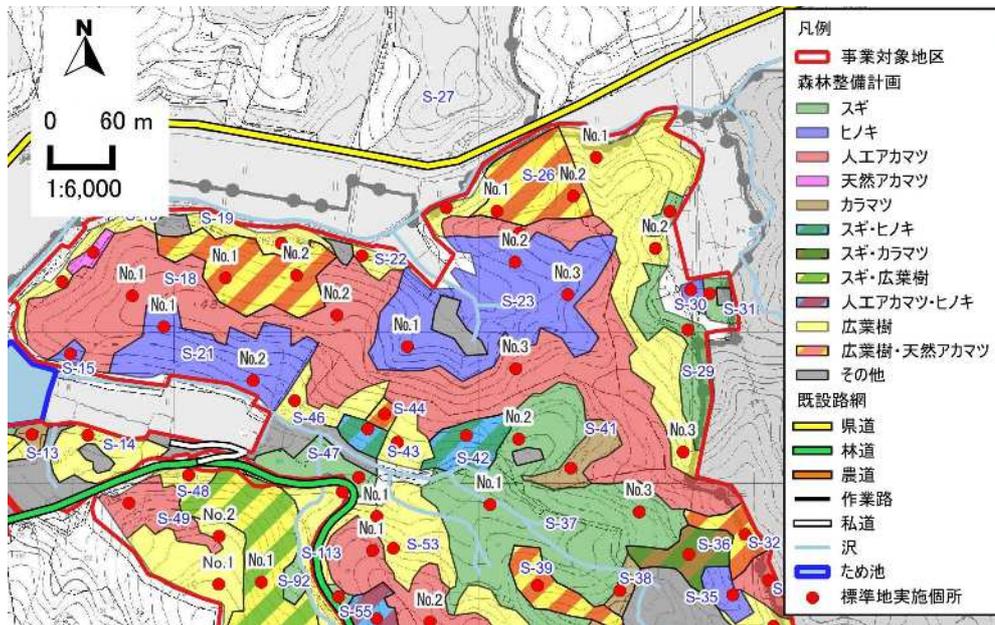
図表 231 S-17 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		18.06	m3	—	—	—
内 訳	AB材	12.19	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C材等	2.51	m3	13.9%	残置	—
	その他	3.34	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		4.15	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.20 詳細設計(S-18 地区)

図表 232 S-18 地区



標準地調査の結果をもとに、S-18 地区の現況について図表 233 にまとめる。

図表 233 S-18 地区の現況

施業種	人工林整理伐
樹種・齢級	人工アカマツ、13 齢級(62 年生)
実測面積	4.52ha
標準地 <sup>※1</sup>	3 箇所(300m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	4,068 本(900 本/ha)、3,189.76m <sup>3</sup> (705.7m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 30cm、平均樹高 22m、形状比 73
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。マツ枯れが見られる。ミズキ、ヤマザクラ等の高木性の広葉樹が多く混じる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-18 地区の No. 1 標準地



S-18 地区の No. 2 標準地



S-18 地区の No. 3 標準地

図表 234 S-18 地区の施業内容

施業種	人工林整理伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	1,808本(400本/ha)、1,976.60m <sup>3</sup> (437.3m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径34cm、平均樹高22m
伐採率	48.5%(本数)、59.8%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 235 にまとめる。

図表 235 S-18 地区の整備後の状況

区 分	整備前		整備後
樹種	人工アカマツ	人工林 整理伐 ⇒	人工アカマツ
実測面積	4.52ha		4.52ha
本数	4,068本(900本/ha)		2,260本(500本/ha)
蓄積	3,189.76m <sup>3</sup> (705.7m <sup>3</sup> /ha)		1,212.72m <sup>3</sup> (268.3m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	30cm、22m		27cm、21m
相対幹距比(Sr)	15%		21%
形状比(H/D)	形状比73		形状比78

#### ○将来計画

10年後には標準伐期齢に達しているため、アカマツを主伐し広葉樹林化を図る。

図表 236 S-18 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和8年	13	人工林整理伐 48.5%(整備後本数500本/ha)
...	...	...
令和18年	15	主伐 100.0%(整備後本数0本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

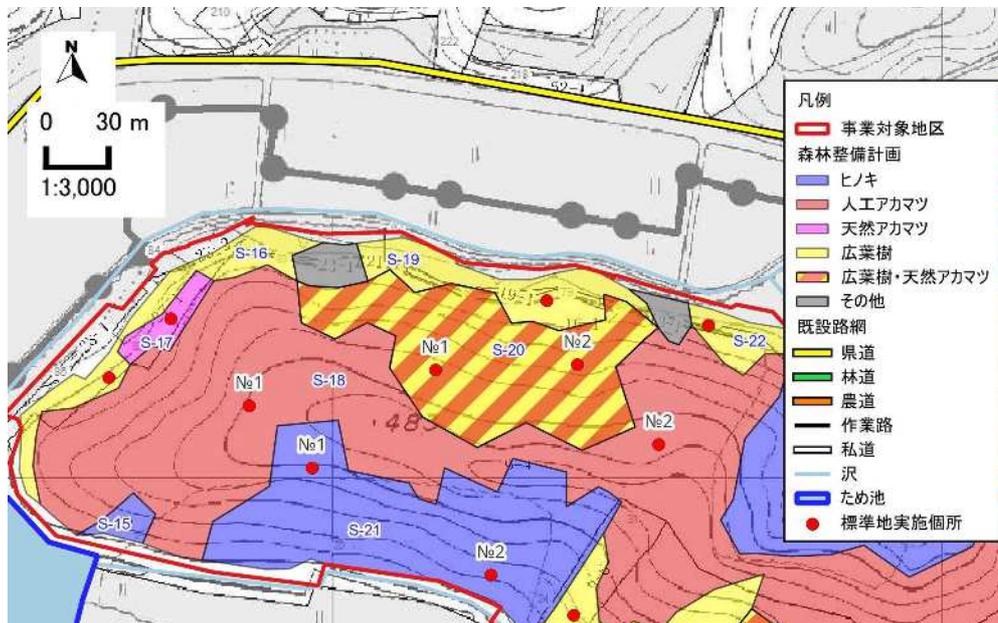
図表 237 S-18 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		1,976.60	m3	—	—	—
内 訳	AB材	1,334.21	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C材等	274.75	m3	13.9%	残置	—
	その他	365.67	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		454.62	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.21 詳細設計(S-19 地区)

図表 238 S-19 地区



標準地調査の結果をもとに、S-19 地区の現況について図表 239 にまとめる。

図表 239 S-19 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹、13 齢級(62 年生)
実測面積	0.24ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	216 本(900 本/ha)、111.12m <sup>3</sup> (463.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 26cm、平均樹高 18m、形状比 69
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	コナラ、クリ、ウワミズザクラ等の高木性の樹種が多い。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-19 地区の標準地

図表 240 S-19 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	144 本(600 本/ha)、80.16m <sup>3</sup> (334.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 26cm、平均樹高 18m
伐採率	66.7%(本数)、72.1%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ。の値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 241 にまとめる。

図表 241 S-19 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	広葉樹	更新伐 ⇒	広葉樹
実測面積	0.24ha		0.24ha
本数	216 本(900 本/ha)		72 本(300 本/ha)
蓄積	111.12m <sup>3</sup> (463.0m <sup>3</sup> /ha)		30.96m <sup>3</sup> (129.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	26cm、18m		25cm、17m
相対幹距比(Sr)	19%		34%
形状比(H/D)	形状比 69		形状比 68

## ○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 242 S-19 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	13	更新伐 66.7% (整備後本数 300 本/ha)
...	...	...
令和 11 年	1	萌芽整理
...	...	...
令和 18 年	2~	除伐

## ○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

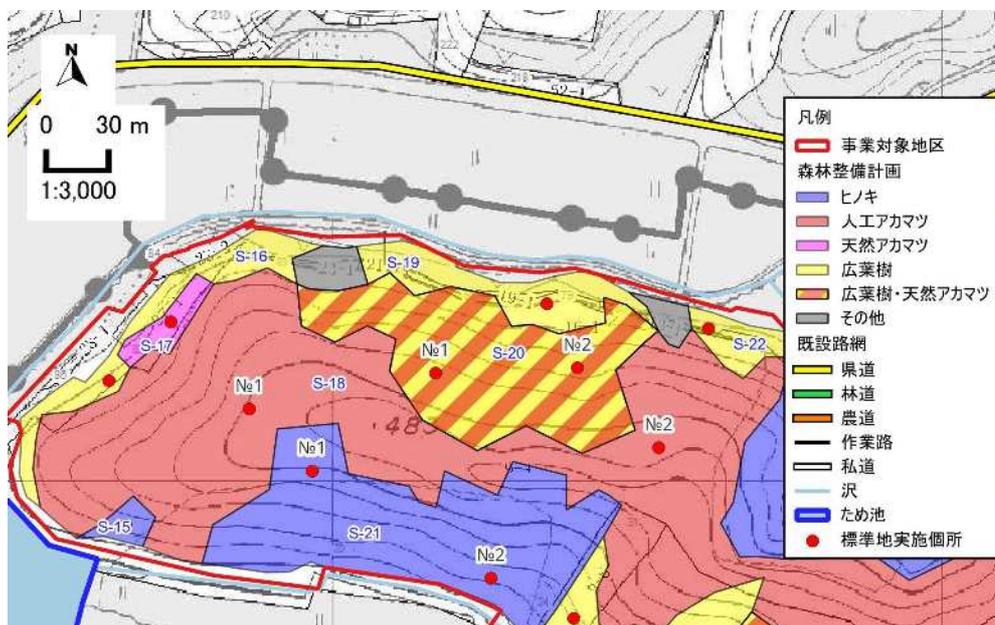
図表 243 S-19 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		80.16	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	54.11	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C 材等	11.14	m3	13.9%	棚積み	—
	その他	14.83	m3	18.5%	棚積み	—
枝 葉		25.65	m3	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.22 詳細設計(S-20 地区)

図表 244 S-20 地区



標準地調査の結果をもとに、S-20 地区の現況について図表 245 にまとめる。

図表 245 S-20 地区の現況

施業種	人工林整理伐
樹種・齢級	人工アカマツ・広葉樹、13 齢級(62 年生)
実測面積	0.80ha
標準地 <sup>※1</sup>	2 箇所(200m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	640 本(800 本/ha)、363.60m <sup>3</sup> (454.5m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 27cm、平均樹高 20m、形状比 74
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。マツ枯れが見られる。クリ、ミズキ、サクラ等の高木性の広葉樹が多く混じる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-20 地区の No. 1 標準地



S-20 地区の No. 2 標準地

図表 246 S-20 地区の施業内容

施業種	人工林整理伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	320 本(400 本/ha)、149.60m <sup>3</sup> (187.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 26cm、平均樹高 20m
伐採率	43.7%(本数)、41.4%(材積)
その他	なし

※1 上層木のための値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 247 にまとめる。

図表 247 S-20 地区の整備後の状況

区 分	整備前	人工林 整理伐 ⇒	整備後
樹種	人工アカマツ・広葉樹		人工アカマツ・広葉樹
実測面積	0.80ha		0.80ha
本数	640 本(800 本/ha)		320 本(400 本/ha)
蓄積	363.60m <sup>3</sup> (454.5m <sup>3</sup> /ha)		214.00m <sup>3</sup> (267.5m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	27cm、20m		28cm、21m
相対幹距比(Sr)	18%		24%
形状比(H/D)	形状比 74		形状比 75

○将来計画

10 年後には標準伐期齢に達しているため、アカマツを主伐し広葉樹林化を図る。

図表 248 S-20 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	13	人工林整理伐 43.7%(整備後本数 400 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	15	主伐 100.0%(整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

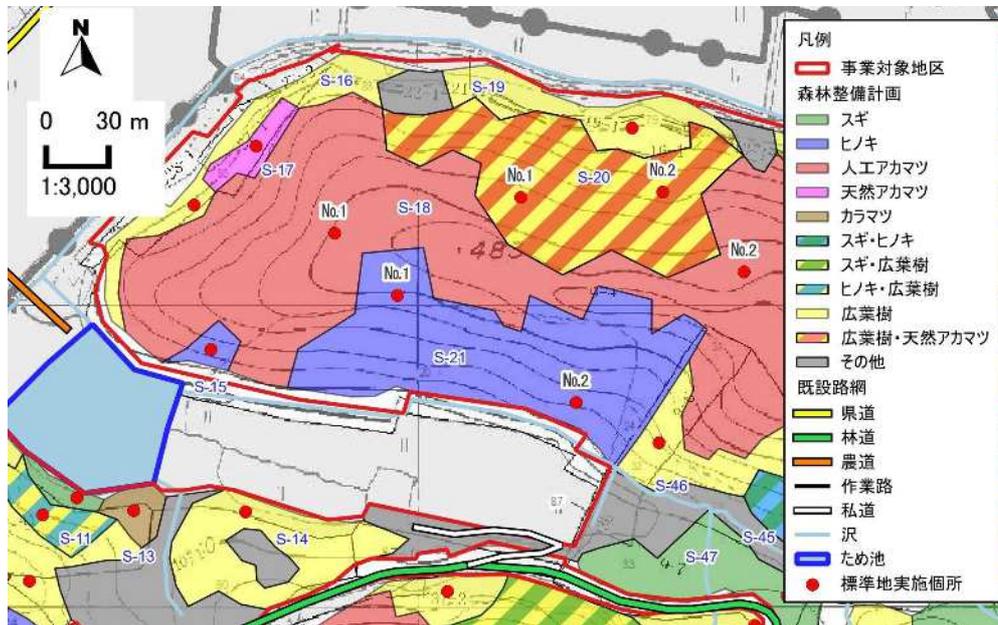
図表 249 S-20 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		149.60	m <sup>3</sup>	—	—	—
内 訳	AB 材	100.98	m <sup>3</sup>	67.5%	搬出利用	チップ材
	C 材等	20.79	m <sup>3</sup>	13.9%	残置	—
	その他	27.68	m <sup>3</sup>	18.5%	残置	—
枝 葉		34.41	m <sup>3</sup>	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.23 詳細設計(S-21 地区)

図表 250 S-21 地区



標準地調査の結果をもとに、S-21 地区の現況について図表 251 にまとめる。

図表 251 S-21 地区の現況

施業種	利用間伐
樹種・齢級	ヒノキ、9 齢級(42 年生)
実測面積	0.98ha
標準地 <sup>※1</sup>	2 箇所(200m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	1,470 本(1,500 本/ha)、606.62m <sup>3</sup> (619.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 25cm、平均樹高 18m、形状比 72
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は乏しく、高木性・低木性の広葉樹が主に見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-21 地区のNo.1 標準地



S-21 地区のNo.2 標準地

図表 252 S-21 地区の施業内容

施業種	利用間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	588 本(600 本/ha)、189.14m <sup>3</sup> (193.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 23cm、平均樹高 17m
伐採率	36.9%(本数)、31.4%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 253 にまとめる。

図表 253 S-21 地区の整備後の状況

区 分	整備前	利用間伐 ⇒	整備後
樹種	ヒノキ		ヒノキ
実測面積	0.98ha		0.98ha
本数	1,470 本(1,500 本/ha)		882 本(900 本/ha)
蓄積	606.62m <sup>3</sup> (619.0m <sup>3</sup> /ha)		417.48m <sup>3</sup> (426.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	25cm、18m		27cm、18m
相対幹距比(Sr)	14%		19%
形状比(H/D)	形状比 72		形状比 67

○将来計画

10 年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 254 S-21 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	9	利用間伐 36.9%(整備後本数 900 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	11	主伐 100.0%(整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

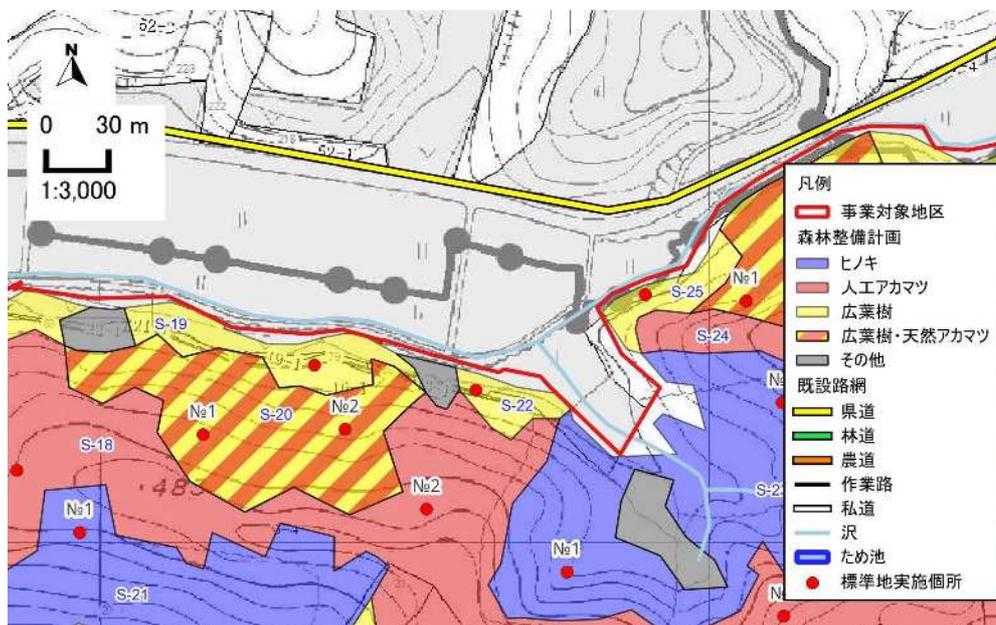
図表 255 S-21 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		189.14	m <sup>3</sup>	—	—	—
内 訳	AB 材	127.67	m <sup>3</sup>	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	26.29	m <sup>3</sup>	13.9%	残置	—
	その他	34.99	m <sup>3</sup>	18.5%	残置	—
枝 葉		43.50	m <sup>3</sup>	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.24 詳細設計(S-22 地区)

図表 256 S-22 地区



標準地調査の結果をもとに、S-22 地区の現況について図表 257 にまとめる。

図表 257 S-22 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹、13 齢級(62 年生)
実測面積	0.09ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	135 本(1,500 本/ha)、25.38m <sup>3</sup> (282.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 15cm、平均樹高 12m、形状比 80
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	コナラ、ハクウンボク、ヤマザクラ等の高木性の樹種が多い。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-22 地区の標準地

図表 258 S-22 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	90 本(1,000 本/ha)、21.33m <sup>3</sup> (237.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 17cm、平均樹高 14m
伐採率	66.7%(本数)、84.0%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ。の値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 259 にまとめる。

図表 259 S-22 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	広葉樹	更新伐 ⇒	広葉樹
実測面積	0.09ha		0.09ha
本数	135 本(1,500 本/ha)		45 本(500 本/ha)
蓄積	25.38m <sup>3</sup> (282.0m <sup>3</sup> /ha)		4.05m <sup>3</sup> (45.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	15cm、12m		11cm、9m
相対幹距比(Sr)	22%		50%
形状比(H/D)	形状比 80		形状比 82

○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 260 S-22 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	13	更新伐 66.7% (整備後本数 500 本/ha)
...	...	...
令和 11 年	1	萌芽整理
...	...	...
令和 18 年	2~	除伐

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

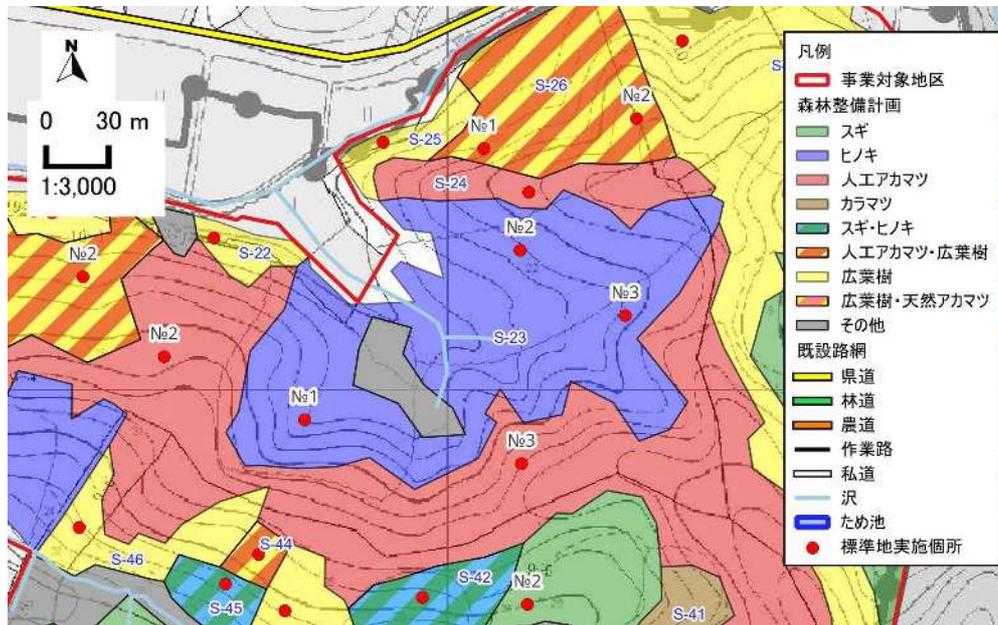
図表 261 S-22 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		21.33	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	14.40	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C 材等	2.96	m3	13.9%	棚積み	—
	その他	3.95	m3	18.5%	棚積み	—
枝 葉		6.83	m3	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.25 詳細設計(S-23 地区)

図表 262 S-23 地区



標準地調査の結果をもとに、S-23 地区の現況について図表 263 にまとめる。

図表 263 S-23 地区の現況

施業種	利用間伐
樹種・齢級	ヒノキ、9 齢級(42 年生)
実測面積	1.92ha
標準地 <sup>※1</sup>	3 箇所(300m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	2,496 本(1,300 本/ha)、1,380.48m <sup>3</sup> (719.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 26cm、平均樹高 20m、形状比 77
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は乏しく、高木性・低木性の広葉樹が主に見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-23 地区のNo.1 標準地



S-23 地区のNo.2 標準地



S-23 地区のNo.3 標準地

図表 264 S-23 地区の施業内容

施業種	利用間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	768 本(400 本/ha)、391.10m <sup>3</sup> (203.7m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 25cm、平均樹高 19m
伐採率	32.9%(本数)、28.5%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 265 にまとめる。

図表 265 S-23 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	ヒノキ	利用間伐 ⇒	ヒノキ
実測面積	1.92ha		1.92ha
本数	2,496 本(1,300 本/ha)		1,728 本(900 本/ha)
蓄積	1,380.48m <sup>3</sup> (719.0m <sup>3</sup> /ha)		989.38m <sup>3</sup> (515.3m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	26cm、20m		28cm、20m
相対幹距比(Sr)	14%		17%
形状比(H/D)	形状比 77		形状比 71

#### ○将来計画

10 年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 266 S-23 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	9	利用間伐 32.9%(整備後本数 900 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	11	主伐 100.0%(整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

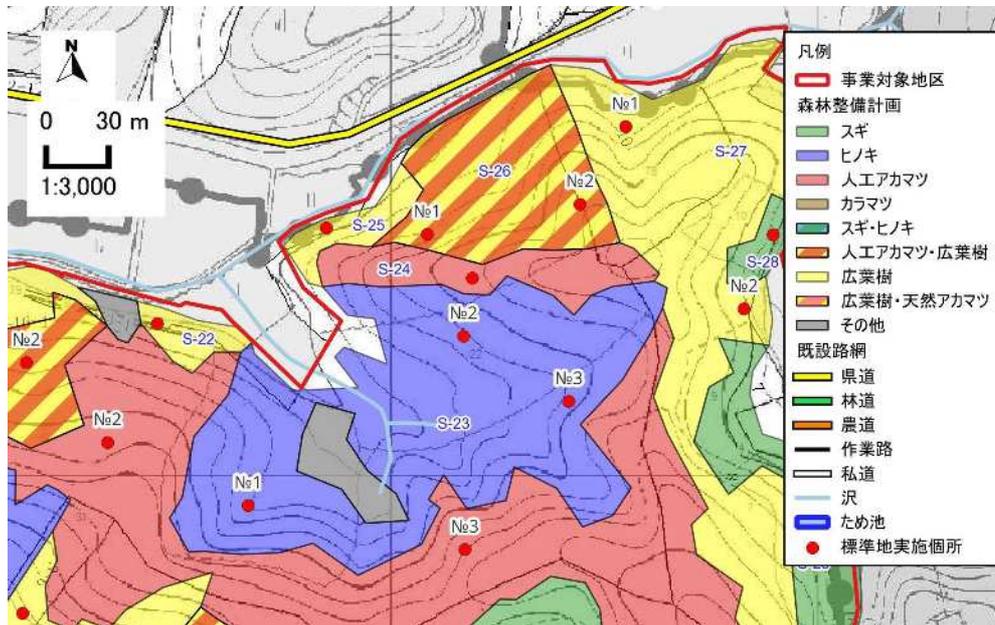
図表 267 S-23 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		391.10	m3	—	—	—
内 訳	AB材	263.99	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C材等	54.36	m3	13.9%	残置	—
	その他	72.35	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		89.95	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.26 詳細設計(S-24 地区)

図表 268 S-24 地区



標準地調査の結果をもとに、S-24 地区の現況について図表 269 にまとめる。

図表 269 S-24 地区の現況

施業種	人工林整理伐
樹種・齢級	人工アカマツ、13 齢級(62 年生)
実測面積	0.30ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	270 本(900 本/ha)、174.60m <sup>3</sup> (582.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 28cm、平均樹高 20m、形状比 71
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。マツ枯れが見られる。ミズギ、サクラ等の高木性の広葉樹が多く混じる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-24 地区の標準地

図表 270 S-24 地区の施業内容

施業種	人工林整理伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	120 本(400 本/ha)、90.60m <sup>3</sup> (302.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 30cm、平均樹高 21m
伐採率	44.4%(本数)、51.9%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ。の値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 271 にまとめる。

図表 271 S-24 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	人工アカマツ	人工林 整理伐 ⇒	人工アカマツ
実測面積	0.30ha		0.30ha
本数	270 本(900 本/ha)		150 本(500 本/ha)
蓄積	174.60m <sup>3</sup> (582.0m <sup>3</sup> /ha)		84.00m <sup>3</sup> (280.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	28cm、20m		26cm、20m
相対幹距比(Sr)	17%		22%
形状比(H/D)	形状比 71		形状比 77

## ○将来計画

10年後には標準伐期齢に達しているため、アカマツを主伐し広葉樹林化を図る。

図表 272 S-24 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	13	人工林整理伐 44.4% (整備後本数 500 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	15	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

## ○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

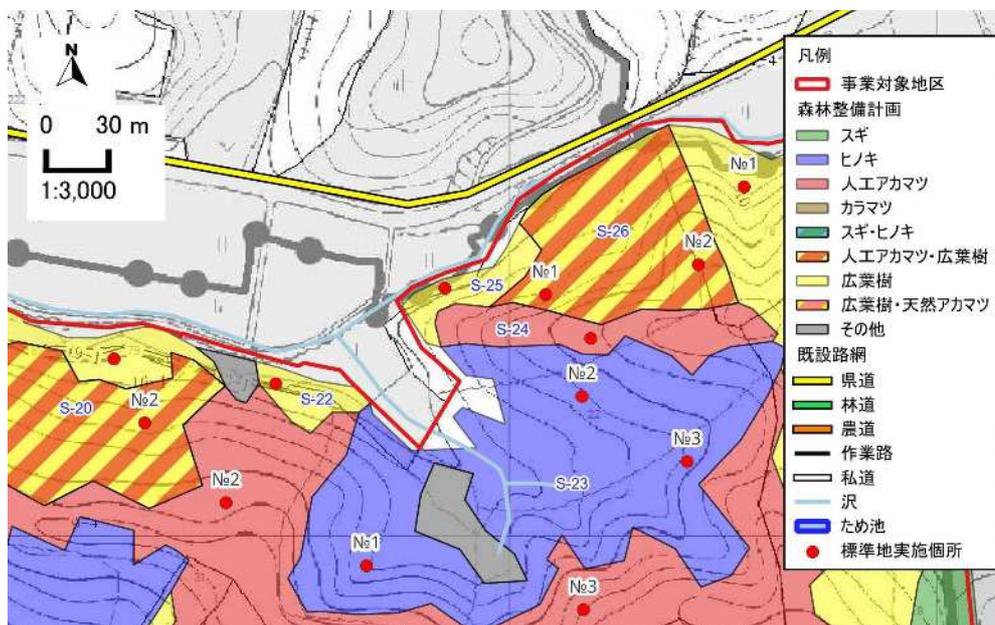
図表 273 S-24 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		90.60	m3	—	—	—
内 訳	AB材	61.16	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C材等	12.59	m3	13.9%	残置	—
	その他	16.76	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		20.84	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.27 詳細設計(S-25 地区)

図表 274 S-25 地区



標準地調査の結果をもとに、S-25 地区の現況について図表 275 にまとめる。

図表 275 S-25 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹、13 齢級(62 年生)
実測面積	0.12ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	144 本(1,200 本/ha)、37.92m <sup>3</sup> (316.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 19cm、平均樹高 12m、形状比 63
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	コナラ、クリ、ヤマザクラ等の高木性の樹種が多い。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-25 地区の標準地

図表 276 S-25 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	96 本(800 本/ha)、33.48m <sup>3</sup> (279.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 22cm、平均樹高 13m
伐採率	66.7%(本数)、88.3%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 277 にまとめる。

図表 277 S-25 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	広葉樹	更新伐 ⇒	広葉樹
実測面積	0.12ha		0.12ha
本数	144 本(1,200 本/ha)		48 本(400 本/ha)
蓄積	37.92m <sup>3</sup> (316.0m <sup>3</sup> /ha)		4.44m <sup>3</sup> (37.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	19cm、12m		13cm、11m
相対幹距比(Sr)	24%		45%
形状比(H/D)	形状比 63		形状比 85

○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 278 S-25 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	13	更新伐 66.7% (整備後本数 400 本/ha)
...	...	...
令和 11 年	1	萌芽整理
...	...	...
令和 18 年	2~	除伐

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

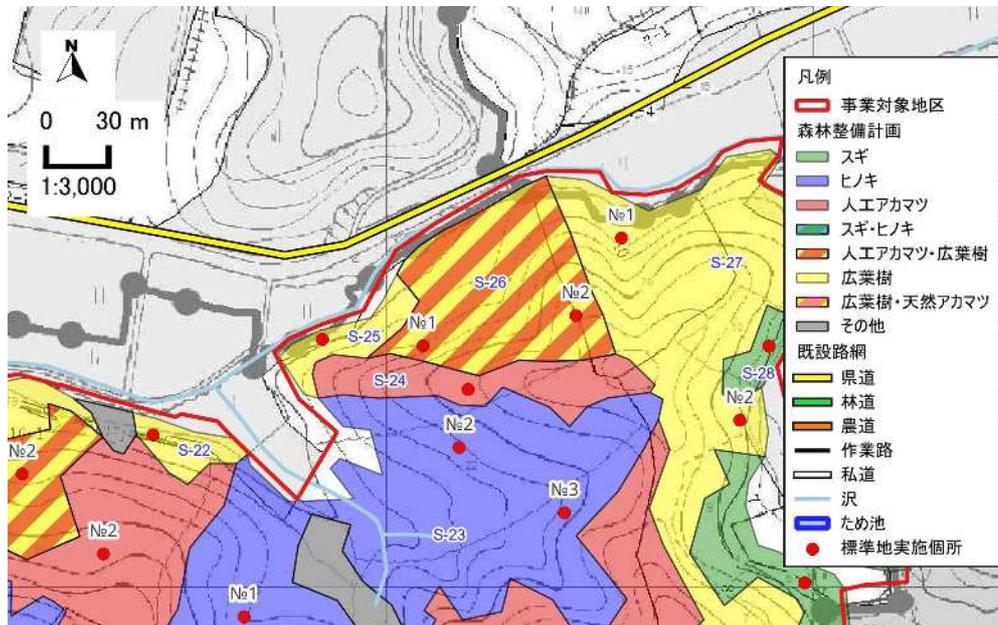
図表 279 S-25 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		33.48	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	22.60	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C 材等	4.65	m3	13.9%	棚積み	—
	その他	6.19	m3	18.5%	棚積み	—
枝 葉		10.71	m3	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.28 詳細設計(S-26 地区)

図表 280 S-26 地区



標準地調査の結果をもとに、S-26 地区の現況について図表 281 にまとめる。

図表 281 S-26 地区の現況

施業種	人工林整理伐
樹種・齢級	人工アカマツ・広葉樹、13 齢級(62 年生)
実測面積	0.66ha
標準地 <sup>※1</sup>	2 箇所(200m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	594 本(900 本/ha)、202.29m <sup>3</sup> (306.5m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 23cm、平均樹高 17m、形状比 74
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。マツ枯れが見られる。クリ、ヤマザクラ等の高木性の広葉樹が多く混じる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-26 地区のNo.1 標準地



S-26 地区のNo.2 標準地

図表 282 S-26 地区の施業内容

施業種	人工林整理伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	264 本(400 本/ha)、87.78m <sup>3</sup> (133.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 23cm、平均樹高 17m
伐採率	38.8%(本数)、43.0%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ。の値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 283 にまとめる。

図表 283 S-26 地区の整備後の状況

区 分	整備前	人工林 整理伐 ⇒	整備後
樹種	人工アカマツ・広葉樹		人工アカマツ・広葉樹
実測面積	0.66ha		0.66ha
本数	594 本(900 本/ha)		330 本(500 本/ha)
蓄積	202.29m <sup>3</sup> (306.5m <sup>3</sup> /ha)		114.51m <sup>3</sup> (173.5m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	23cm、17m		22cm、17m
相対幹距比(Sr)	20%		26%
形状比(H/D)	形状比 74		形状比 77

○将来計画

10 年後には標準伐期齢に達しているため、アカマツを主伐し広葉樹林化を図る。

図表 284 S-26 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	13	人工林整理伐 38.8%(整備後本数 500 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	15	主伐 100.0%(整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

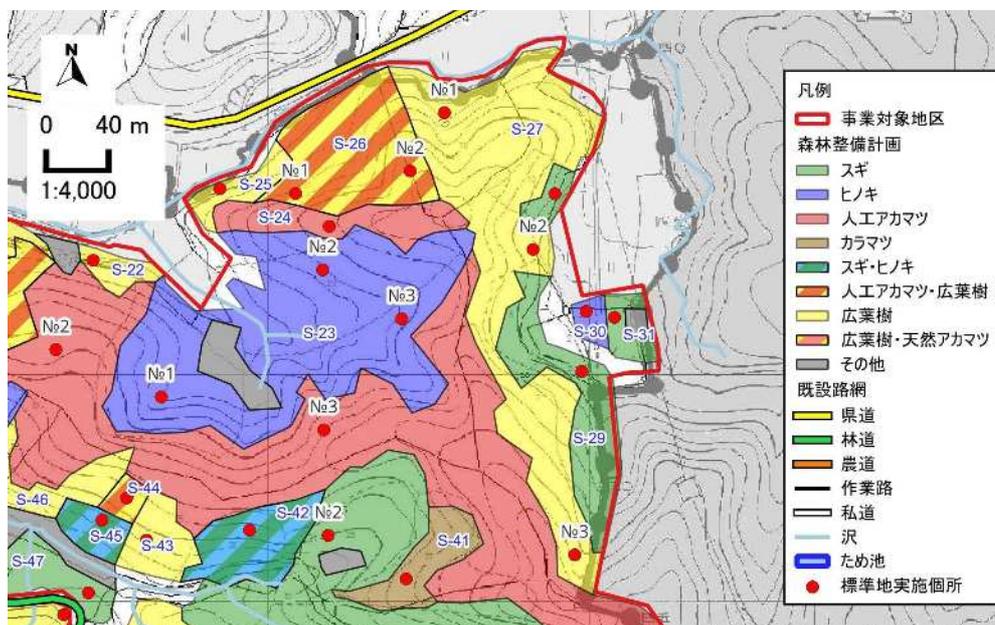
図表 285 S-26 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		87.78	m <sup>3</sup>	—	—	—
内 訳	AB 材	59.25	m <sup>3</sup>	67.5%	搬出利用	チップ材
	C 材等	12.20	m <sup>3</sup>	13.9%	残置	—
	その他	16.24	m <sup>3</sup>	18.5%	残置	—
枝 葉		20.19	m <sup>3</sup>	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.29 詳細設計(S-27 地区)

図表 286 S-27 地区



標準地調査の結果をもとに、S-27 地区の現況について図表 287 にまとめる。

図表 287 S-27 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹、9～14 齢級(43～67 年生)
実測面積	1.66ha
標準地 <sup>※1</sup>	3 箇所(300m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	2,656 本(1,600 本/ha)、510.12m <sup>3</sup> (307.3m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 15cm、平均樹高 13m、形状比 87
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	コナラ、クヌギ、ヤマザクラ等の高木性の樹種が多い。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-27 地区のNo.1 標準地



S-27 地区のNo.2 標準地



S-27 地区のNo.3 標準地

図表 288 S-27 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	1,826本(1,100本/ha)、395.58m <sup>3</sup> (238.3m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径16cm、平均樹高13m
伐採率	66.8%(本数)、75.2%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 289 にまとめる。

図表 289 S-27 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	広葉樹	更新伐 ⇒	広葉樹
実測面積	1.66ha		1.66ha
本数	2,656本(1,600本/ha)		830本(500本/ha)
蓄積	510.12m <sup>3</sup> (307.3m <sup>3</sup> /ha)		114.54m <sup>3</sup> (69.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	15cm、13m		14cm、11m
相対幹距比(Sr)	19%		41%
形状比(H/D)	形状比 87		形状比 79

○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 290 S-27 地区の将来計画

年	齢級	施業
令和8年	9~14	更新伐 66.8%(整備後本数500本/ha)
...	...	...
令和11年	1	萌芽整理
...	...	...
令和18年	2~	除伐

## ○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

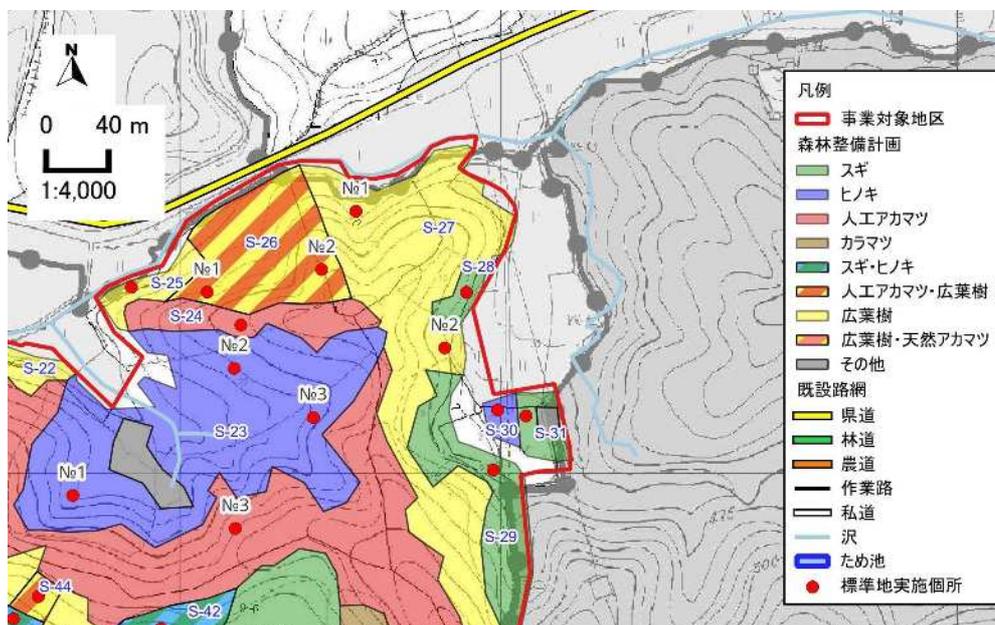
図表 291 S-27 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		395.58	m3	—	—	—
内 訳	AB材	267.02	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C材等	54.99	m3	13.9%	棚積み	—
	その他	73.18	m3	18.5%	棚積み	—
枝 葉		126.59	m3	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.30 詳細設計(S-28 地区)

図表 292 S-28 地区



標準地調査の結果をもとに、S-28 地区の現況について図表 293 にまとめる。

図表 293 S-28 地区の現況

施業種	利用間伐
樹種・齢級	スギ、14 齢級(67 年生)
実測面積	0.08ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	72 本(900 本/ha)、43.68m <sup>3</sup> (546.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 27cm、平均樹高 21m、形状比 78
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は乏しく、低木性・高木性の広葉樹が見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-28 地区の標準地

図表 294 S-28 地区の施業内容

施業種	利用間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	24 本(300 本/ha)、8.64m <sup>3</sup> (108.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 22cm、平均樹高 19m
伐採率	33.3%(本数)、19.8%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 295 にまとめる。

図表 295 S-28 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	スギ	利用間伐 ⇒	スギ
実測面積	0.08ha		0.08ha
本数	72 本(900 本/ha)		48 本(600 本/ha)
蓄積	43.68m <sup>3</sup> (546.0m <sup>3</sup> /ha)		35.04m <sup>3</sup> (438.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	27cm、21m		30cm、22m
相対幹距比(Sr)	16%		19%
形状比(H/D)	形状比 78		形状比 73

○将来計画

10年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 296 S-28 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	14	利用間伐 33.3% (整備後本数 600 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	16	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

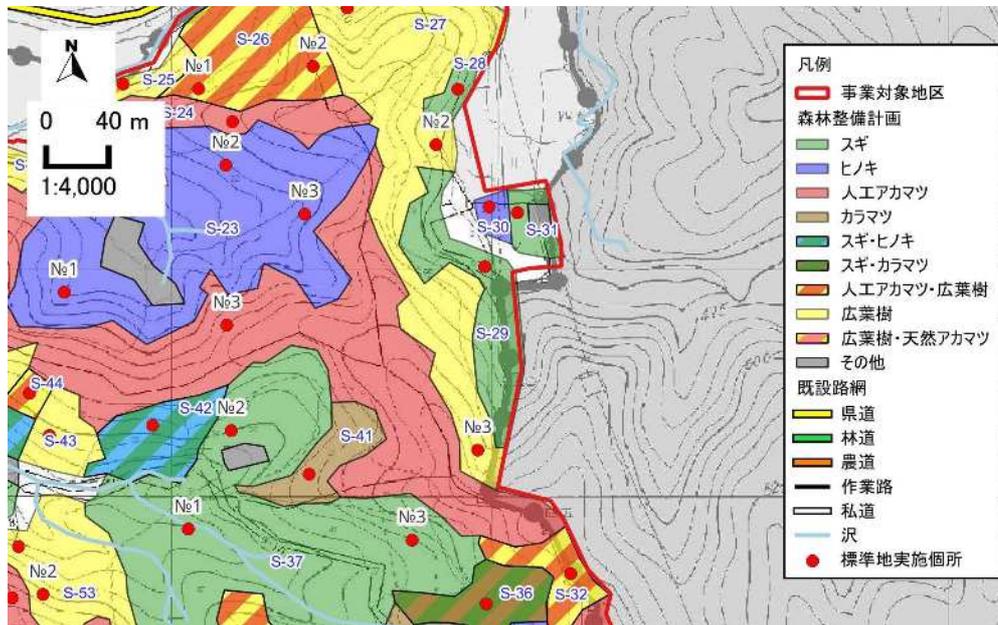
図表 297 S-28 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		8.64	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	5.83	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	1.20	m3	13.9%	残置	—
	その他	1.60	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		1.99	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.31 詳細設計(S-29 地区)

図表 298 S-29 地区



標準地調査の結果をもとに、S-29 地区の現況について図表 299 にまとめる。

図表 299 S-29 地区の現況

施業種	利用間伐
樹種・齢級	スギ、15 齢級(71 年生)
実測面積	0.48ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	576 本(1,200 本/ha)、554.40m <sup>3</sup> (1,155.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 32cm、平均樹高 25m、形状比 78
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は乏しく、低木性の広葉樹が主に見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-29 地区の標準地

図表 300 S-29 地区の施業内容

施業種	利用間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	192 本(400 本/ha)、159.84m <sup>3</sup> (333.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 30cm、平均樹高 24m
伐採率	33.3%(本数)、28.8%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 301 にまとめる。

図表 301 S-29 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	スギ	利用間伐 ⇒	スギ
実測面積	0.48ha		0.48ha
本数	576 本(1,200 本/ha)		384 本(800 本/ha)
蓄積	554.40m <sup>3</sup> (1,155.0m <sup>3</sup> /ha)		394.56m <sup>3</sup> (822.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	32cm、25m		33cm、26m
相対幹距比(Sr)	12%		14%
形状比(H/D)	形状比 78		形状比 79

## ○将来計画

10年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 302 S-29 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	15	利用間伐 33.3%(整備後本数 800 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	17	主伐 100.0%(整備後本数 0 本/ha)

## ○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

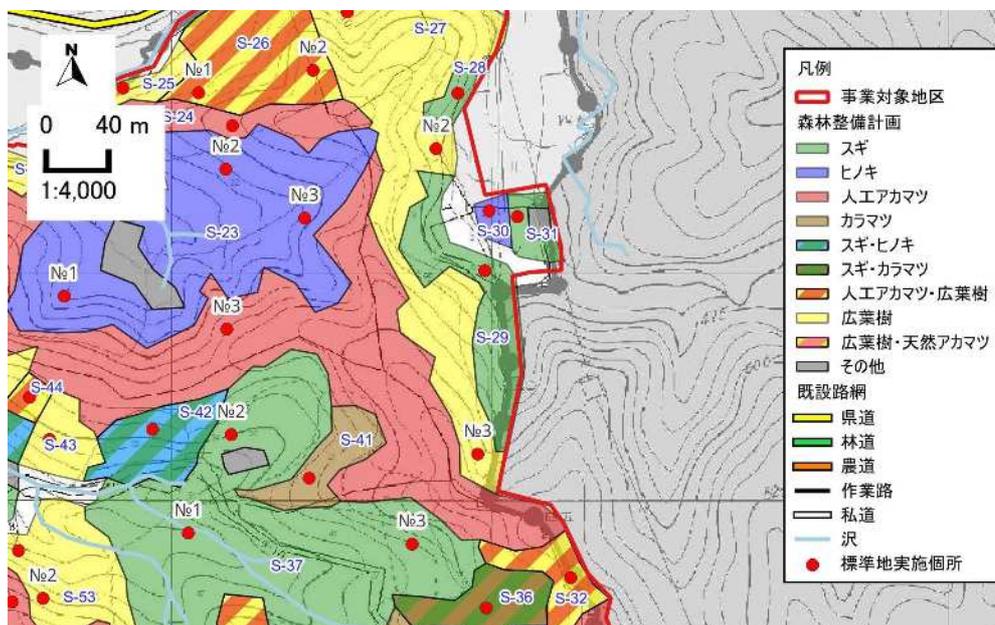
図表 303 S-29 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		159.84	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	107.89	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	22.22	m3	13.9%	残置	—
	その他	29.57	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		36.76	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.32 詳細設計(S-30 地区)

図表 304 S-30 地区



標準地調査の結果をもとに、S-30 地区の現況について図表 305 にまとめる。

図表 305 S-30 地区の現況

施業種	利用間伐
樹種・齢級	ヒノキ、6 齢級(29 年生)
実測面積	0.06ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	90 本(1,500 本/ha)、20.34m <sup>3</sup> (339.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 19cm、平均樹高 15m、形状比 79
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。漏脂病が発生している。
下層植生	下層植生は極めて乏しく、ほとんど見られない。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-30 地区の標準地

図表 306 S-30 地区の施業内容

施業種	利用間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	30 本(500 本/ha)、6.06m <sup>3</sup> (101.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 18cm、平均樹高 14m
伐採率	33.3%(本数)、29.8%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 307 にまとめる。

図表 307 S-30 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	ヒノキ	利用間伐 ⇒	ヒノキ
実測面積	0.06ha		0.06ha
本数	90 本(1,500 本/ha)		60 本(1,000 本/ha)
蓄積	20.34m <sup>3</sup> (339.0m <sup>3</sup> /ha)		14.28m <sup>3</sup> (238.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	19cm、15m		20cm、15m
相対幹距比(Sr)	17%		21%
形状比(H/D)	形状比 79		形状比 75

○将来計画

林木の成長に伴い、再び林内の光環境が悪化していくため、今後 10 年程度の間隔で間伐を実施することが望ましい。

図表 308 S-30 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	7	利用間伐 33.3%(整備後本数 1,000 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	9	間伐 30.0%(整備後本数 700 本/ha)
...	...	...
令和 28 年	11	主伐 100.0%(整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

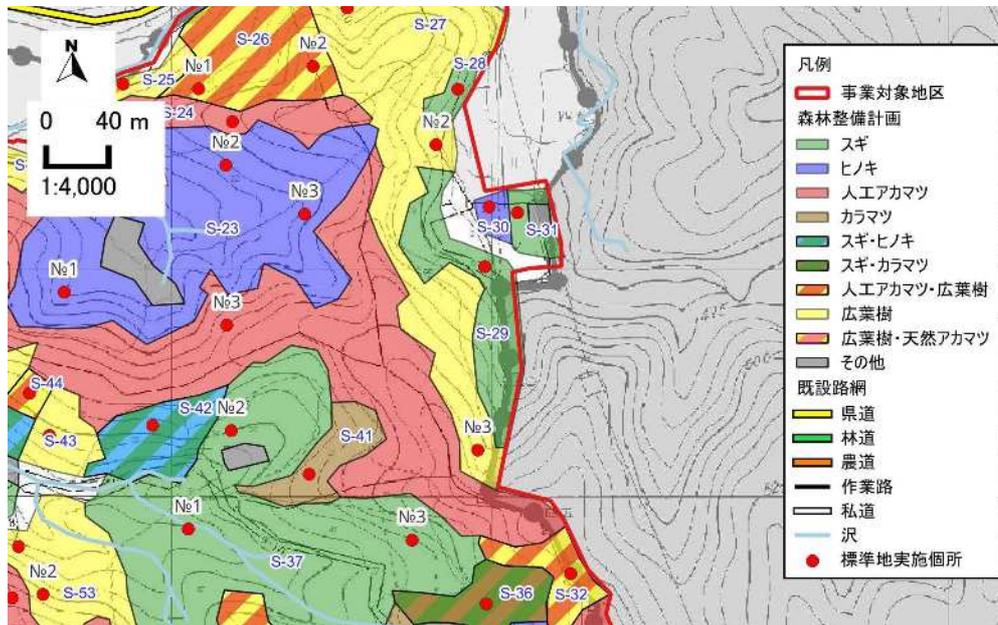
図表 309 S-30 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		6.06	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	4.09	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	0.84	m3	13.9%	残置	—
	その他	1.12	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		1.39	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.33 詳細設計(S-31 地区)

図表 310 S-31 地区



標準地調査の結果をもとに、S-31 地区の現況について図表 311 にまとめる。

図表 311 S-31 地区の現況

施業種	利用間伐
樹種・齢級	スギ、6 齢級(29 年生)
実測面積	0.10ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	190 本(1,900 本/ha)、106.20m <sup>3</sup> (1,062.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 26cm、平均樹高 20m、形状比 77
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	二又等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は極めて乏しく、ほとんど見られない。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-31 地区の標準地

図表 312 S-31 地区の施業内容

施業種	利用間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	70 本(700 本/ha)、18.40m <sup>3</sup> (184.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 20cm、平均樹高 16m
伐採率	36.8%(本数)、17.3%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 313 にまとめる。

図表 313 S-31 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	スギ	利用間伐 ⇒	スギ
実測面積	0.10ha		0.10ha
本数	190 本(1,900 本/ha)		120 本(1,200 本/ha)
蓄積	106.20m <sup>3</sup> (1,062.0m <sup>3</sup> /ha)		87.80m <sup>3</sup> (878.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	26cm、20m		29cm、21m
相対幹距比(Sr)	11%		14%
形状比(H/D)	形状比 77		形状比 72

## ○将来計画

林木の成長に伴い、再び林内の光環境が悪化していくため、今後 10 年程度の間隔で間伐を実施することが望ましい。

図表 314 S-31 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	7	利用間伐 36.8%(整備後本数 1,200 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	9	間伐 30.0%(整備後本数 840 本/ha)
...	...	...
令和 28 年	11	主伐 100.0%(整備後本数 0 本/ha)

## ○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

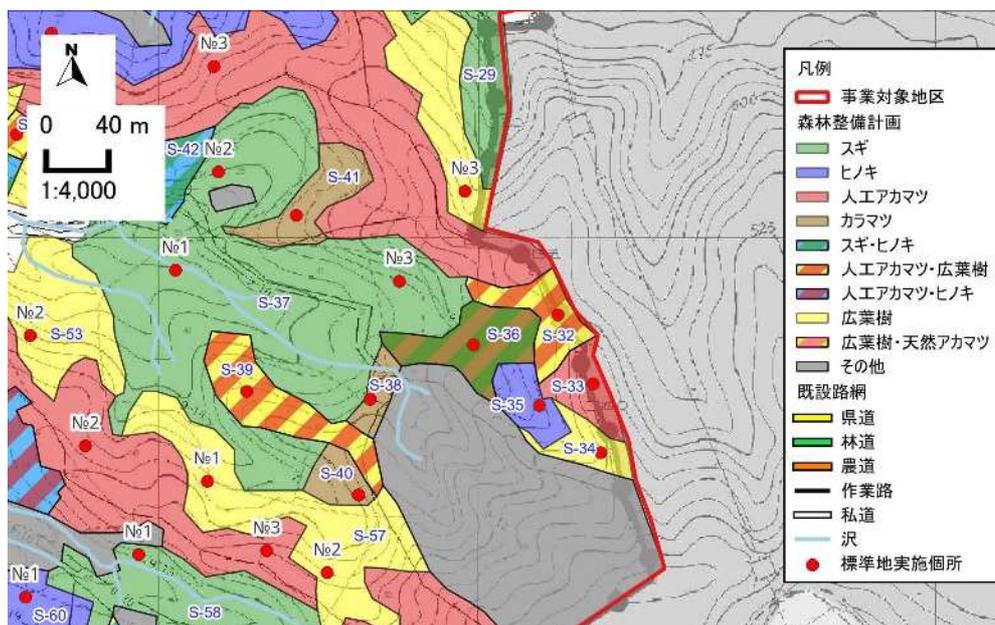
図表 315 S-31 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		18.40	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	12.42	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	2.56	m3	13.9%	残置	—
	その他	3.40	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		4.23	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.34 詳細設計(S-32 地区)

図表 316 S-32 地区



標準地調査の結果をもとに、S-32 地区の現況について図表 317 にまとめる。

図表 317 S-32 地区の現況

施業種	人工林整理伐
樹種・齢級	人工アカマツ・広葉樹、13 齢級(62 年生)
実測面積	0.21ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	252 本(1,200 本/ha)、136.50m <sup>3</sup> (650.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 22cm、平均樹高 15m、形状比 68
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。マツ枯れが見られる。ヤマザクラ、ハクウンボク等の高木性の広葉樹が多く混じる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-32 地区の標準地

図表 318 S-32 地区の施業内容

施業種	人工林整理伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	126 本(600 本/ha)、56.07m <sup>3</sup> (267.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 19cm、平均樹高 14m
伐採率	50.0%(本数)、41.1%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 319 にまとめる。

図表 319 S-32 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	人工アカマツ・広葉樹	人工林 整理伐 ⇒	人工アカマツ・広葉樹
実測面積	0.21ha		0.21ha
本数	252 本(1,200 本/ha)		126 本(600 本/ha)
蓄積	136.50m <sup>3</sup> (650.0m <sup>3</sup> /ha)		80.43m <sup>3</sup> (383.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	22cm、15m		25cm、16m
相対幹距比(Sr)	19%		26%
形状比(H/D)	形状比 68		形状比 64

○将来計画

10年後には標準伐期齢に達しているため、アカマツを主伐し広葉樹林化を図る。

図表 320 S-32 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	13	人工林整理伐 50.0%(整備後本数 600 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	15	主伐 100.0%(整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

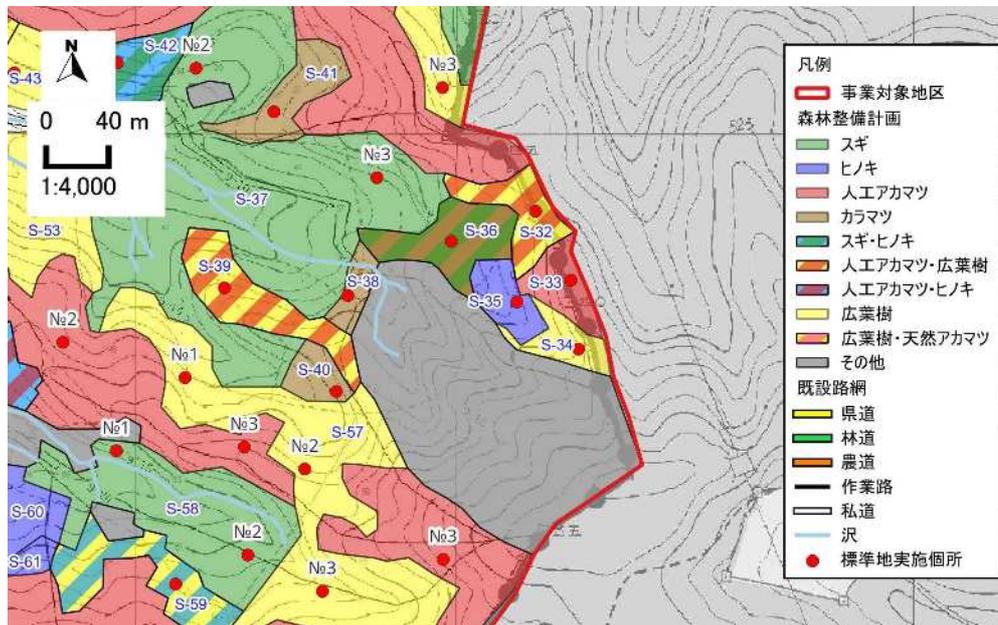
図表 321 S-32 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		56.07	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	37.85	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C 材等	7.79	m3	13.9%	残置	—
	その他	10.37	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		12.90	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.35 詳細設計(S-33 地区)

図表 322 S-33 地区



標準地調査の結果をもとに、S-33 地区の現況について図表 323 にまとめる。

図表 323 S-33 地区の現況

施業種	人工林整理伐
樹種・齢級	人工アカマツ、13 齢級(62 年生)
実測面積	0.16ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	144 本(900 本/ha)、99.04m <sup>3</sup> (619.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 31cm、平均樹高 19m、形状比 61
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。マツ枯れが見られる。ヤマザクラ等の高木性の広葉樹が多く混じる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-33 地区の標準地

図表 324 S-33 地区の施業内容

施業種	人工林整理伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	64 本(400 本/ha)、34.08m <sup>3</sup> (213.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 27cm、平均樹高 19m
伐採率	44.4%(本数)、34.4%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ。の値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 325 にまとめる。

図表 325 S-33 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	人工アカマツ	人工林 整理伐 ⇒	人工アカマツ
実測面積	0.16ha		0.16ha
本数	144 本(900 本/ha)		80 本(500 本/ha)
蓄積	99.04m <sup>3</sup> (619.0m <sup>3</sup> /ha)		64.96m <sup>3</sup> (406.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	31cm、19m		35cm、18m
相対幹距比(Sr)	18%		25%
形状比(H/D)	形状比 61		形状比 51

## ○将来計画

10年後には標準伐期齢に達しているため、アカマツを主伐し広葉樹林化を図る。

図表 326 S-33 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	13	人工林整理伐 44.4%(整備後本数 500 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	15	主伐 100.0%(整備後本数 0 本/ha)

## ○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

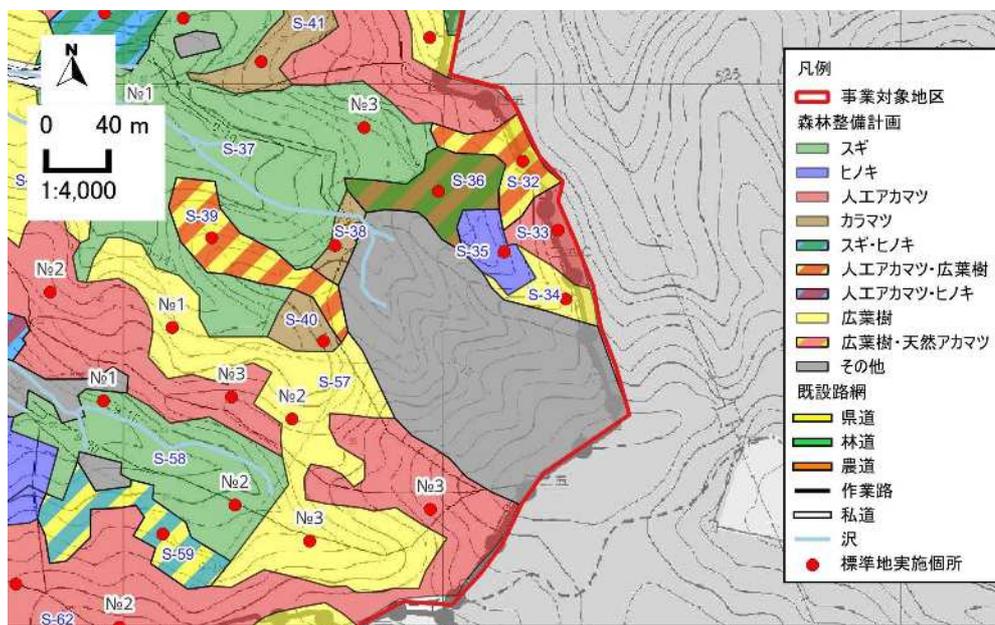
図表 327 S-33 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		34.08	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	23.00	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C 材等	4.74	m3	13.9%	残置	—
	その他	6.30	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		7.84	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.36 詳細設計(S-34 地区)

図表 328 S-34 地区



標準地調査の結果をもとに、S-34 地区の現況について図表 329 にまとめる。

図表 329 S-34 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹、13 齢級(62 年生)
実測面積	0.14ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	182 本(1,300 本/ha)、32.20m <sup>3</sup> (230.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 14cm、平均樹高 11m、形状比 79
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	ミズキ、クリ、ヤマザクラ等の高木性の樹種が多い。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-34 地区の標準地

図表 330 S-34 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	126 本(900 本/ha)、16.24m <sup>3</sup> (116.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 12cm、平均樹高 10m
伐採率	69.2%(本数)、50.4%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 331 にまとめる。

図表 331 S-34 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	広葉樹	更新伐 ⇒	広葉樹
実測面積	0.14ha		0.14ha
本数	182 本(1,300 本/ha)		56 本(400 本/ha)
蓄積	32.20m <sup>3</sup> (230.0m <sup>3</sup> /ha)		15.96m <sup>3</sup> (114.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	14cm、11m		20cm、14m
相対幹距比(Sr)	25%		36%
形状比(H/D)	形状比 79		形状比 70

○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 332 S-34 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	13	更新伐 69.2% (整備後本数 400 本/ha)
...	...	...
令和 11 年	1	萌芽整理
...	...	...
令和 18 年	2~	除伐

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

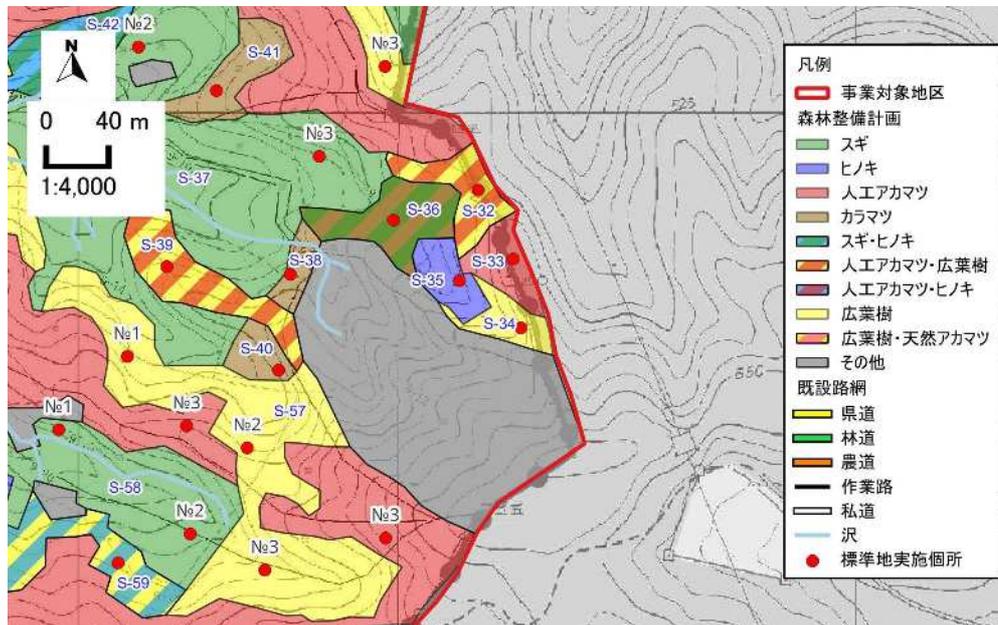
図表 333 S-34 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		16.24	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	10.96	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C 材等	2.26	m3	13.9%	棚積み	—
	その他	3.00	m3	18.5%	棚積み	—
枝 葉		5.20	m3	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.37 詳細設計(S-35 地区)

図表 334 S-35 地区



標準地調査の結果をもとに、S-35 地区の現況について図表 335 にまとめる。

図表 335 S-35 地区の現況

施業種	利用間伐
樹種・齢級	ヒノキ、8 齢級(36 年生)
実測面積	0.15ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	165 本(1,100 本/ha)、50.70m <sup>3</sup> (338.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 21cm、平均樹高 16m、形状比 76
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	二又等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は極めて乏しく、ほとんど見られない。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-35 地区の標準地

図表 336 S-35 地区の施業内容

施業種	利用間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	60 本(400 本/ha)、14.25m <sup>3</sup> (95.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 20cm、平均樹高 15m
伐採率	36.4%(本数)、28.1%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 337 にまとめる。

図表 337 S-35 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	ヒノキ	利用間伐 ⇒	ヒノキ
実測面積	0.15ha		0.15ha
本数	165 本(1,100 本/ha)		105 本(700 本/ha)
蓄積	50.70m <sup>3</sup> (338.0m <sup>3</sup> /ha)		36.45m <sup>3</sup> (243.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	21cm、16m		22cm、17m
相対幹距比(Sr)	19%		22%
形状比(H/D)	形状比 76		形状比 77

## ○将来計画

林木の成長に伴い、再び林内の光環境が悪化していくため、今後 10 年程度の間隔で間伐を実施することが望ましい。

図表 338 S-35 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	8	利用間伐 36.4%(整備後本数 700 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	10	間伐 30.0%(整備後本数 490 本/ha)
...	...	...
令和 28 年	12	主伐 100.0%(整備後本数 0 本/ha)

## ○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

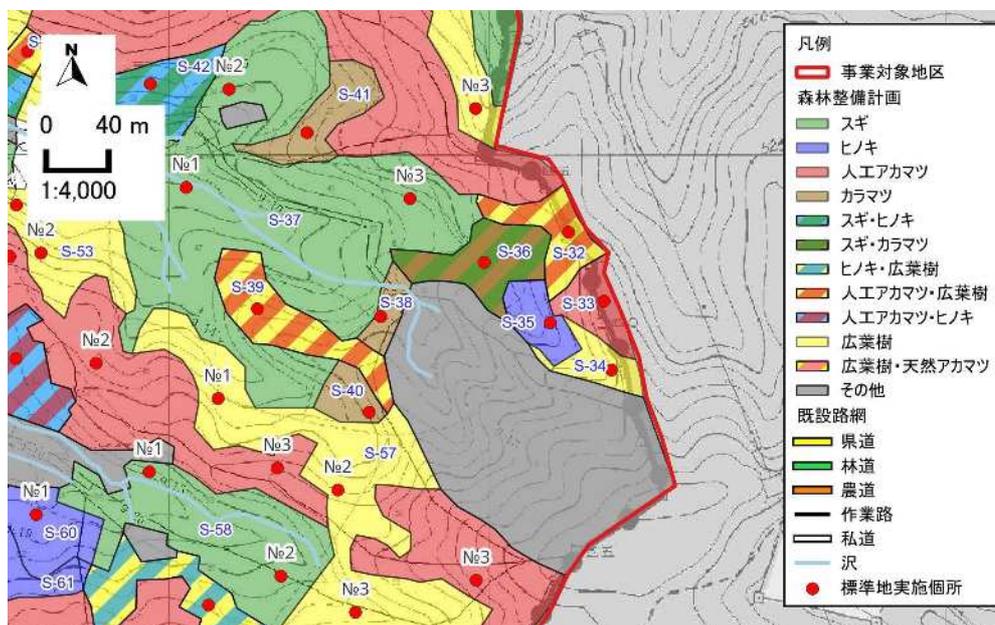
図表 339 S-35 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		14.25	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	9.62	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	1.98	m3	13.9%	残置	—
	その他	2.64	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		3.28	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.38 詳細設計(S-36 地区)

図表 340 S-36 地区



標準地調査の結果をもとに、S-36 地区の現況について図表 341 にまとめる。

図表 341 S-36 地区の現況

施業種	保育間伐
樹種・齢級	カラマツ・ヒノキ、5～14 齢級(21～68 年生)
実測面積	0.31ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	620 本(2,000 本/ha)、181.35m <sup>3</sup> (585.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 15cm、平均樹高 13m、形状比 87
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	カラマツを上層、ヒノキを下層とした複層林(二段林)。 曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生はやや乏しく、低木性の広葉樹が見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-36 地区の標準地

図表 342 S-36 地区の施業内容

施業種	保育間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	248 本(800 本/ha)、4.34m <sup>3</sup> (14.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 7cm、平均樹高 7m
伐採率	40.0%(本数)、2.4%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 343 にまとめる。

図表 343 S-36 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	カラマツ・ヒノキ	保育間伐 ⇒	カラマツ・ヒノキ
実測面積	0.31ha		0.31ha
本数	620 本(2,000 本/ha)		372 本(1,200 本/ha)
蓄積	181.35m <sup>3</sup> (585.0m <sup>3</sup> /ha)		177.01m <sup>3</sup> (571.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	15cm、13m		20cm、16m
相対幹距比(Sr)	17%		18%
形状比(H/D)	形状比 87		形状比 80

○将来計画

林木の成長に伴い、再び林内の光環境が悪化していくため、今後 10 年程度の間隔で間伐を実施することが望ましい。

図表 344 S-36 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	5～14	保育間伐 40.0%(整備後本数 1,200 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	7～16	間伐 30.0%(整備後本数 840 本/ha)
...	...	...
令和 28 年	9～18	間伐 30.0%(整備後本数 588 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

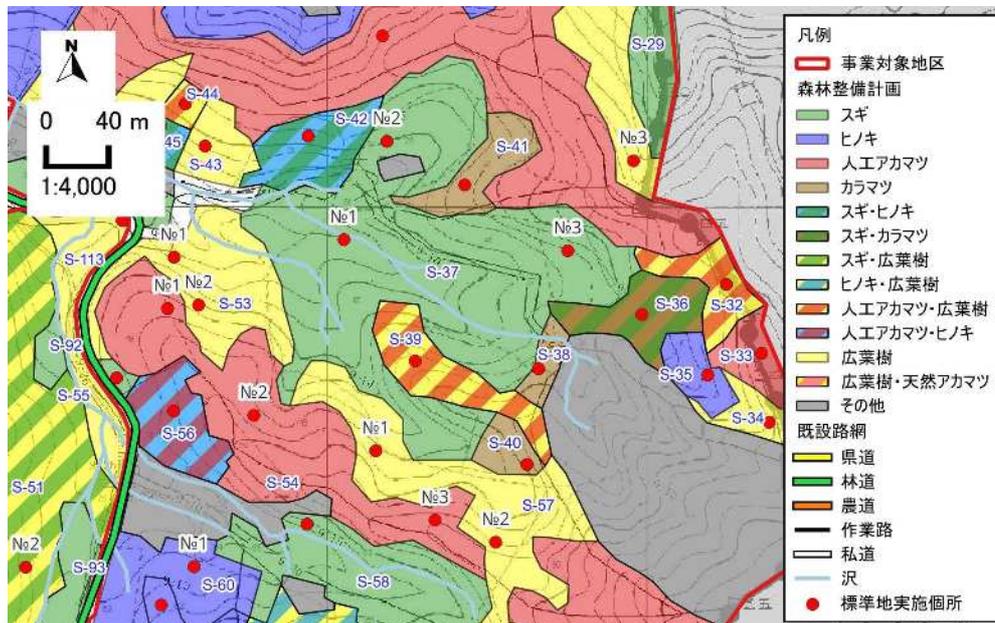
図表 345 S-36 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		4.34	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	2.93	m3	67.5%	残置	—
	C 材等	0.60	m3	13.9%	残置	—
	その他	0.80	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		1.00	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.39 詳細設計(S-37 地区)

図表 346 S-37 地区



標準地調査の結果をもとに、S-37 地区の現況について図表 347 にまとめる。

図表 347 S-37 地区の現況

施業種	利用間伐
樹種・齢級	スギ、12～14 齢級(57～68 年生)
実測面積	2.76ha
標準地 <sup>※1</sup>	3 箇所(300m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	2,484 本(900 本/ha)、2,981.08m <sup>3</sup> (1,080.1m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 37cm、平均樹高 24m、形状比 65
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	立木密度が高い。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-37 地区のNo.1 標準地



S-37 地区のNo.2 標準地



S-37 地区のNo.3 標準地

図表 348 S-37 地区の施業内容

施業種	利用間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	828 本(300 本/ha)、704.63m <sup>3</sup> (255.3m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 30cm、平均樹高 23m
伐採率	34.7%(本数)、22.3%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 349 にまとめる。

図表 349 S-37 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	スギ	利用間伐 ⇒	スギ
実測面積	2.76ha		2.76ha
本数	2,484 本(900 本/ha)		1,656 本(600 本/ha)
蓄積	2,981.08m <sup>3</sup> (1,080.1m <sup>3</sup> /ha)		2,278.93m <sup>3</sup> (825.7m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	37cm、24m		40cm、25m
相対幹距比(Sr)	14%		16%
形状比(H/D)	形状比 65		形状比 63

#### ○将来計画

10 年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 350 S-37 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	12~14	利用間伐 34.7%(整備後本数 600 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	14~16	主伐 100.0%(整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

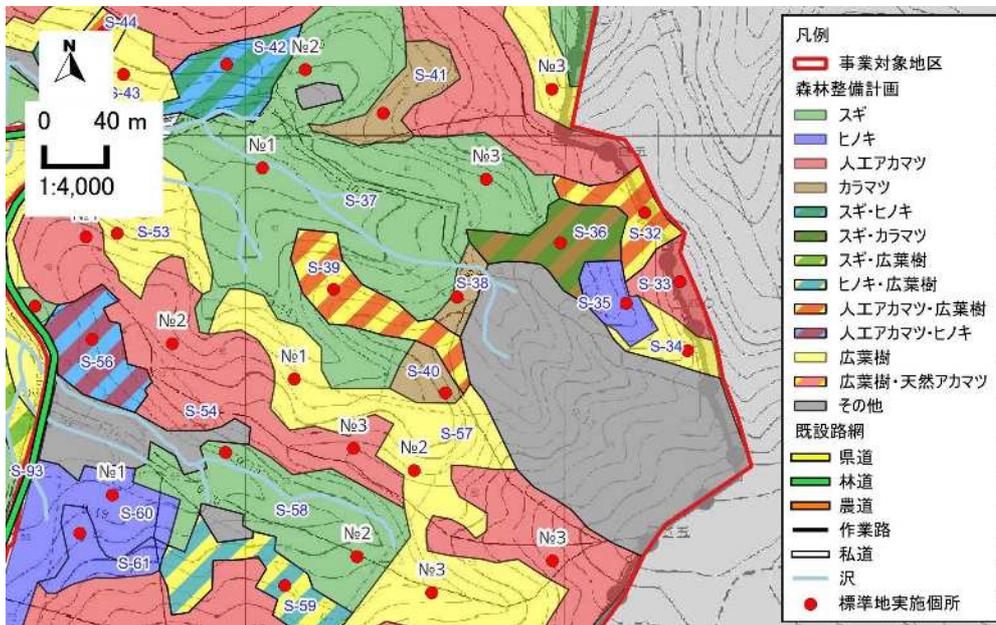
図表 351 S-37 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		704.63	m3	—	—	—
内 訳	AB材	475.63	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C材等	97.94	m3	13.9%	残置	—
	その他	130.36	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		162.06	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.40 詳細設計(S-38 地区)

図表 352 S-38 地区



標準地調査の結果をもとに、S-38 地区の現況について図表 353 にまとめる。

図表 353 S-38 地区の現況

施業種	利用間伐
樹種・齢級	カラマツ、14 齢級(68 年生)
実測面積	0.09ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	72 本(800 本/ha)、35.64m <sup>3</sup> (396.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 24cm、平均樹高 20m、形状比 83
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	立木密度が高い。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-38 地区の標準地

図表 354 S-38 地区の施業内容

施業種	利用間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	27 本(300 本/ha)、6.57m <sup>3</sup> (73.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 19cm、平均樹高 17m
伐採率	37.5%(本数)、18.4%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 355 にまとめる。

図表 355 S-38 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	カラマツ	利用間伐 ⇒	カラマツ
実測面積	0.09ha		0.09ha
本数	72 本(800 本/ha)		45 本(500 本/ha)
蓄積	35.64m <sup>3</sup> (396.0m <sup>3</sup> /ha)		29.07m <sup>3</sup> (323.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	24cm、20m		27cm、21m
相対幹距比(Sr)	18%		21%
形状比(H/D)	形状比 83		形状比 78

## ○将来計画

10年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 356 S-38 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	14	利用間伐 37.5% (整備後本数 500 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	16	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

## ○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

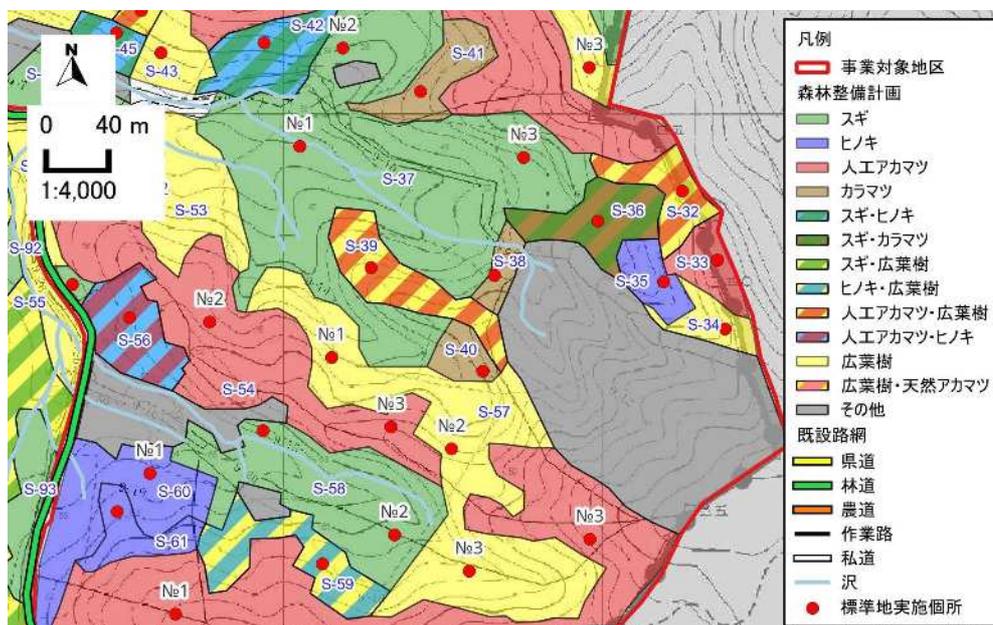
図表 357 S-38 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		6.57	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	4.43	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	0.91	m3	13.9%	残置	—
	その他	1.22	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		1.51	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.41 詳細設計(S-39 地区)

図表 358 S-39 地区



標準地調査の結果をもとに、S-39 地区の現況について図表 359 にまとめる。

図表 359 S-39 地区の現況

施業種	人工林整理伐
樹種・齢級	人工アカマツ・広葉樹、13 齢級(62 年生)
実測面積	0.35ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	420 本(1,200 本/ha)、347.90m <sup>3</sup> (994.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 29cm、平均樹高 15m、形状比 52
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。マツ枯れが見られる。クリ、コナラ等の高木性の広葉樹が多く混じる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-39 地区の標準地

図表 360 S-39 地区の施業内容

施業種	人工林整理伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	210 本(600 本/ha)、195.30m <sup>3</sup> (558.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 29cm、平均樹高 14m
伐採率	50.0%(本数)、56.1%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 361 にまとめる。

図表 361 S-39 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	人工アカマツ・広葉樹	人工林 整理伐 ⇒	人工アカマツ・広葉樹
実測面積	0.35ha		0.35ha
本数	420 本(1,200 本/ha)		210 本(600 本/ha)
蓄積	347.90m <sup>3</sup> (994.0m <sup>3</sup> /ha)		152.60m <sup>3</sup> (436.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	29cm、15m		28cm、16m
相対幹距比(Sr)	19%		26%
形状比(H/D)	形状比 52		形状比 57

○将来計画

10年後には標準伐期齢に達しているため、アカマツを主伐し広葉樹林化を図る。

図表 362 S-39 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	13	人工林整理伐 50.0%(整備後本数 600 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	15	主伐 100.0%(整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

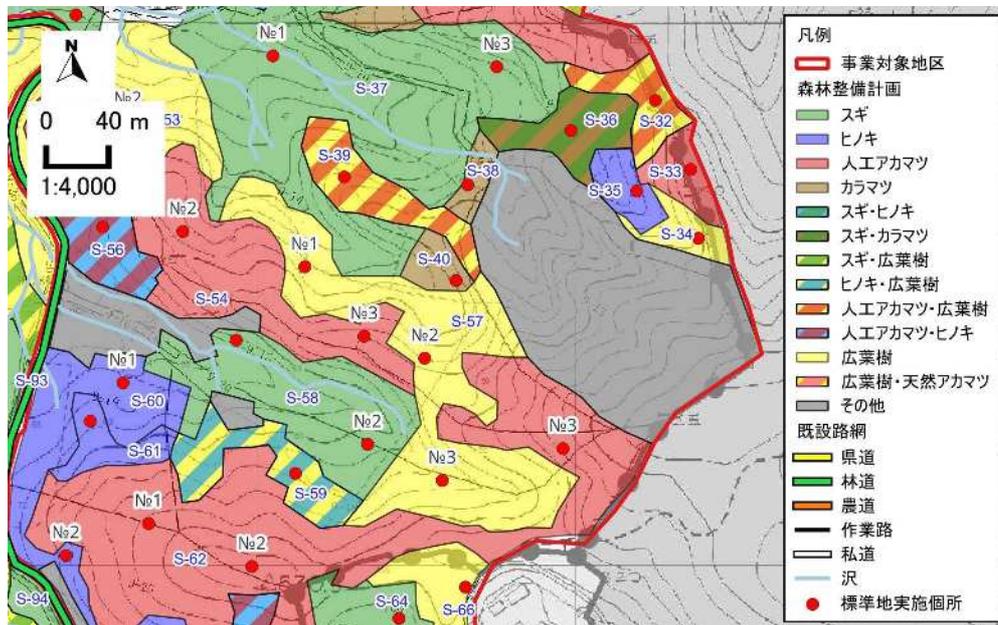
図表 363 S-39 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		195.30	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	131.83	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C 材等	27.15	m3	13.9%	残置	—
	その他	36.13	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		44.92	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.42 詳細設計(S-40 地区)

図表 364 S-40 地区



標準地調査の結果をもとに、S-40 地区の現況について図表 365 にまとめる。

図表 365 S-40 地区の現況

施業種	利用間伐
樹種・齢級	カラマツ、14 齢級(68 年生)
実測面積	0.12ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	96 本(800 本/ha)、118.56m <sup>3</sup> (988.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 34cm、平均樹高 27m、形状比 79
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	二又等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-40 地区の標準地

図表 366 S-40 地区の施業内容

施業種	利用間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	24 本(200 本/ha)、23.88m <sup>3</sup> (199.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 32cm、平均樹高 24m
伐採率	25.0%(本数)、20.1%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 367 にまとめる。

図表 367 S-40 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	カラマツ	利用間伐 ⇒	カラマツ
実測面積	0.12ha		0.12ha
本数	96 本(800 本/ha)		72 本(600 本/ha)
蓄積	118.56m <sup>3</sup> (988.0m <sup>3</sup> /ha)		94.68m <sup>3</sup> (789.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	34cm、27m		34cm、29m
相対幹距比(S <sub>r</sub> )	13%		14%
形状比(H/D)	形状比 79		形状比 85

## ○将来計画

10年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 368 S-40 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	14	利用間伐 25.0%(整備後本数 600 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	16	主伐 100.0%(整備後本数 0 本/ha)

## ○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

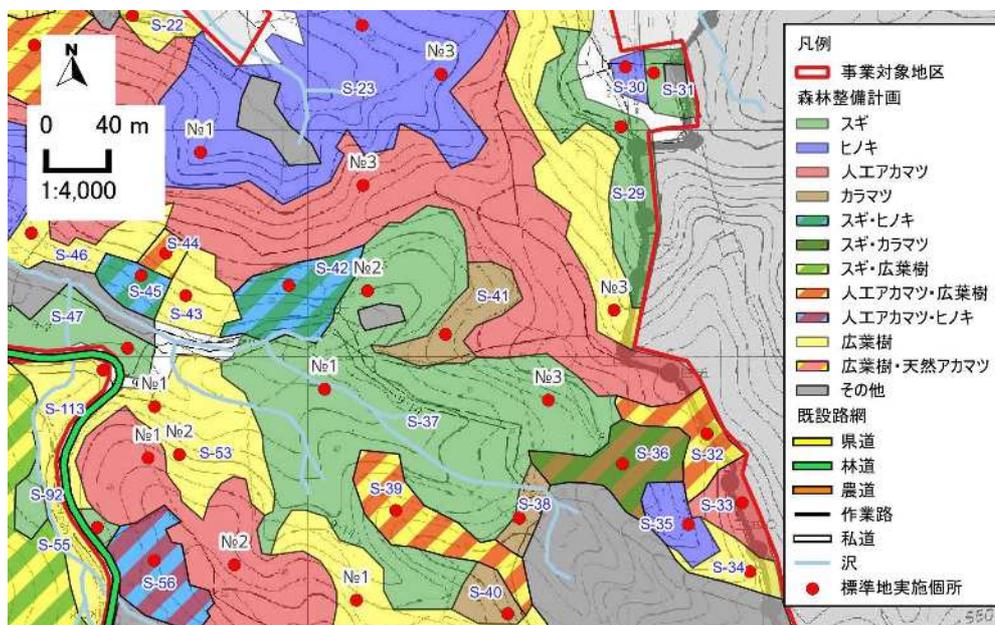
図表 369 S-40 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		23.88	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	16.12	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	3.32	m3	13.9%	残置	—
	その他	4.42	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		5.49	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.43 詳細設計(S-41 地区)

図表 370 S-41 地区



標準地調査の結果をもとに、S-41 地区の現況について図表 371 にまとめる。

図表 371 S-41 地区の現況

施業種	利用間伐
樹種・齢級	カラマツ、14 齢級(68 年生)
実測面積	0.24ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	192 本(800 本/ha)、149.28m <sup>3</sup> (622.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 30cm、平均樹高 20m、形状比 67
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-41 地区の標準地

図表 372 S-41 地区の施業内容

施業種	利用間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積※1	72 本(300 本/ha)、34.80m <sup>3</sup> (145.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高※1	平均直径 25cm、平均樹高 18m
伐採率	37.5%(本数)、23.4%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 373 にまとめる。

図表 373 S-41 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	カラマツ	利用間伐 ⇒	カラマツ
実測面積	0.24ha		0.24ha
本数	192 本(800 本/ha)		120 本(500 本/ha)
蓄積	149.28m <sup>3</sup> (622.0m <sup>3</sup> /ha)		114.48m <sup>3</sup> (477.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	30cm、20m		32cm、22m
相対幹距比(Sr)	18%		20%
形状比(H/D)	形状比 67		形状比 69

○将来計画

10年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 374 S-41 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	14	利用間伐 37.5% (整備後本数 500 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	16	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

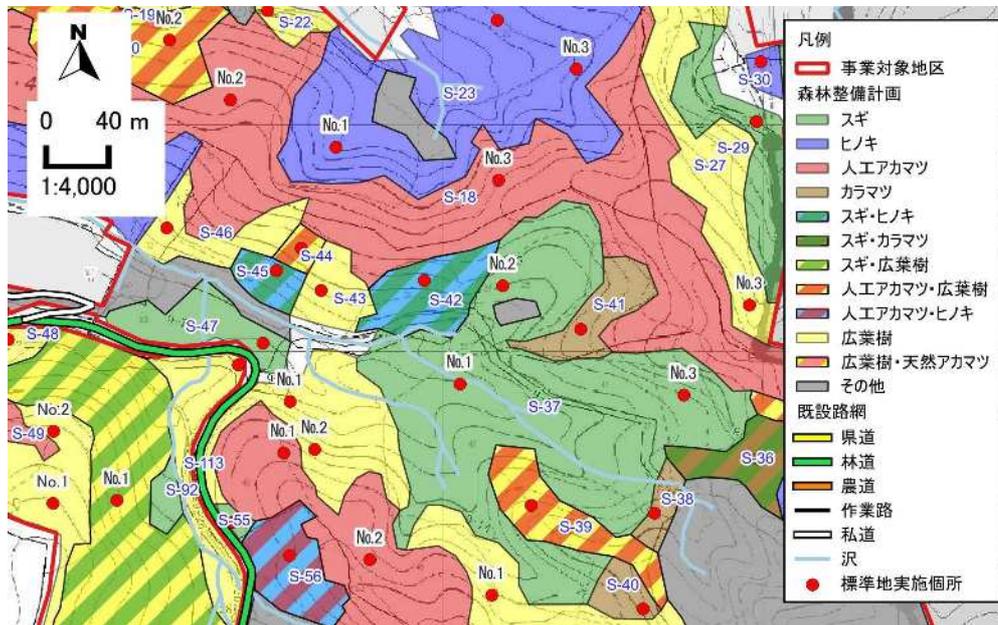
図表 375 S-41 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		34.80	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	23.49	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	4.84	m3	13.9%	残置	—
	その他	6.44	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		8.00	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.44 詳細設計(S-42 地区)

図表 376 S-42 地区



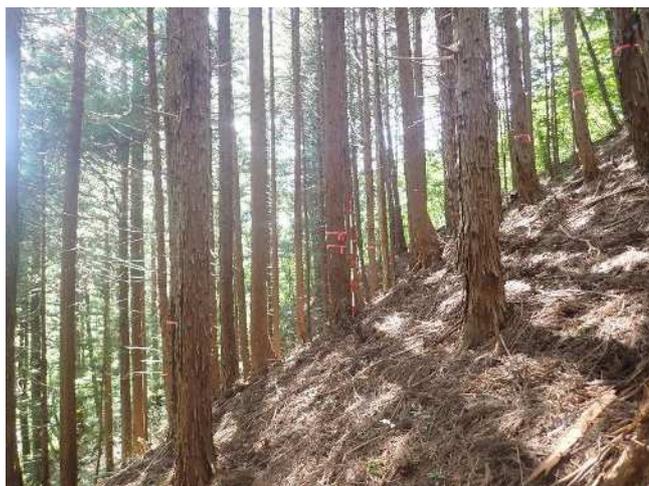
標準地調査の結果をもとに、S-42 地区の現況について図表 377 にまとめる。

図表 377 S-42 地区の現況

施業種	利用間伐
樹種・齢級	スギ・ヒノキ、9 齢級(41 年生)
実測面積	0.32ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	544 本(1,700 本/ha)、220.48m <sup>3</sup> (689.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 24cm、平均樹高 17m、形状比 71
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	漏脂病等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は極めて乏しく、ほとんど見られない。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-42 地区の標準地

図表 378 S-42 地区の施業内容

施業種	利用間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	192 本(600 本/ha)、47.68m <sup>3</sup> (149.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 19cm、平均樹高 16m
伐採率	35.3%(本数)、21.6%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 379 にまとめる。

図表 379 S-42 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	スギ・ヒノキ	利用間伐 ⇒	スギ・ヒノキ
実測面積	0.32ha		0.32ha
本数	544 本(1,700 本/ha)		352 本(1,100 本/ha)
蓄積	220.48m <sup>3</sup> (689.0m <sup>3</sup> /ha)		172.80m <sup>3</sup> (540.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	24cm、17m		26cm、18m
相対幹距比(Sr)	14%		17%
形状比(H/D)	形状比 71		形状比 69

## ○将来計画

10年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 380 S-42 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	9	利用間伐 35.3%(整備後本数 1,100 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	11	主伐 100.0%(整備後本数 0 本/ha)

## ○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

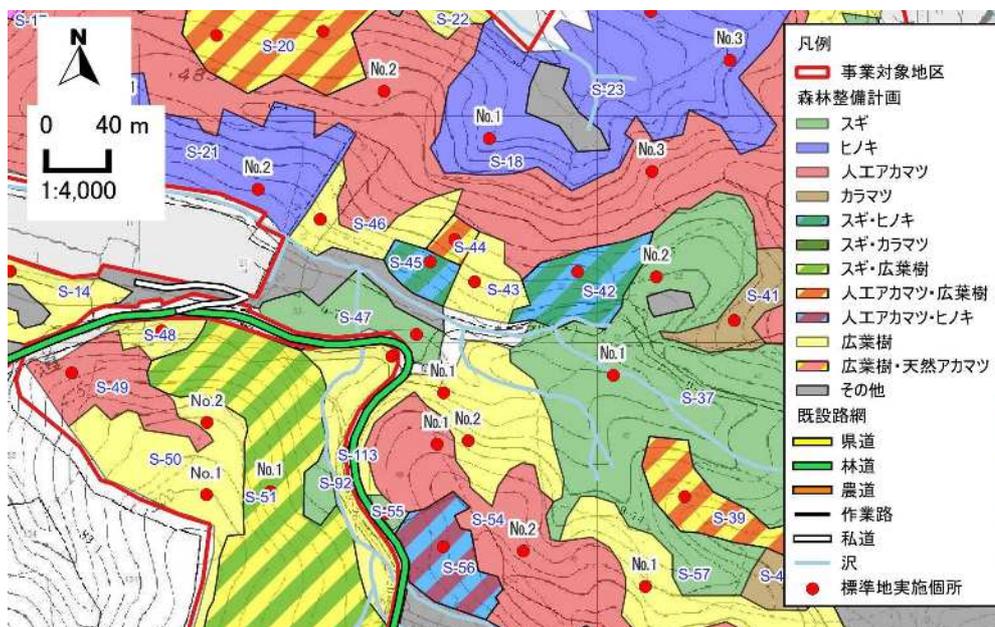
図表 381 S-42 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		47.68	m3	—	—	—
内 訳	AB材	32.18	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C材等	6.63	m3	13.9%	残置	—
	その他	8.82	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		10.97	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.45 詳細設計(S-43 地区)

図表 382 S-43 地区



標準地調査の結果をもとに、S-43 地区の現況について図表 383 にまとめる。

図表 383 S-43 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹、14 齢級(67 年生)
実測面積	0.19ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	304 本(1,600 本/ha)、30.97m <sup>3</sup> (163.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 13cm、平均樹高 12m、形状比 92
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	コナラ、ミズキ、ヤマザクラ等の高木性の樹種が多い。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-43 地区の標準地

図表 384 S-43 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	209 本(1,100 本/ha)、20.52m <sup>3</sup> (108.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 13cm、平均樹高 12m
伐採率	68.8%(本数)、66.3%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ。の値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 385 にまとめる。

図表 385 S-43 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	広葉樹	更新伐 ⇒	広葉樹
実測面積	0.19ha		0.19ha
本数	304 本(1,600 本/ha)		95 本(500 本/ha)
蓄積	30.97m <sup>3</sup> (163.0m <sup>3</sup> /ha)		10.45m <sup>3</sup> (55.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	13cm、12m		14cm、13m
相対幹距比(Sr)	21%		34%
形状比(H/D)	形状比 92		形状比 93

○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 386 S-43 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	14	更新伐 68.8% (整備後本数 500 本/ha)
...	...	...
令和 11 年	1	萌芽整理
...	...	...
令和 18 年	2~	除伐

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

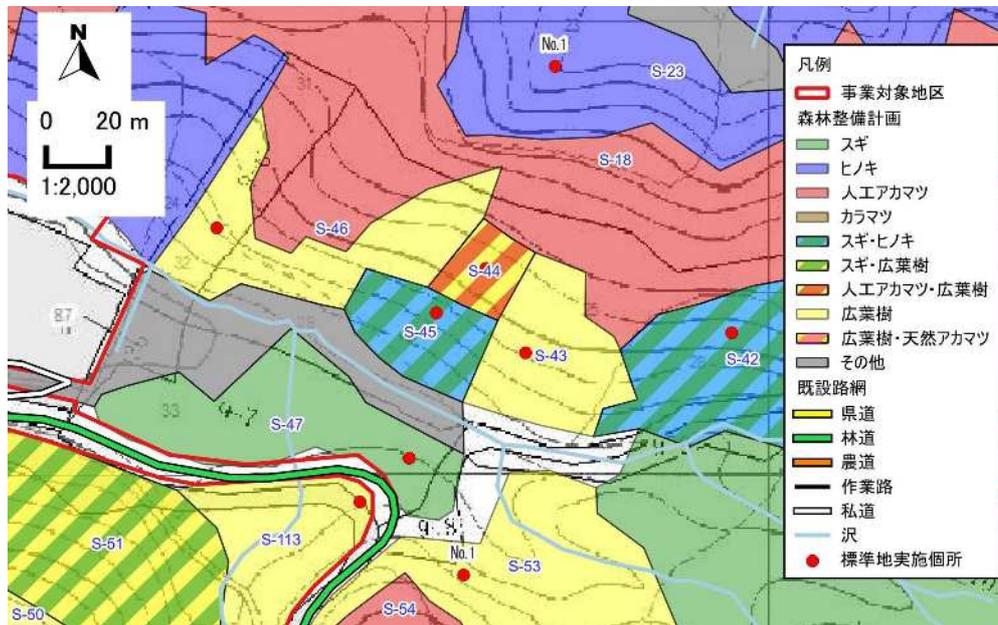
図表 387 S-43 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		20.52	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	13.85	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C 材等	2.85	m3	13.9%	棚積み	—
	その他	3.80	m3	18.5%	棚積み	—
枝 葉		6.57	m3	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.46 詳細設計(S-44 地区)

図表 388 S-44 地区



標準地調査の結果をもとに、S-44 地区の現況について図表 389 にまとめる。

図表 389 S-44 地区の現況

施業種	人工林整理伐
樹種・齢級	人工アカマツ・広葉樹、13 齢級(62 年生)
実測面積	0.06ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	66 本(1,100 本/ha)、38.52m <sup>3</sup> (642.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 25cm、平均樹高 17m、形状比 68
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。マツ枯れが見られる。コナラ、クリ、イヌブナ等の高木性の広葉樹が多く混じる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-44 地区の標準地

図表 390 S-44 地区の施業内容

施業種	人工林整理伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	30 本(500 本/ha)、11.46m <sup>3</sup> (191.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 22cm、平均樹高 17m
伐採率	45.5%(本数)、29.8%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 391 にまとめる。

図表 391 S-44 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	人工アカマツ・広葉樹	人工林 整理伐 ⇒	人工アカマツ・広葉樹
実測面積	0.06ha		0.06ha
本数	66 本(1,100 本/ha)		36 本(600 本/ha)
蓄積	38.52m <sup>3</sup> (642.0m <sup>3</sup> /ha)		27.06m <sup>3</sup> (451.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	25cm、17m		28cm、18m
相対幹距比(Sr)	18%		23%
形状比(H/D)	形状比 68		形状比 64

## ○将来計画

10年後には標準伐期齢に達しているため、アカマツを主伐し広葉樹林化を図る。

図表 392 S-44 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	13	人工林整理伐 45.5% (整備後本数 600 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	15	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

## ○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

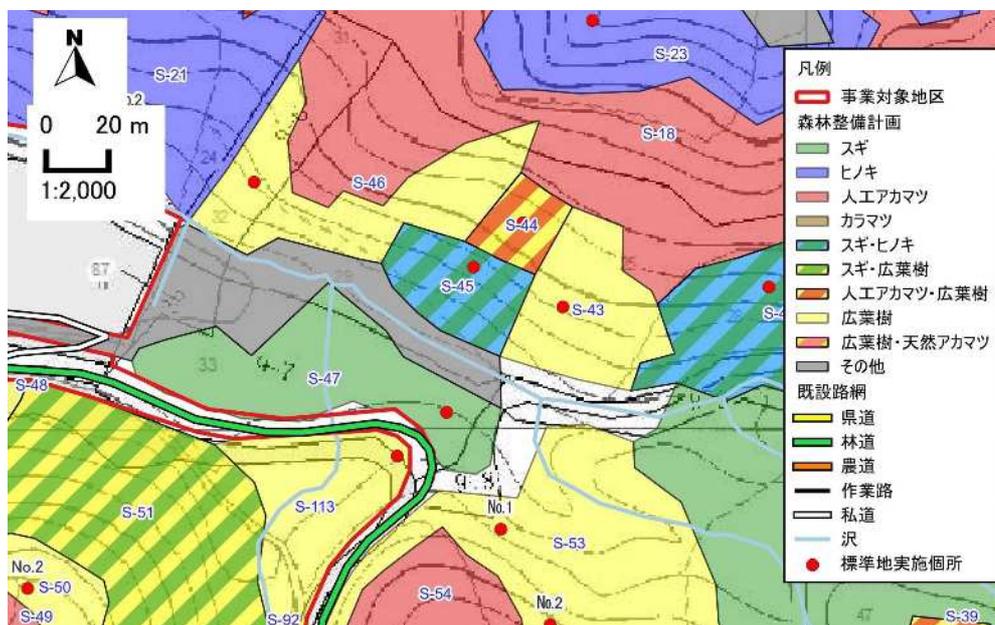
図表 393 S-44 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		11.46	m3	—	—	—
内 訳	AB材	7.74	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C材等	1.59	m3	13.9%	残置	—
	その他	2.12	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		2.64	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.47 詳細設計(S-45 地区)

図表 394 S-45 地区



標準地調査の結果をもとに、S-45 地区の現況について図表 395 にまとめる。

図表 395 S-45 地区の現況

施業種	利用間伐
樹種・齢級	スギ・ヒノキ、9 齢級(41 年生)
実測面積	0.12ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	192 本(1,600 本/ha)、59.64m <sup>3</sup> (497.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 21cm、平均樹高 17m、形状比 81
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	二又等の不良木が発生している。立木密度が高い。漏脂病が発生している。
下層植生	下層植生は乏しく、高木性・低木性の広葉樹が主に見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-45 地区の標準地

図表 396 S-45 地区の施業内容

施業種	利用間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	48 本(400 本/ha)、13.92m <sup>3</sup> (116.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 21cm、平均樹高 16m
伐採率	25.0%(本数)、23.3%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ。の値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 397 にまとめる。

図表 397 S-45 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	スギ・ヒノキ	利用間伐 ⇒	スギ・ヒノキ
実測面積	0.12ha		0.12ha
本数	192 本(1,600 本/ha)		144 本(1,200 本/ha)
蓄積	59.64m <sup>3</sup> (497.0m <sup>3</sup> /ha)		45.72m <sup>3</sup> (381.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	21cm、17m		21cm、18m
相対幹距比(Sr)	15%		16%
形状比(H/D)	形状比 81		形状比 86

○将来計画

10年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 398 S-45 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	9	利用間伐 25.0%(整備後本数 1,200 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	11	主伐 100.0%(整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

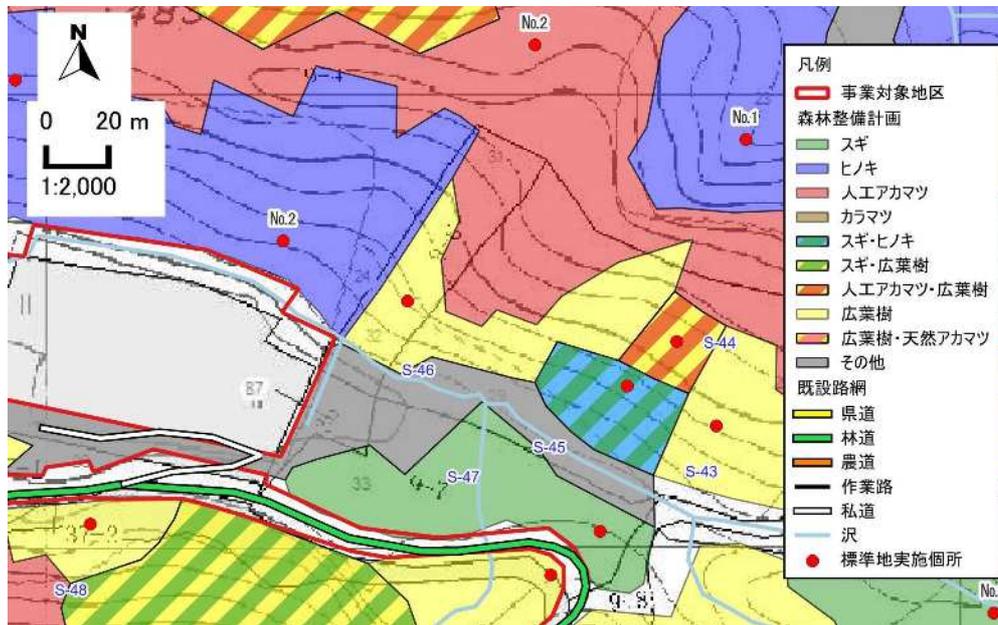
図表 399 S-45 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		13.92	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	9.40	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	1.93	m3	13.9%	残置	—
	その他	2.58	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		3.20	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.48 詳細設計(S-46 地区)

図表 400 S-46 地区



標準地調査の結果をもとに、S-46 地区の現況について図表 401 にまとめる。

図表 401 S-46 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹、11～14 齢級(55～67 年生)
実測面積	0.26ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	260 本(1,000 本/ha)、67.08m <sup>3</sup> (258.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 20cm、平均樹高 15m、形状比 75
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	コナラ、クリ、ミズキ、ウワミズザクラ等の高木性の樹種が多い。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-46 地区の標準地

図表 402 S-46 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	182 本(700 本/ha)、58.50m <sup>3</sup> (225.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 23cm、平均樹高 16m
伐採率	70.0%(本数)、87.2%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ。の値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 403 にまとめる。

図表 403 S-46 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	広葉樹	更新伐 ⇒	広葉樹
実測面積	0.26ha		0.26ha
本数	260 本(1,000 本/ha)		78 本(300 本/ha)
蓄積	67.08m <sup>3</sup> (258.0m <sup>3</sup> /ha)		8.58m <sup>3</sup> (33.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	20cm、15m		14cm、12m
相対幹距比(Sr)	21%		48%
形状比(H/D)	形状比 75		形状比 86

## ○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 404 S-46 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	12~14	更新伐 70.0% (整備後本数 300 本/ha)
...	...	...
令和 11 年	1	萌芽整理
...	...	...
令和 18 年	2~	除伐

## ○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

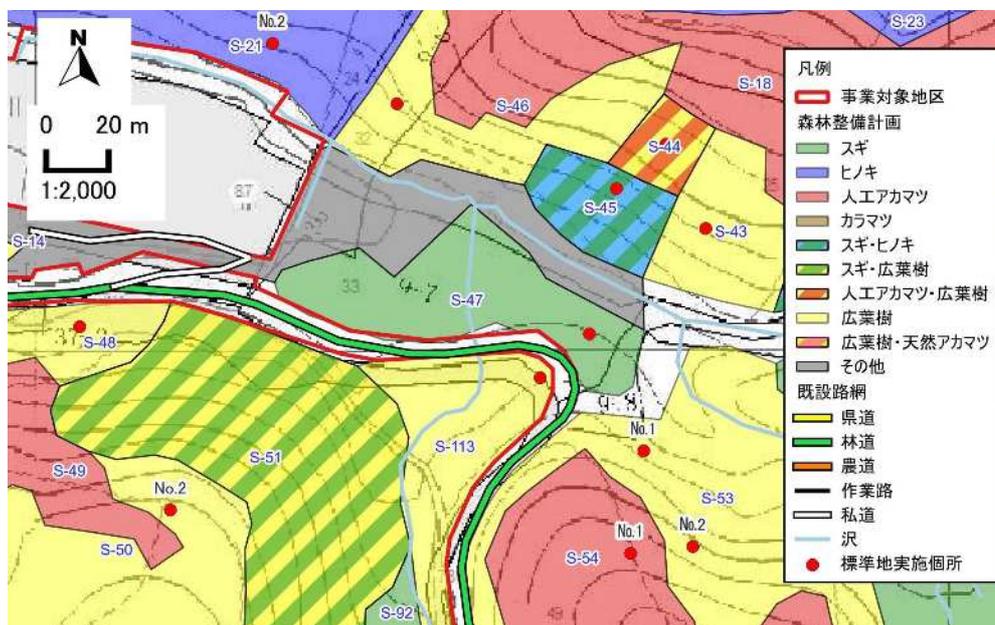
図表 405 S-46 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		58.50	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	39.49	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C 材等	8.13	m3	13.9%	棚積み	—
	その他	10.82	m3	18.5%	棚積み	—
枝 葉		18.72	m3	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.49 詳細設計(S-47 地区)

図表 406 S-47 地区



標準地調査の結果をもとに、S-47 地区の現況について図表 407 にまとめる。

図表 407 S-47 地区の現況

施業種	利用間伐
樹種・齢級	スギ、5 齢級(25 年生)
実測面積	0.30ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	510 本(1,700 本/ha)、174.60m <sup>3</sup> (582.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 22cm、平均樹高 16m、形状比 73
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は乏しく、高木性・低木性の広葉樹が主に見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-47 地区の標準地

図表 408 S-47 地区の施業内容

施業種	利用間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	180 本(600 本/ha)、28.20m <sup>3</sup> (94.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 16cm、平均樹高 14m
伐採率	35.3%(本数)、16.2%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 409 にまとめる。

図表 409 S-47 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	スギ	利用間伐 ⇒	スギ
実測面積	0.30ha		0.30ha
本数	510 本(1,700 本/ha)		330 本(1,100 本/ha)
蓄積	174.60m <sup>3</sup> (582.0m <sup>3</sup> /ha)		146.40m <sup>3</sup> (488.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	22cm、16m		25cm、17m
相対幹距比(Sr)	15%		18%
形状比(H/D)	形状比 73		形状比 68

○将来計画

林木の成長に伴い、再び林内の光環境が悪化していくため、今後 10 年程度の間隔で間伐を実施することが望ましい。

図表 410 S-47 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	6	利用間伐 35.3%(整備後本数 1,100 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	8	間伐 30.0%(整備後本数 770 本/ha)
...	...	...
令和 28 年	10	主伐 100.0%(整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

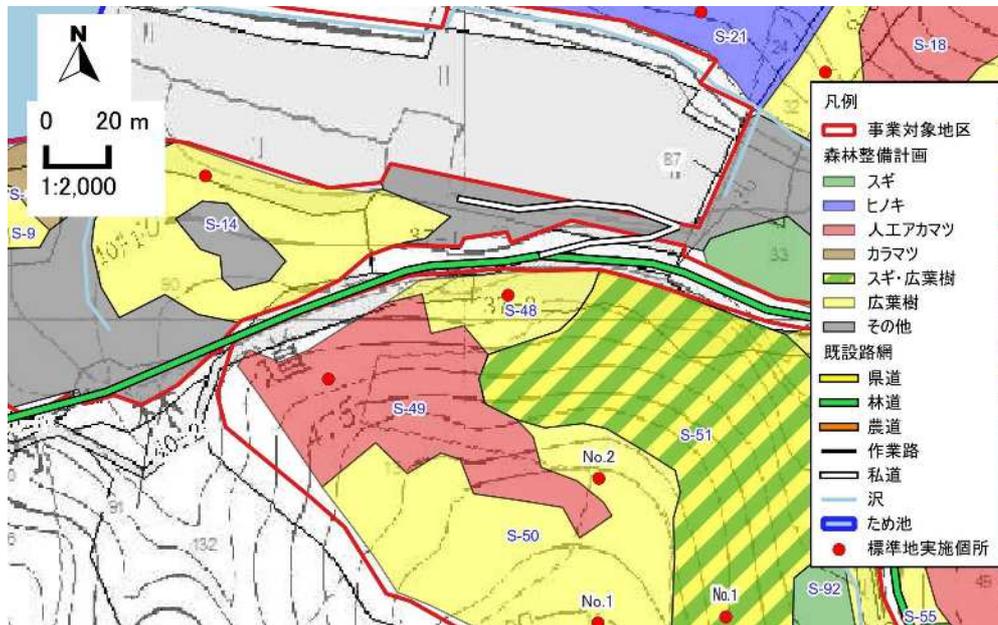
図表 411 S-47 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		28.20	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	19.04	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	3.92	m3	13.9%	残置	—
	その他	5.22	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		6.49	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.50 詳細設計(S-48 地区)

図表 412 S-48 地区



標準地調査の結果をもとに、S-48 地区の現況について図表 413 にまとめる。

図表 413 S-48 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹、15 齢級(72 年生)
実測面積	0.11ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	143 本(1,300 本/ha)、13.09m <sup>3</sup> (119.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 10cm、平均樹高 8m、形状比 80
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	コナラ、ミズキ、ウワミズザクラ、ヤマザクラ等の高木性の樹種が多い。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-48 地区の標準地

図表 414 S-48 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	99 本(900 本/ha)、11.77m <sup>3</sup> (107.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 11cm、平均樹高 8m
伐採率	69.2%(本数)、89.9%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 415 にまとめる。

図表 415 S-48 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	広葉樹	更新伐 ⇒	広葉樹
実測面積	0.11ha		0.11ha
本数	143 本(1,300 本/ha)		44 本(400 本/ha)
蓄積	13.09m <sup>3</sup> (119.0m <sup>3</sup> /ha)		1.32m <sup>3</sup> (12.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	10cm、8m		9cm、8m
相対幹距比(Sr)	35%		63%
形状比(H/D)	形状比 80		形状比 89

## ○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 416 S-48 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	15	更新伐 69.2% (整備後本数 400 本/ha)
...	...	...
令和 11 年	1	萌芽整理
...	...	...
令和 18 年	2~	除伐

## ○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

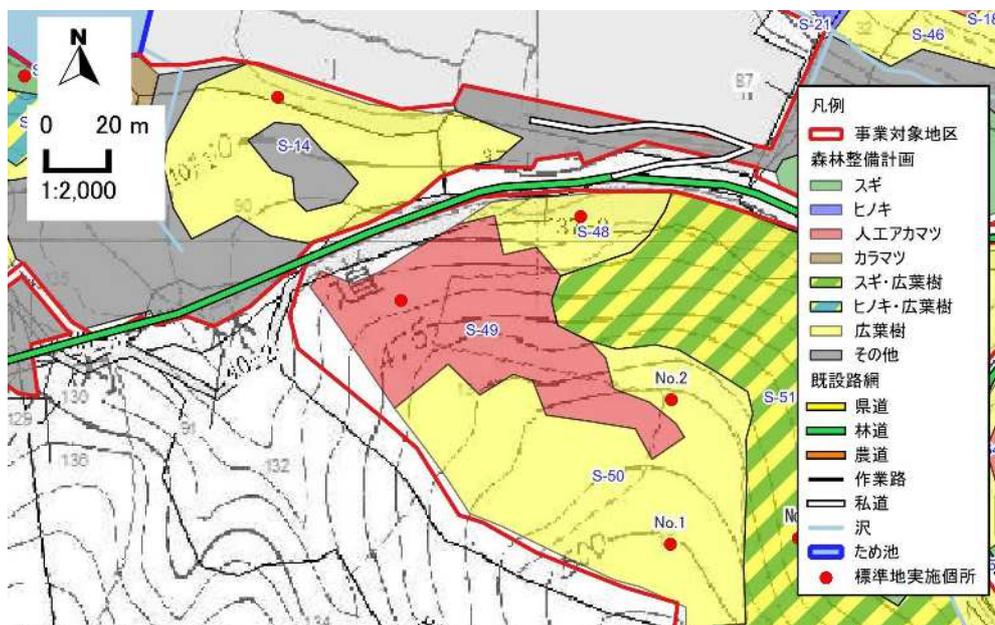
図表 417 S-48 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		11.77	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	7.94	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C 材等	1.64	m3	13.9%	棚積み	—
	その他	2.18	m3	18.5%	棚積み	—
枝 葉		3.77	m3	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.51 詳細設計(S-49 地区)

図表 418 S-49 地区



標準地調査の結果をもとに、S-49 地区の現況について図表 419 にまとめる。

図表 419 S-49 地区の現況

施業種	人工林整理伐
樹種・齢級	人工アカマツ、12 齢級(59 年生)
実測面積	0.37ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	296 本(800 本/ha)、243.46m <sup>3</sup> (658.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 32cm、平均樹高 21m、形状比 66
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。マツ枯れが見られる。ミズナラ、ヤマザクラ、ウワミズザクラ等の高木性の広葉樹が多く混じる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-49 地区の標準地

図表 420 S-49 地区の施業内容

施業種	人工林整理伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	148 本(400 本/ha)、125.80m <sup>3</sup> (340.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 32cm、平均樹高 22m
伐採率	50.0%(本数)、51.7%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 421 にまとめる。

図表 421 S-49 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	人工アカマツ	人工林 整理伐 ⇒	人工アカマツ
実測面積	0.37ha		0.37ha
本数	296 本(800 本/ha)		148 本(400 本/ha)
蓄積	243.46m <sup>3</sup> (658.0m <sup>3</sup> /ha)		117.66m <sup>3</sup> (318.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	32cm、21m		32cm、21m
相対幹距比(Sr)	17%		24%
形状比(H/D)	形状比 66		形状比 66

○将来計画

10年後には標準伐期齢に達しているため、アカマツを主伐し広葉樹林化を図る。

図表 422 S-49 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	13	人工林整理伐 50.0%(整備後本数 400 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	15	主伐 100.0%(整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

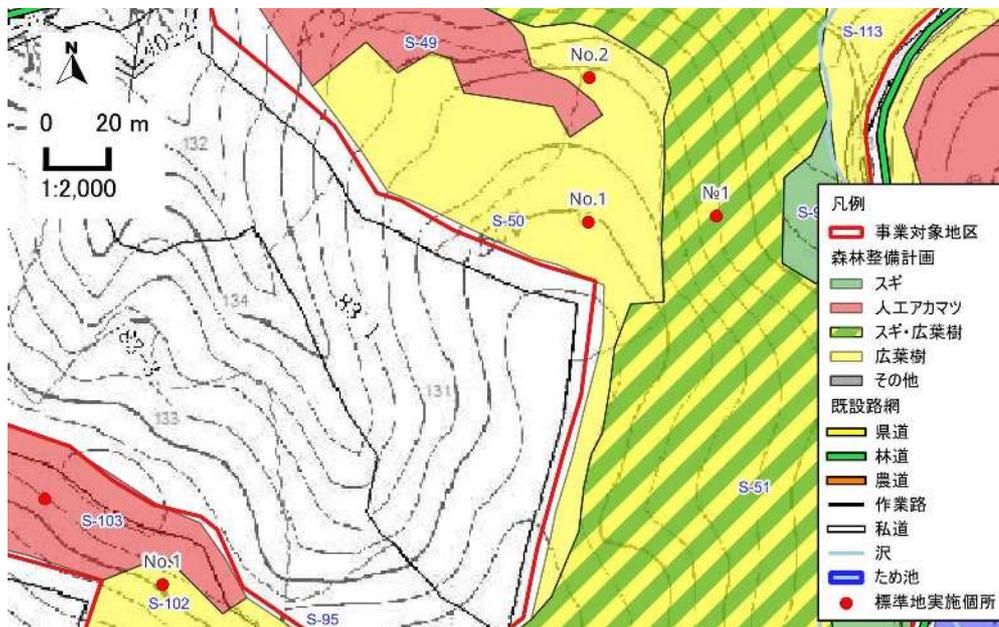
図表 423 S-49 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		125.80	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	84.92	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C 材等	17.49	m3	13.9%	残置	—
	その他	23.27	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		28.93	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.52 詳細設計(S-50 地区)

図表 424 S-50 地区



標準地調査の結果をもとに、S-50 地区の現況について図表 425 にまとめる。

図表 425 S-50 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹、12～15 齢級(59～72 年生)
実測面積	0.65ha
標準地 <sup>※1</sup>	2 箇所(200m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	1,560 本(2,400 本/ha)、313.30m <sup>3</sup> (482.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 16cm、平均樹高 12m、形状比 75
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	コナラ、アカシデ、ヤマザクラ等の高木性の樹種が多い。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-50 地区の No. 1 標準地



S-50 地区の No. 2 標準地

図表 426 S-50 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	1,105 本(1,700 本/ha)、273.65m <sup>3</sup> (421.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 17cm、平均樹高 13m
伐採率	69.0%(本数)、87.9%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 427 にまとめる。

図表 427 S-50 地区の整備後の状況

区 分	整備前	更新伐 ⇒	整備後
樹種	広葉樹		広葉樹
実測面積	0.65ha		0.65ha
本数	1,560本(2,400本/ha)		455本(700本/ha)
蓄積	313.30m <sup>3</sup> (482.0m <sup>3</sup> /ha)		39.65m <sup>3</sup> (61.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	16cm、12m		12cm、11m
相対幹距比(Sr)	17%		34%
形状比(H/D)	形状比 75		形状比 92

○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 428 S-50 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	13~15	更新伐 69.0%(整備後本数 700 本/ha)
...	...	...
令和 11 年	1	萌芽整理
...	...	...
令和 18 年	2~	除伐

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

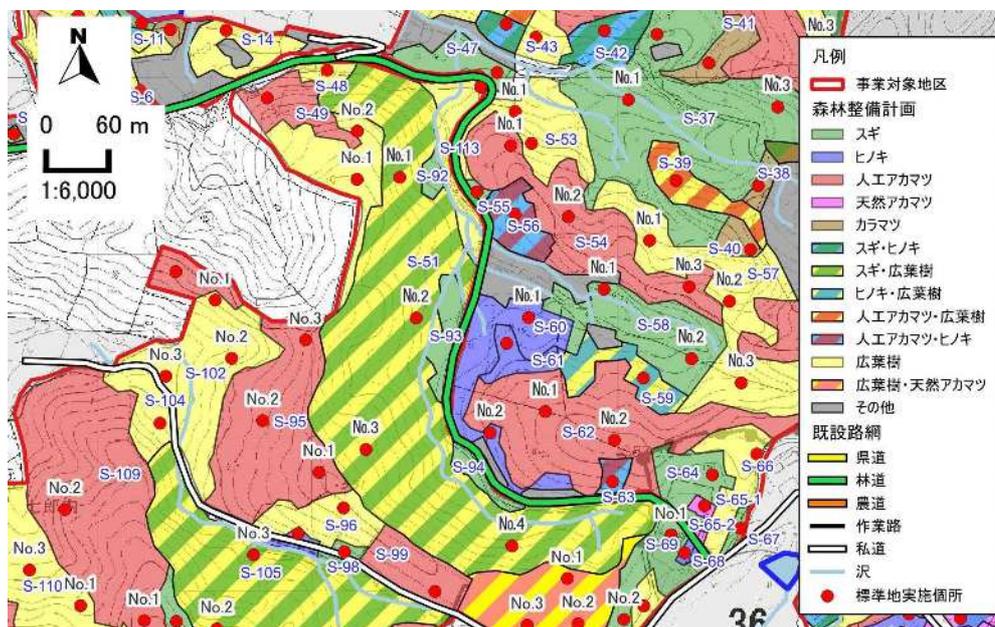
図表 429 S-50 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		273.65	m <sup>3</sup>	—	—	—
内 訳	AB材	184.71	m <sup>3</sup>	67.5%	搬出利用	チップ材
	C材等	38.04	m <sup>3</sup>	13.9%	棚積み	—
	その他	50.63	m <sup>3</sup>	18.5%	棚積み	—
枝 葉		87.57	m <sup>3</sup>	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.53 詳細設計(S-51 地区)

図表 430 S-51 地区



標準地調査の結果をもとに、S-51 地区の現況について図表 431 にまとめる。

図表 431 S-51 地区の現況

施業種	除伐
樹種・齢級	スギ・広葉樹、3 齢級(14 年生)
実測面積	5.41ha
標準地 <sup>※1</sup>	4 箇所(400m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	20,558 本(3,800 本/ha)、667.59m <sup>3</sup> (123.4m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 8cm、平均樹高 7m、形状比 88
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。スギが広葉樹に被圧されている。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-51 地区のNo.1 標準地



S-51 地区のNo.2 標準地



S-51 地区のNo.3 標準地



S-51 地区のNo.4 標準地

図表 432 S-51 地区の施業内容

施業種	除伐
方針	スギの不良木・広葉樹の不用木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	7,033 本(1,300 本/ha)、86.56m <sup>3</sup> (16.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 6cm、平均樹高 7m
伐採率	34.2%(本数)、19.0%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 433 にまとめる。

図表 433 S-51 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	スギ・広葉樹	除伐 ⇒	スギ・広葉樹
実測面積	5.41ha		5.41ha
本数	20,558 本(3,800 本/ha)		13,525 本(2,500 本/ha)
蓄積	667.59m <sup>3</sup> (123.4m <sup>3</sup> /ha)		581.03m <sup>3</sup> (107.4m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	8cm、7m		8cm、7m
相対幹距比(Sr)	23%		29%
形状比(H/D)	形状比 88		形状比 88

## ○将来計画

林木の成長に伴い、再び林内の光環境が悪化していくため、今後 10 年程度の間隔で間伐を実施することが望ましい。

図表 434 S-51 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	4	除伐 34.2%(整備後本数 2,500 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	6	間伐 30.0%(整備後本数 1,750 本/ha)
...	...	...
令和 28 年	8	間伐 30.0%(整備後本数 1,225 本/ha)

## ○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

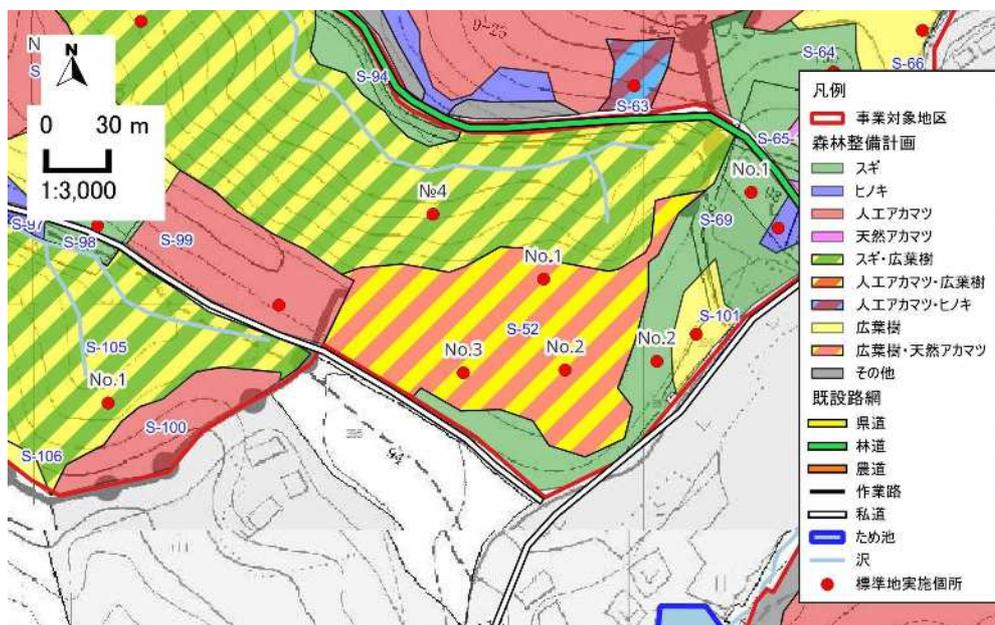
図表 435 S-51 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		86.56	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	58.43	m3	67.5%	残置	—
	C 材等	12.03	m3	13.9%	残置	—
	その他	16.01	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		19.91	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.54 詳細設計(S-52 地区)

図表 436 S-52 地区



標準地調査の結果をもとに、S-52 地区の現況について図表 437 にまとめる。

図表 437 S-52 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹・天然アカマツ、12～15 齢級 (57～72 年生)
実測面積	1.05ha
標準地 <sup>※1</sup>	3 箇所 (300m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	2,310 本 (2,200 本/ha)、410.24m <sup>3</sup> (390.7m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 15cm、平均樹高 12m、形状比 80
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。マツ枯れが見られる。モミが混じる。コシアブラ、コナラ、ヤマザクラ等の高木性の広葉樹が多く混じる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-52 地区の No. 1 標準地



S-52 地区の No. 2 標準地



S-52 地区の No. 3 標準地

図表 438 S-52 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積※1	1,470本(1,400本/ha)、322.67m <sup>3</sup> (307.3m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高※1	平均直径16cm、平均樹高13m
伐採率	66.0%(本数)、78.9%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ。の値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 439 にまとめる。

図表 439 S-52 地区の整備後の状況

区 分	整備前		整備後
樹種	広葉樹・天然アカマツ	更新伐 ⇒	広葉樹・天然アカマツ
実測面積	1.05ha		1.05ha
本数	2,310本(2,200本/ha)		840本(800本/ha)
蓄積	410.24m <sup>3</sup> (390.7m <sup>3</sup> /ha)		87.47m <sup>3</sup> (83.3m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	15cm、12m		13cm、12m
相対幹距比(Sr)	18%		29%
形状比(H/D)	形状比80		形状比92

○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 440 S-52 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和8年	12~15	更新伐 66.0%(整備後本数800本/ha)
...	...	...
令和11年	1	萌芽整理
...	...	...
令和18年	2~	除伐

## ○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

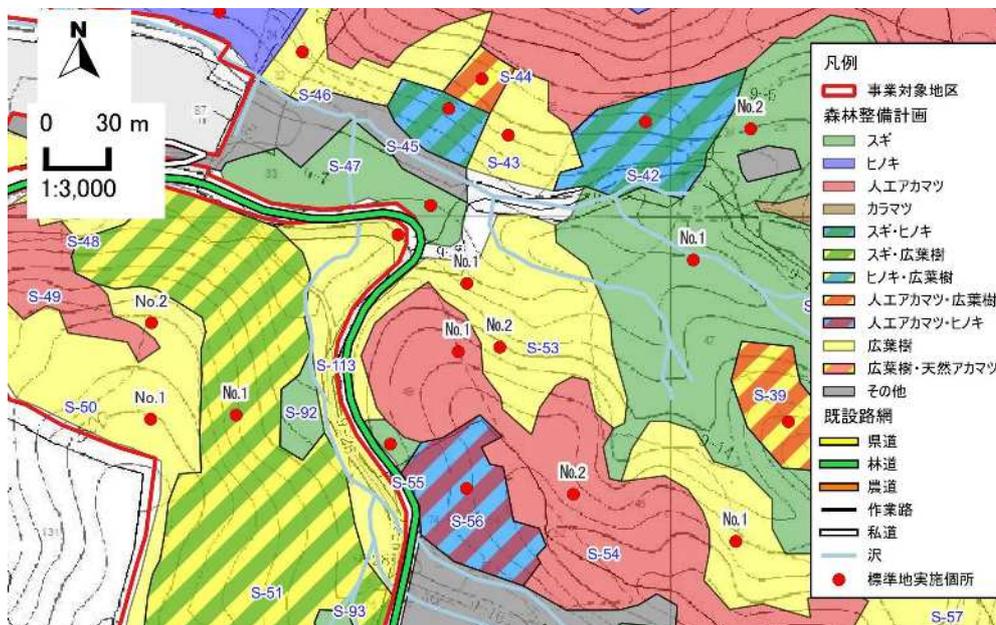
図表 441 S-52 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		322.67	m3	—	—	—
内 訳	AB材	217.80	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C材等	44.85	m3	13.9%	棚積み	—
	その他	59.69	m3	18.5%	棚積み	—
枝 葉		103.25	m3	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.55 詳細設計(S-53 地区)

図表 442 S-53 地区



標準地調査の結果をもとに、S-53 地区の現況について図表 443 にまとめる。

図表 443 S-53 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹、11～13 齢級(55～62 年生)
実測面積	0.63ha
標準地 <sup>※1</sup>	2 箇所(200m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	819 本(1,300 本/ha)、100.49m <sup>3</sup> (159.5m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 15cm、平均樹高 11m、形状比 73
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	コナラ、ウワミズザクラ、ヤマザクラ等の高木性の樹種が多い。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-53 地区のNo.1 標準地



S-53 地区のNo.2 標準地

図表 444 S-53 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	567 本(900 本/ha)、78.44m <sup>3</sup> (124.5m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 16cm、平均樹高 11m
伐採率	69.4%(本数)、77.9%(材積)
その他	なし

※1 上層木のための値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 445 にまとめる。

図表 445 S-53 地区の整備後の状況

区 分	整備前	更新伐 ⇒	整備後
樹種	広葉樹		広葉樹
実測面積	0.63ha		0.63ha
本数	819本(1,300本/ha)		252本(400本/ha)
蓄積	100.49m <sup>3</sup> (159.5m <sup>3</sup> /ha)		22.05m <sup>3</sup> (35.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	15cm、11m		14cm、11m
相対幹距比(Sr)	25%		45%
形状比(H/D)	形状比 73		形状比 79

○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 446 S-53 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	12~13	更新伐 69.4%(整備後本数 400 本/ha)
...	...	...
令和 11 年	1	萌芽整理
...	...	...
令和 18 年	2~	除伐

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

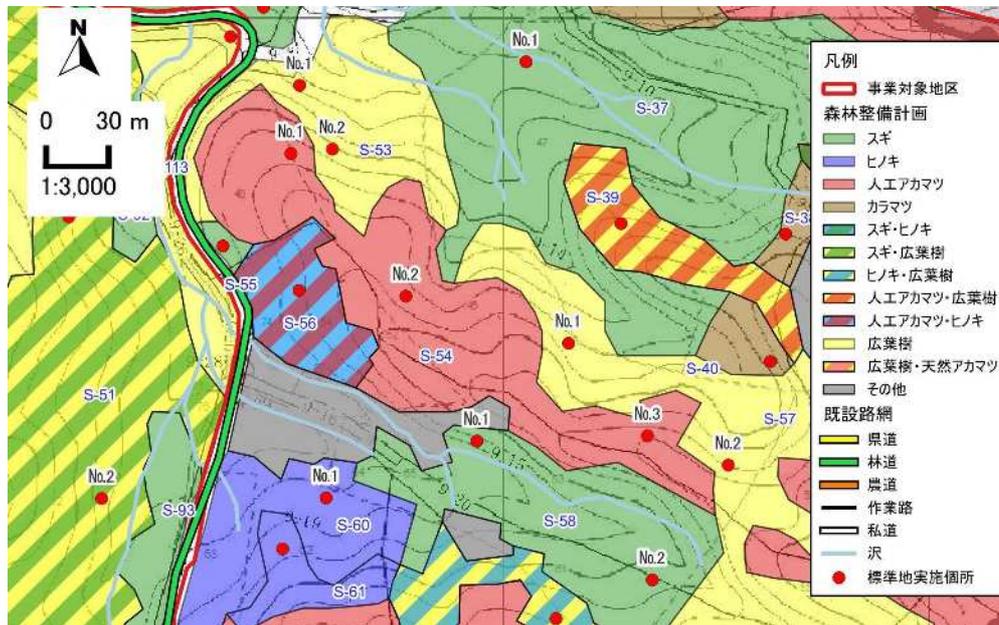
図表 447 S-54 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		78.44	m <sup>3</sup>	—	—	—
内 訳	AB材	52.95	m <sup>3</sup>	67.5%	搬出利用	チップ材
	C材等	10.90	m <sup>3</sup>	13.9%	棚積み	—
	その他	14.51	m <sup>3</sup>	18.5%	棚積み	—
枝 葉		25.10	m <sup>3</sup>	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.56 詳細設計(S-54 地区)

図表 448 S-54 地区



標準地調査の結果をもとに、S-54 地区の現況について図表 449 にまとめる。

図表 449 S-54 地区の現況

施業種	人工林整理伐
樹種・齢級	人工アカマツ、13 齢級(62 年生)
実測面積	1.33ha
標準地 <sup>※1</sup>	3 箇所(300m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	1,463 本(1,100 本/ha)、1,048.44m <sup>3</sup> (788.3m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 31cm、平均樹高 19m、形状比 61
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。コナラ、クリ、ヤマザクラ等の高木性の広葉樹が多く混じる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-54 地区のNo.1 標準地



S-54 地区のNo.2 標準地



S-54 地区のNo.3 標準地

図表 450 S-54 地区の施業内容

施業種	人工林整理伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	665 本(500 本/ha)、495.69m <sup>3</sup> (372.7m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 31cm、平均樹高 19m
伐採率	46.9%(本数)、46.7%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 451 にまとめる。

図表 451 S-54 地区の整備後の状況

区 分	整備前		整備後
樹種	人工アカマツ	人工林 整理伐 ⇒	人工アカマツ
実測面積	1.33ha		1.33ha
本数	1,463 本(1,100 本/ha)		798 本(600 本/ha)
蓄積	1,048.44m <sup>3</sup> (788.3m <sup>3</sup> /ha)		552.88m <sup>3</sup> (415.7m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	31cm、19m		31cm、19m
相対幹距比(Sr)	16%		21%
形状比(H/D)	形状比 61		形状比 61

#### ○将来計画

10 年後には標準伐期齢に達しているため、アカマツを主伐し広葉樹林化を図る。

図表 452 S-54 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	13	人工林整理伐 46.9%(整備後本数 600 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	15	主伐 100.0%(整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

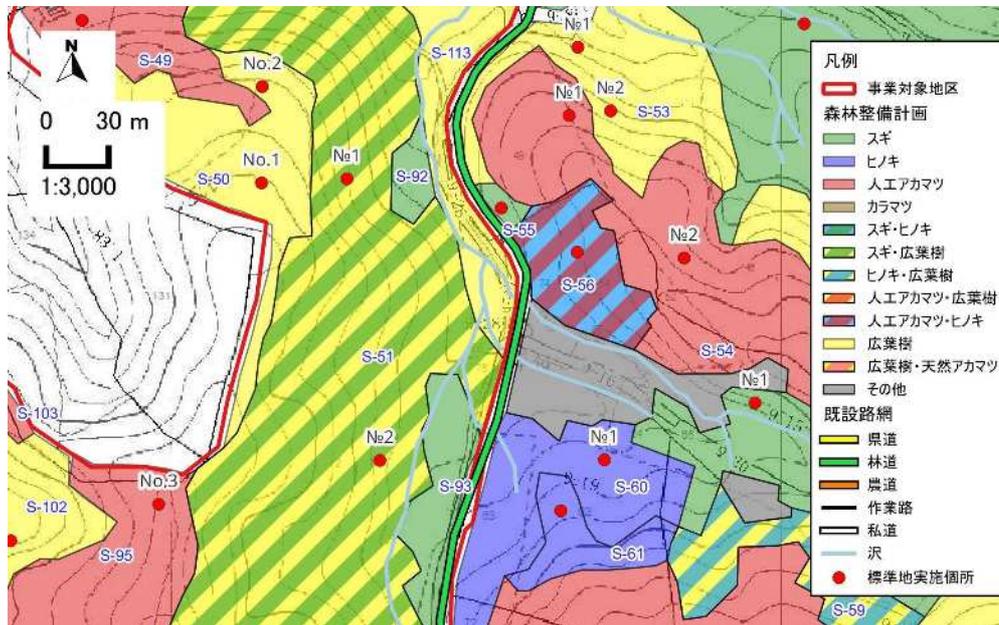
図表 453 S-54 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		495.69	m3	—	—	—
内 訳	AB材	334.59	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C材等	68.90	m3	13.9%	残置	—
	その他	91.70	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		114.01	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.57 詳細設計(S-55 地区)

図表 454 S-55 地区



標準地調査の結果をもとに、S-55 地区の現況について図表 455 にまとめる。

図表 455 S-55 地区の現況

施業種	利用間伐
樹種・齢級	スギ、13 齢級(62 年生)
実測面積	0.03ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	36 本(1,200 本/ha)、37.17m <sup>3</sup> (1,239.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 35cm、平均樹高 22m、形状比 63
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	二又等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-55 地区の標準地

図表 456 S-55 地区の施業内容

施業種	利用間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	12 本(400 本/ha)、11.16m <sup>3</sup> (372.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 35cm、平均樹高 20m
伐採率	33.3%(本数)、30.0%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 457 にまとめる。

図表 457 S-55 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	スギ	利用間伐 ⇒	スギ
実測面積	0.03ha		0.03ha
本数	36 本(1,200 本/ha)		24 本(800 本/ha)
蓄積	37.17m <sup>3</sup> (1,239.0m <sup>3</sup> /ha)		26.01m <sup>3</sup> (867.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	35cm、22m		35cm、22m
相対幹距比(Sr)	13%		16%
形状比(H/D)	形状比 63		形状比 63

## ○将来計画

10年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 458 S-55 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	13	利用間伐 33.3% (整備後本数 800 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	15	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

## ○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

図表 459 S-55 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		11.16	m3	—	—	—
内 訳	AB材	7.53	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C材等	1.55	m3	13.9%	残置	—
	その他	2.06	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		2.57	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。





S-56 地区の標準地

図表 462 S-56 地区の施業内容

施業種	保育間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	186 本(600 本/ha)、14.88m <sup>3</sup> (48.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 13cm、平均樹高 11m
伐採率	37.5%(本数)、7.5%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 463 にまとめる。

図表 463 S-56 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	人工アカマツ・ヒノキ	保育間伐 ⇒	人工アカマツ・ヒノキ
実測面積	0.31ha		0.31ha
本数	496 本(1,600 本/ha)		310 本(1,000 本/ha)
蓄積	198.09m <sup>3</sup> (639.0m <sup>3</sup> /ha)		183.21m <sup>3</sup> (591.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	19cm、14m		23cm、16m
相対幹距比(Sr)	18%		20%
形状比(H/D)	形状比 74		形状比 70

○将来計画

林木の成長に伴い、再び林内の光環境が悪化していくため、今後 10 年程度の間隔で間伐を実施することが望ましい。

図表 464 S-56 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	5~13	保育間伐 37.5%(整備後本数 1,000 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	7~15	間伐 30.0%(整備後本数 700 本/ha)
...	...	...
令和 28 年	9~17	間伐 30.0%(整備後本数 490 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

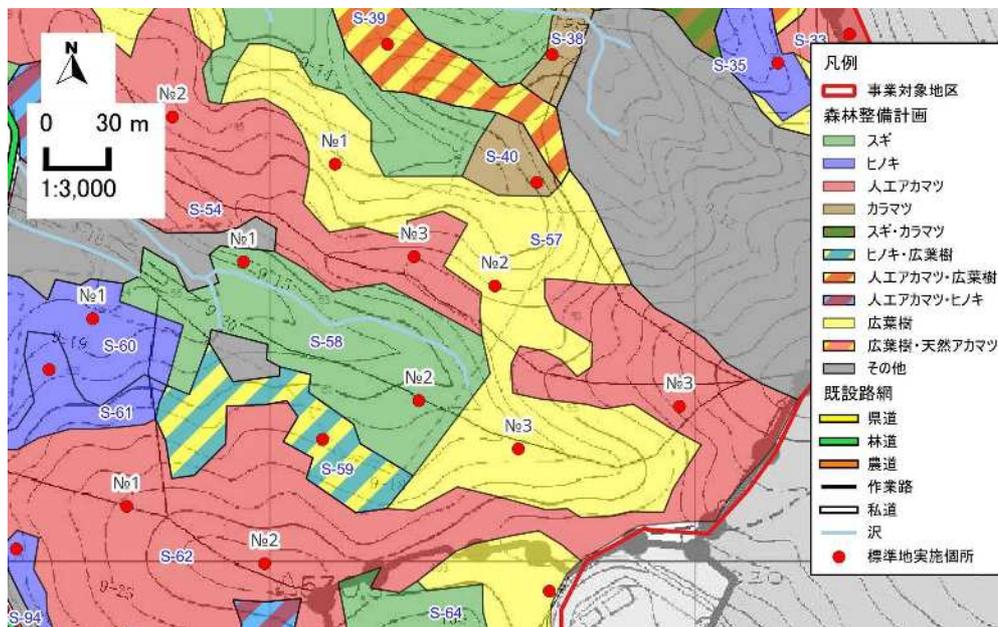
図表 465 S-56 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		14.88	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	10.04	m3	67.5%	残置	—
	C 材等	2.07	m3	13.9%	残置	—
	その他	2.75	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		3.42	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.59 詳細設計(S-57 地区)

図表 466 S-57 地区



標準地調査の結果をもとに、S-57 地区の現況について図表 467 にまとめる。

図表 467 S-57 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹、11～13 齢級(55～62 年生)
実測面積	1.46ha
標準地 <sup>※1</sup>	3 箇所(300m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	1,752 本(1,200 本/ha)、393.18m <sup>3</sup> (269.3m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 19cm、平均樹高 11m、形状比 58
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	コナラ、クリ、ヤマザクラ等の高木性の樹種が多い。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-57 地区のNo.1 標準地



S-57 地区のNo.2 標準地



S-57 地区のNo.3 標準地

図表 468 S-57 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	1,168本(800本/ha)、283.24m <sup>3</sup> (194.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径20cm、平均樹高11m
伐採率	66.5%(本数)、72.5%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 469 にまとめる。

図表 469 S-57 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	広葉樹	更新伐 ⇒	広葉樹
実測面積	1.46ha		1.46ha
本数	1,752本(1,200本/ha)		584本(400本/ha)
蓄積	393.18m <sup>3</sup> (269.3m <sup>3</sup> /ha)		109.94m <sup>3</sup> (75.3m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	19cm、11m		19cm、11m
相対幹距比(Sr)	26%		45%
形状比(H/D)	形状比58		形状比58

#### ○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 470 S-57 地区の将来計画

年	齢級	施業
令和8年	12~13	更新伐 66.5%(整備後本数400本/ha)
...	...	...
令和11年	1	萌芽整理
...	...	...
令和18年	2~	除伐

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

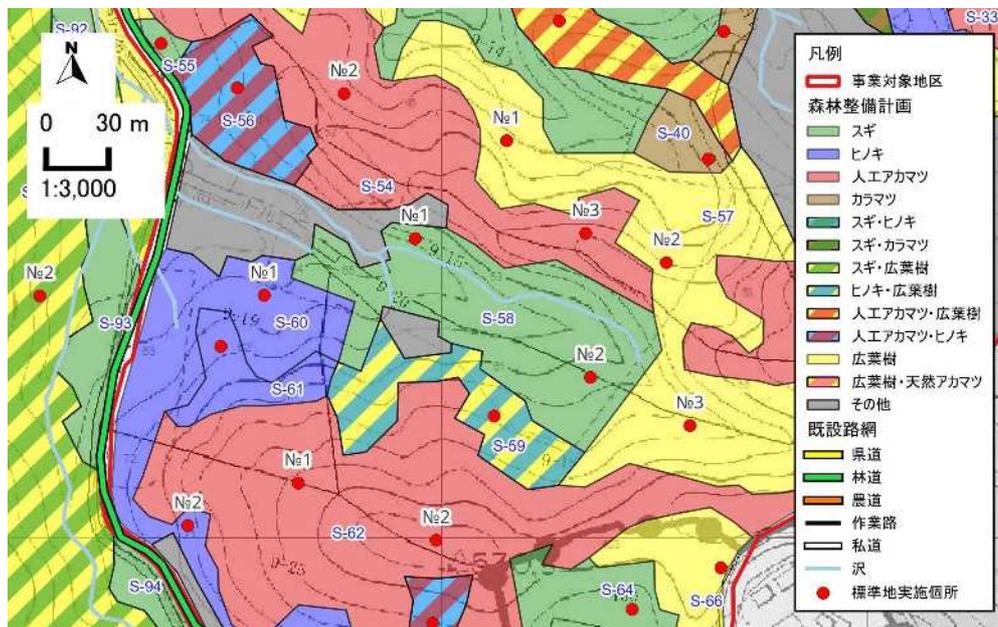
図表 471 S-57 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		283.24	m3	—	—	—
内 訳	AB材	191.19	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C材等	39.37	m3	13.9%	棚積み	—
	その他	52.40	m3	18.5%	棚積み	—
枝 葉		90.64	m3	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.60 詳細設計(S-58 地区)

図表 472 S-58 地区



標準地調査の結果をもとに、S-58 地区の現況について図表 473 にまとめる。

図表 473 S-58 地区の現況

施業種	利用間伐
樹種・齢級	スギ、14 齢級(68 年生)
実測面積	0.90ha
標準地 <sup>※1</sup>	2 箇所(200m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	990 本(1,100 本/ha)、1,117.35m <sup>3</sup> (1,241.5m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 35cm、平均樹高 26m、形状比 74
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は乏しく、高木性・低木性の広葉樹が主に見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-58 地区のNo.1 標準地



S-58 地区のNo.2 標準地

図表 474 S-58 地区の施業内容

施業種	利用間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	360 本(400 本/ha)、326.25m <sup>3</sup> (362.5m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 31cm、平均樹高 25m
伐採率	38.2%(本数)、29.0%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 475 にまとめる。

図表 475 S-58 地区の整備後の状況

区 分	整備前	利用間伐 ⇒	整備後
樹種	スギ		スギ
実測面積	0.90ha		0.90ha
本数	990 本(1,100 本/ha)		630 本(700 本/ha)
蓄積	1,117.35m <sup>3</sup> (1,241.5m <sup>3</sup> /ha)		791.10m <sup>3</sup> (879.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	35cm、26m		37cm、27m
相対幹距比(Sr)	12%		14%
形状比(H/D)	形状比 74		形状比 73

○将来計画

10 年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 476 S-58 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	14	利用間伐 38.2%(整備後本数 700 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	16	主伐 100.0%(整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

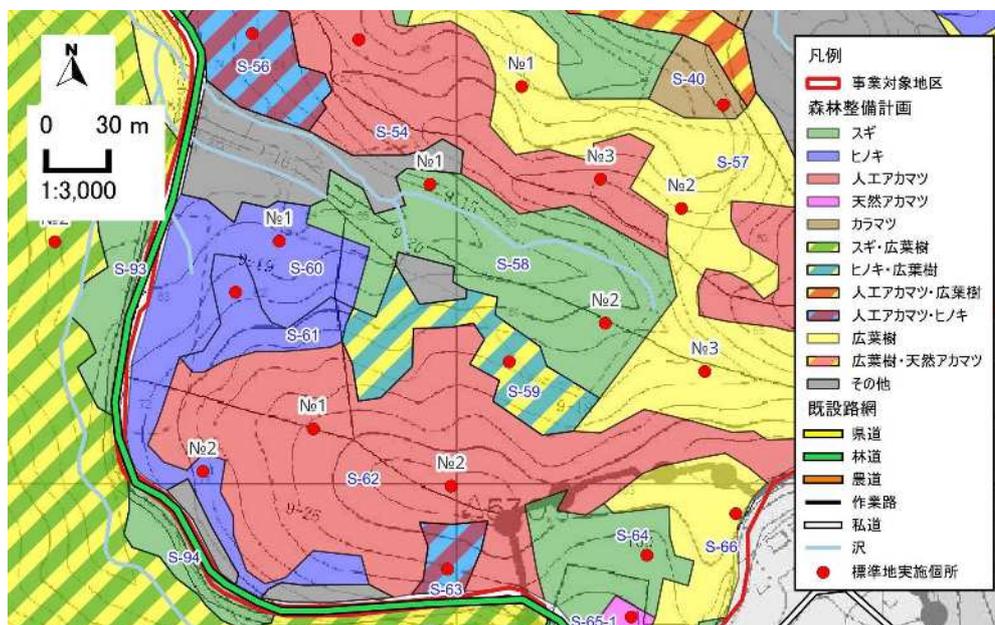
図表 477 S-58 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		326.25	m <sup>3</sup>	—	—	—
内 訳	AB 材	220.22	m <sup>3</sup>	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	45.35	m <sup>3</sup>	13.9%	残置	—
	その他	60.36	m <sup>3</sup>	18.5%	残置	—
枝 葉		75.04	m <sup>3</sup>	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.61 詳細設計(S-59 地区)

図表 478 S-59 地区



標準地調査の結果をもとに、S-59 地区の現況について図表 479 にまとめる。

図表 479 S-59 地区の現況

施業種	人工林整理伐
樹種・齢級	ヒノキ・広葉樹、4 齢級(20 年生)
実測面積	0.36ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	612 本(1,700 本/ha)、102.60m <sup>3</sup> (285.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 16cm、平均樹高 12m、形状比 75
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	ヒノキの曲がり等の不良木が多数発生している。また、広葉樹に被圧されている。 広葉樹は、ミズキ、クリラ、ホオノキ等の高木性の樹種が多い。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-59 地区の標準地

図表 480 S-59 地区の施業内容

施業種	人工林整理伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	288 本(800 本/ha)、56.52m <sup>3</sup> (157.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 17cm、平均樹高 12m
伐採率	47.1%(本数)、55.1%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 481 にまとめる。

図表 481 S-59 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	ヒノキ・広葉樹	人工林 整理伐 ⇒	ヒノキ・広葉樹
実測面積	0.36ha		0.36ha
本数	612 本(1,700 本/ha)		324 本(900 本/ha)
蓄積	102.60m <sup>3</sup> (285.0m <sup>3</sup> /ha)		46.08m <sup>3</sup> (128.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	16cm、12m		16cm、12m
相対幹距比(Sr)	20%		28%
形状比(H/D)	形状比 75		形状比 75

○将来計画

ヒノキを主伐し広葉樹林化を図る。

図表 482 S-59 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	5	人工林整理伐 47.1% (整備後本数 900 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	7	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

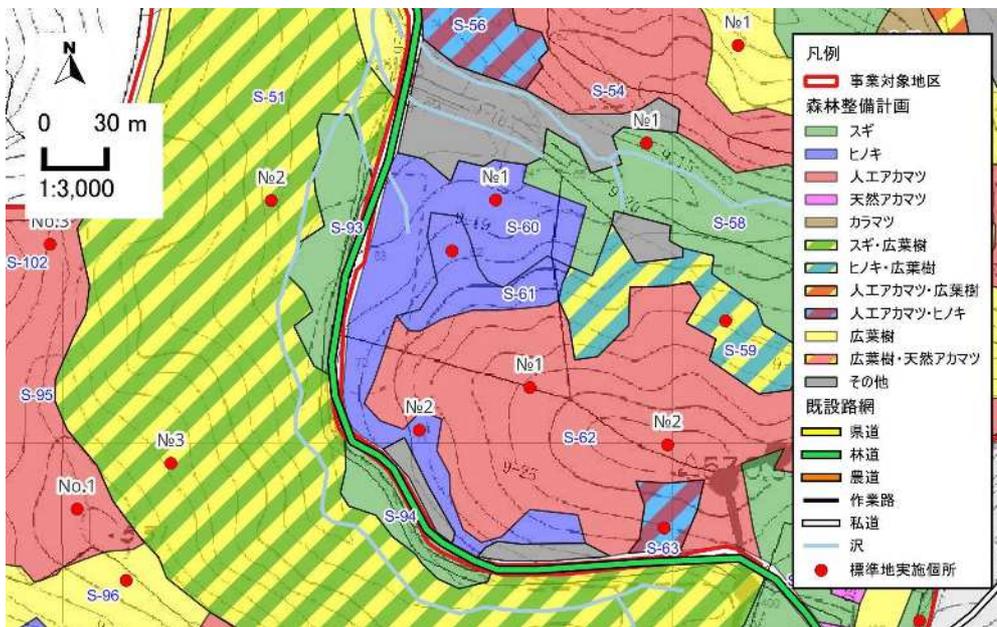
図表 483 S-59 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		56.52	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	38.15	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C 材等	7.86	m3	13.9%	残置	—
	その他	10.46	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		13.00	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.62 詳細設計(S-60 地区)

図表 484 S-60 地区



標準地調査の結果をもとに、S-60 地区の現況について図表 485 にまとめる。

図表 485 S-60 地区の現況

施業種	利用間伐
樹種・齢級	ヒノキ、8 齢級 (36 年生)
実測面積	0.70ha
標準地 <sup>※1</sup>	2 箇所 (200m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	910 本 (1,300 本/ha)、362.95m <sup>3</sup> (518.5m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 24cm、平均樹高 18m、形状比 75
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-60 地区のNo.1 標準地



S-60 地区のNo.2 標準地

図表 486 S-60 地区の施業内容

施業種	利用間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	350 本(500 本/ha)、78.75m <sup>3</sup> (112.5m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 19cm、平均樹高 17m
伐採率	36.1%(本数)、21.9%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 487 にまとめる。

図表 487 S-60 地区の整備後の状況

区 分	整備前		整備後
樹種	ヒノキ	利用間伐 ⇒	ヒノキ
実測面積	0.70ha		0.70ha
本数	910 本(1,300 本/ha)		560 本(800 本/ha)
蓄積	362.95m <sup>3</sup> (518.5m <sup>3</sup> /ha)		284.20m <sup>3</sup> (406.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	24cm、18m		27cm、19m
相対幹距比(Sr)	15%		19%
形状比(H/D)	形状比 75		形状比 70

○将来計画

林木の成長に伴い、再び林内の光環境が悪化していくため、今後 10 年程度の間隔で間伐を実施することが望ましい。

図表 488 S-60 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	8	利用間伐 36.1%(整備後本数 800 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	10	間伐 30.0%(整備後本数 560 本/ha)
...	...	...
令和 28 年	12	主伐 100.0%(整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

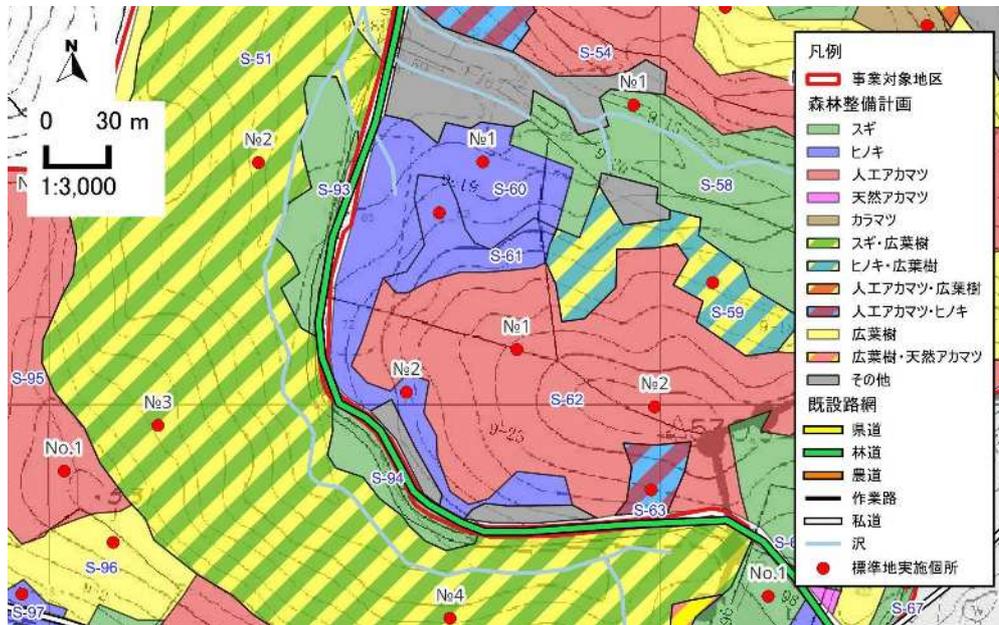
図表 489 S-60 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		78.75	m3	—	—	—
内 訳	AB材	53.16	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C材等	10.95	m3	13.9%	残置	—
	その他	14.57	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		18.11	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.63 詳細設計(S-61 地区)

図表 490 S-61 地区



標準地調査の結果をもとに、S-61 地区の現況について図表 491 にまとめる。

図表 491 S-61 地区の現況

施業種	保育間伐
樹種・齢級	ヒノキ、4 齢級(20 年生)
実測面積	0.19ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	570 本(3,000 本/ha)、34.39m <sup>3</sup> (181.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 11cm、平均樹高 10m、形状比 91
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-61 地区の標準地

図表 492 S-61 地区の施業内容

施業種	保育間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	152 本(800 本/ha)、6.84m <sup>3</sup> (36.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 10cm、平均樹高 9m
伐採率	26.7%(本数)、19.9%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 493 にまとめる。

図表 493 S-61 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	ヒノキ	保育間伐 ⇒	ヒノキ
実測面積	0.19ha		0.19ha
本数	570 本(3,000 本/ha)		418 本(2,200 本/ha)
蓄積	34.39m <sup>3</sup> (181.0m <sup>3</sup> /ha)		27.55m <sup>3</sup> (145.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	11cm、10m		11cm、10m
相対幹距比(Sr)	18%		21%
形状比(H/D)	形状比 91		形状比 91

## ○将来計画

林木の成長に伴い、再び林内の光環境が悪化していくため、今後 10 年程度の間隔で間伐を実施することが望ましい。

図表 494 S-61 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	5	保育間伐 26.7%(整備後本数 2,200 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	7	間伐 30.0%(整備後本数 1,540 本/ha)
...	...	...
令和 28 年	9	間伐 30.0%(整備後本数 1,078 本/ha)

## ○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

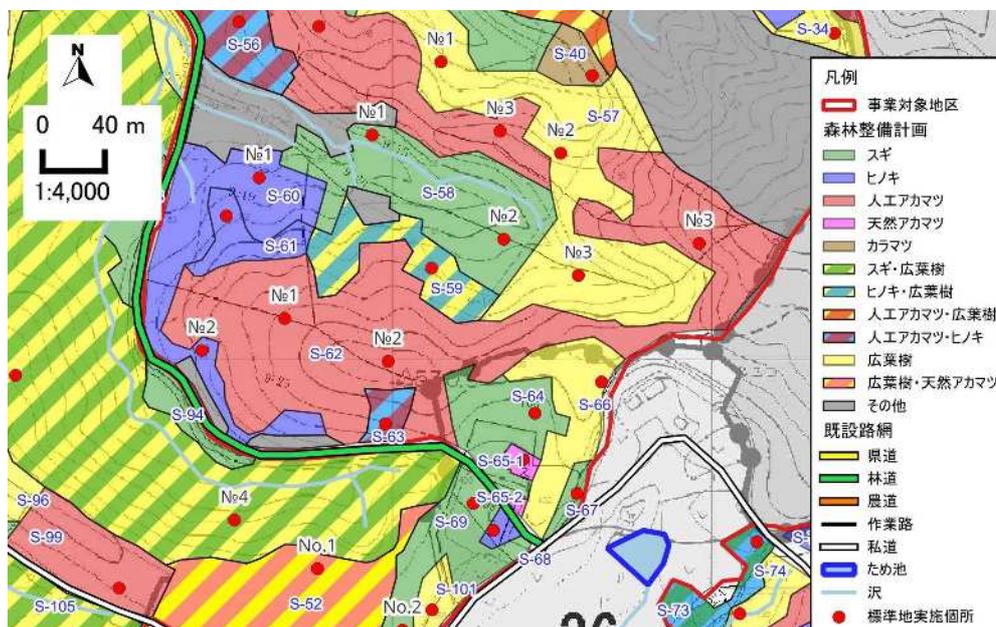
図表 495 S-61 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		6.84	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	4.62	m3	67.5%	残置	—
	C 材等	0.95	m3	13.9%	残置	—
	その他	1.27	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		1.57	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.64 詳細設計(S-62 地区)

図表 496 S-62 地区



標準地調査の結果をもとに、S-62 地区の現況について図表 497 にまとめる。

図表 497 S-62 地区の現況

施業種	人工林整理伐
樹種・齢級	人工アカマツ、13 齢級(62 年生)
実測面積	2.60ha
標準地 <sup>※1</sup>	3 箇所(300m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	2,340 本(900 本/ha)、2,169.18m <sup>3</sup> (834.3m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 33cm、平均樹高 23m、形状比 70
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。コシアブラ、ミズキ、ウワミズザクラ等の高木性の広葉樹が多く混じる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-62 地区のNo.1 標準地



S-62 地区のNo.2 標準地



S-62 地区のNo.3 標準地

図表 498 S-62 地区の施業内容

施業種	人工林整理伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積※1	1,040本(400本/ha)、1,355.38m <sup>3</sup> (521.3m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高※1	平均直径38cm、平均樹高23m
伐採率	46.3%(本数)、62.2%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ。の値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 499 にまとめる。

図表 499 S-62 地区の整備後の状況

区 分	整備前		整備後
樹種	人工アカマツ	人工林 整理伐 ⇒	人工アカマツ
実測面積	2.60ha		2.60ha
本数	2,340本(900本/ha)		1,300本(500本/ha)
蓄積	2,169.18m <sup>3</sup> (834.3m <sup>3</sup> /ha)		813.80m <sup>3</sup> (313.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	33cm、23m		28cm、22m
相対幹距比(Sr)	14%		20%
形状比(H/D)	形状比70		形状比79

○将来計画

10年後には標準伐期齢に達しているため、アカマツを主伐し広葉樹林化を図る。

図表 500 S-62 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和8年	13	人工林整理伐 46.3%(整備後本数500本/ha)
...	...	...
令和18年	15	主伐 100.0%(整備後本数0本/ha)

## ○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

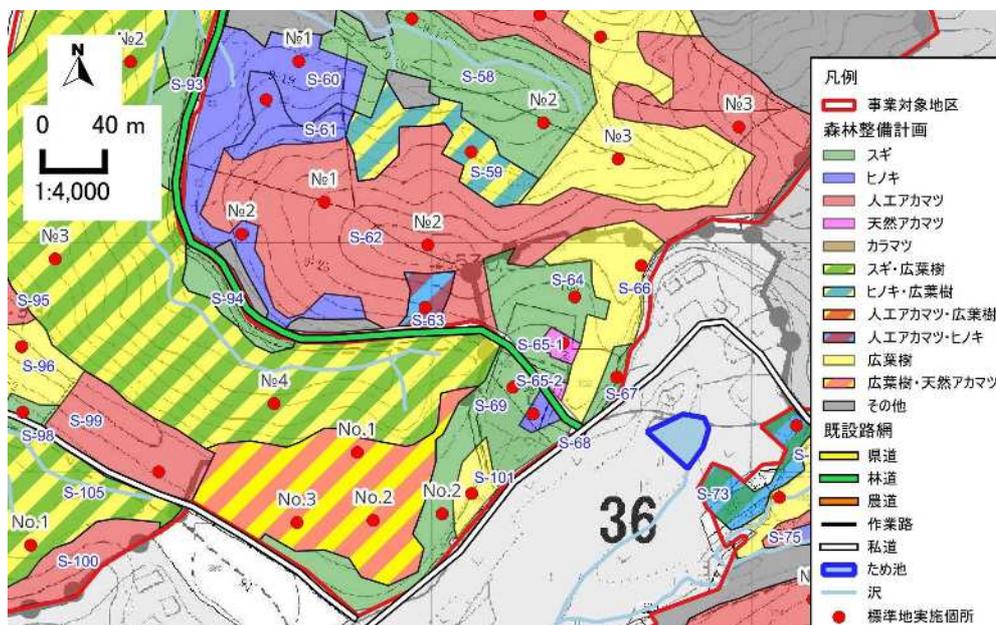
図表 501 S-62 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		1,355.38	m3	—	—	—
内 訳	AB材	914.88	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C材等	188.40	m3	13.9%	残置	—
	その他	250.75	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		311.74	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は1.23、広葉樹は1.32。

1.65 詳細設計(S-63 地区)

図表 502 S-63 地区



標準地調査の結果をもとに、S-63 地区の現況について図表 503 にまとめる。

図表 503 S-63 地区の現況

施業種	利用間伐
樹種・齢級	人工アカマツ・ヒノキ、8～13 齢級(36～62 年生)
実測面積	0.09ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	135 本(1,500 本/ha)、31.05m <sup>3</sup> (345.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 18cm、平均樹高 17m、形状比 94
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	アカマツを上層、ヒノキを下層とした複層林(二段林)。 立木密度が高い。
下層植生	下層植生は乏しく、高木性・低木性の広葉樹が主に見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-63 地区の標準地

図表 504 S-63 地区の施業内容

施業種	利用間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	36 本(400 本/ha)、7.74m <sup>3</sup> (86.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 17cm、平均樹高 16m
伐採率	26.7%(本数)、24.9%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 505 にまとめる。

図表 505 S-63 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	人工アカマツ・ヒノキ	利用間伐 ⇒	人工アカマツ・ヒノキ
実測面積	0.09ha		0.09ha
本数	135 本(1,500 本/ha)		99 本(1,100 本/ha)
蓄積	31.05m <sup>3</sup> (345.0m <sup>3</sup> /ha)		23.31m <sup>3</sup> (259.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	18cm、17m		18cm、17m
相対幹距比(Sr)	15%		18%
形状比(H/D)	形状比 94		形状比 94

○将来計画

10年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 506 S-63 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	8~13	利用間伐 26.7%(整備後本数 1,100 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	10~15	主伐 100.0%(整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

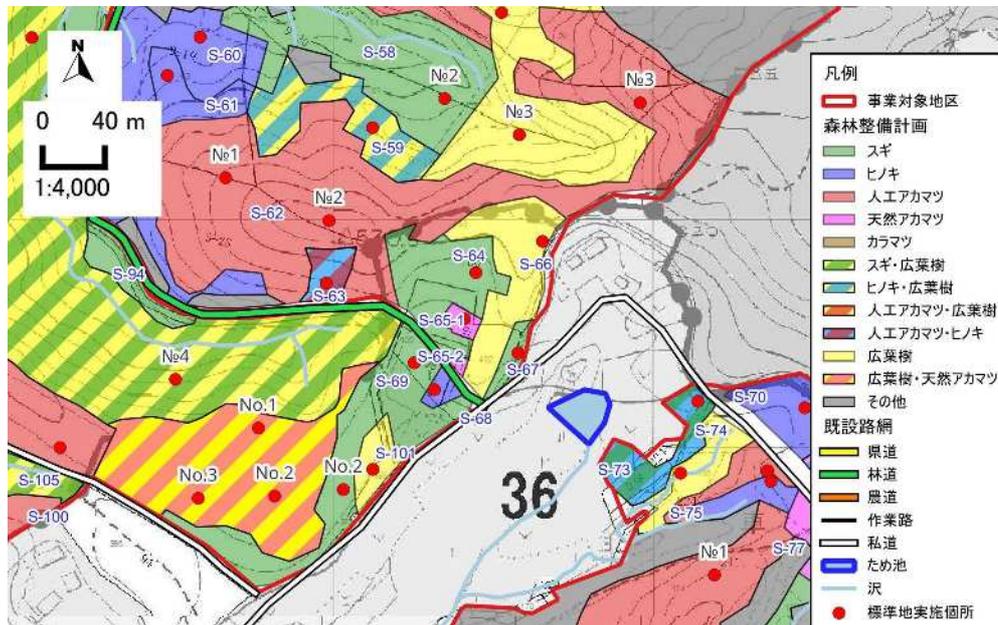
図表 507 S-63 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		7.74	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	5.22	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	1.08	m3	13.9%	残置	—
	その他	1.43	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		1.78	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.66 詳細設計(S-64 地区)

図表 508 S-64 地区



標準地調査の結果をもとに、S-64 地区の現況について図表 509 にまとめる。

図表 509 S-64 地区の現況

施業種	利用間伐
樹種・齢級	スギ、14 齢級(70 年生)
実測面積	0.37ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	481 本(1,300 本/ha)、554.63m <sup>3</sup> (1,499.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 33cm、平均樹高 25m、形状比 76
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は乏しく、低木性の広葉樹が主に見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-64 地区の標準地

図表 510 S-64 地区の施業内容

施業種	利用間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	185 本(500 本/ha)、97.68m <sup>3</sup> (264.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 24cm、平均樹高 23m
伐採率	38.5%(本数)、17.6%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 511 にまとめる。

図表 511 S-64 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	スギ	利用間伐 ⇒	スギ
実測面積	0.37ha		0.37ha
本数	481 本(1,300 本/ha)		296 本(800 本/ha)
蓄積	554.63m <sup>3</sup> (1,499.0m <sup>3</sup> /ha)		456.95m <sup>3</sup> (1,235.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	33cm、25m		39cm、26m
相対幹距比(S <sub>r</sub> )	11%		14%
形状比(H/D)	形状比 76		形状比 67

## ○将来計画

10年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 512 S-64 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	15	利用間伐 38.5% (整備後本数 800 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	17	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

## ○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

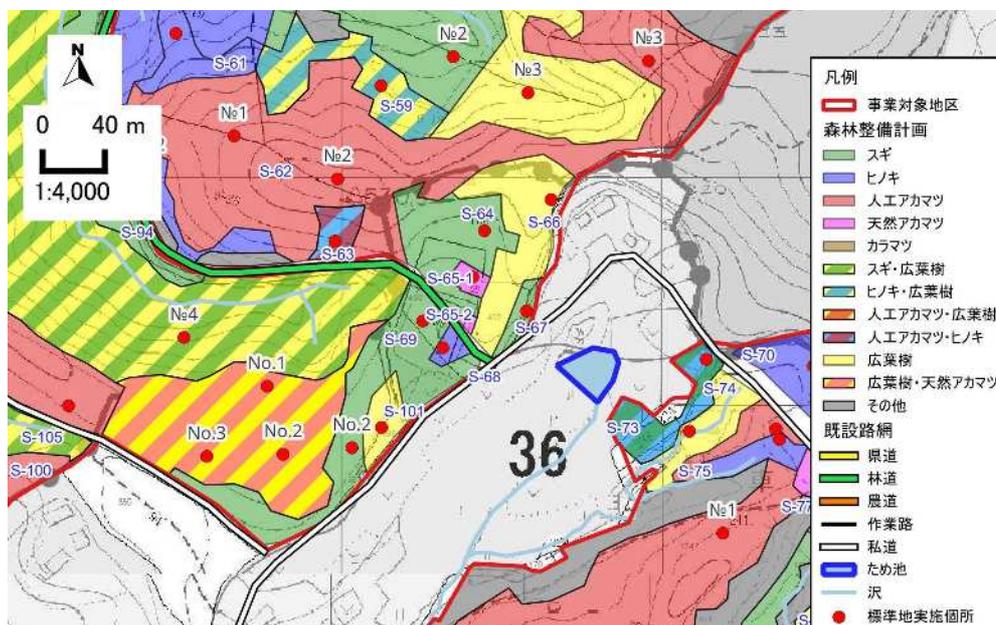
図表 513 S-64 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		97.68	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	65.93	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	13.58	m3	13.9%	残置	—
	その他	18.07	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		22.47	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.67 詳細設計(S-65 地区)

図表 514 S-65 地区



標準地調査の結果をもとに、S65 地区の現況について図表 515 にまとめる。

図表 515 S-65 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	天然アカマツ、14 齢級(70 年生)
実測面積	0.05ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	55 本(1,100 本/ha)、40.20m <sup>3</sup> (804.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 26cm、平均樹高 20m、形状比 77
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。クリ、ウワミズザクラ等の高木性の広葉樹が多く混じる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-65 地区の標準地

図表 516 S-65 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	35 本(700 本/ha)、33.80m <sup>3</sup> (676.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 32cm、平均樹高 25m
伐採率	63.6%(本数)、84.1%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 517 にまとめる。

図表 517 S-65 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	天然アカマツ	更新伐 ⇒	天然アカマツ
実測面積	0.05ha		0.05ha
本数	55 本(1,100 本/ha)		20 本(400 本/ha)
蓄積	40.20m <sup>3</sup> (804.0m <sup>3</sup> /ha)		6.40m <sup>3</sup> (128.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	26cm、20m		14cm、12m
相対幹距比(Sr)	15%		42%
形状比(H/D)	形状比 77		形状比 86

○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 518 S-65 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	15	更新伐 63.6% (整備後本数 400 本/ha)
...	...	...
令和 11 年	1	萌芽整理
...	...	...
令和 18 年	2~	除伐

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

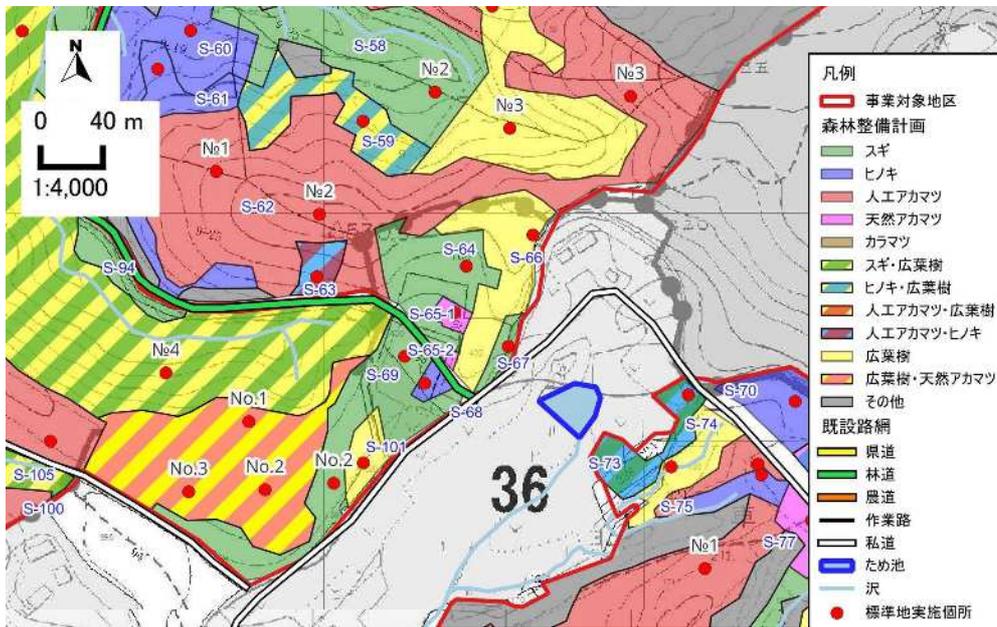
図表 519 S-65 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		33.80	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	22.82	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C 材等	4.70	m3	13.9%	残置	—
	その他	6.25	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		7.77	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.68 詳細設計(S-66 地区)

図表 520 S-66 地区



標準地調査の結果をもとに、S-66 地区の現況について図表 521 にまとめる。

図表 521 S-66 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹、7 齢級(35 年生)
実測面積	0.41ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	656 本(1,600 本/ha)、107.01m <sup>3</sup> (261.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 17cm、平均樹高 14m、形状比 82
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	コナラ、ヤマザクラ等の高木性の樹種が多い。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-66 地区の標準地

図表 522 S-66 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	451 本(1,100 本/ha)、83.64m <sup>3</sup> (204.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 17cm、平均樹高 14m
伐採率	68.8%(本数)、78.2%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ。の値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 523 にまとめる。

図表 523 S-66 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	広葉樹	更新伐 ⇒	広葉樹
実測面積	0.41ha		0.41ha
本数	656 本(1,600 本/ha)		205 本(500 本/ha)
蓄積	107.01m <sup>3</sup> (261.0m <sup>3</sup> /ha)		23.37m <sup>3</sup> (57.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	17cm、14m		14cm、13m
相対幹距比(Sr)	18%		34%
形状比(H/D)	形状比 82		形状比 93

## ○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 524 S-66 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	8	更新伐 68.8% (整備後本数 500 本/ha)
...	...	...
令和 11 年	1	萌芽整理
...	...	...
令和 18 年	2~	除伐

## ○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

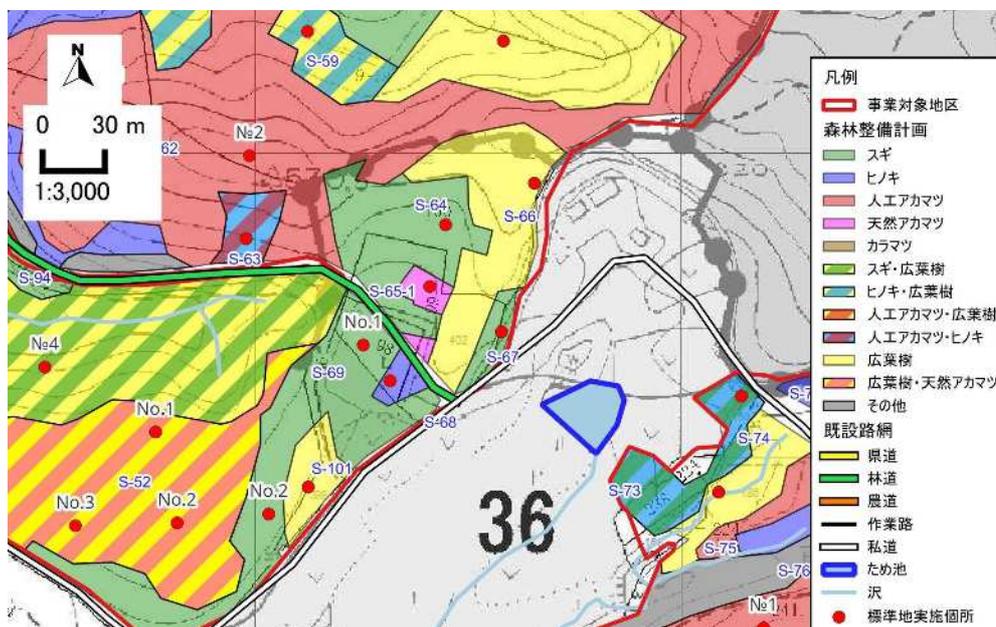
図表 525 S-66 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		83.64	m3	—	—	—
内 訳	AB材	56.46	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C材等	11.63	m3	13.9%	棚積み	—
	その他	15.47	m3	18.5%	棚積み	—
枝 葉		26.76	m3	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.69 詳細設計(S-67 地区)

図表 526 S-67 地区



標準地調査の結果をもとに、S-67 地区の現況について図表 527 にまとめる。

図表 527 S-67 地区の現況

施業種	利用間伐
樹種・齢級	スギ、14 齢級(70 年生)
実測面積	0.06ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	90 本(1,500 本/ha)、69.96m <sup>3</sup> (1,166.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 31cm、平均樹高 21m、形状比 68
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	立木密度が高い。
下層植生	下層植生は乏しく、高木性・低木性の広葉樹が主に見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-67 地区の標準地

図表 528 S-67 地区の施業内容

施業種	利用間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	36 本(600 本/ha)、20.04m <sup>3</sup> (334.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 26cm、平均樹高 20m
伐採率	40.0%(本数)、28.6%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 529 にまとめる。

図表 529 S-67 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	スギ	利用間伐 ⇒	スギ
実測面積	0.06ha		0.06ha
本数	90 本(1,500 本/ha)		54 本(900 本/ha)
蓄積	69.96m <sup>3</sup> (1,166.0m <sup>3</sup> /ha)		49.92m <sup>3</sup> (832.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	31cm、21m		34cm、22m
相対幹距比(Sr)	12%		15%
形状比(H/D)	形状比 68		形状比 65

○将来計画

10年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 530 S-67 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	15	利用間伐 40.0% (整備後本数 900 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	17	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

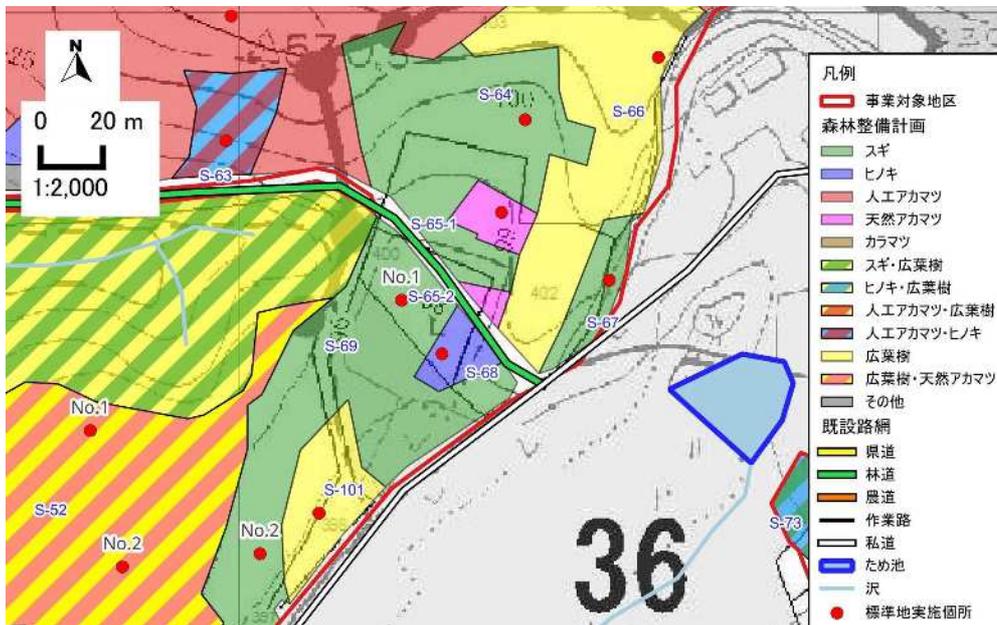
図表 531 S-67 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		20.04	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	13.53	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	2.79	m3	13.9%	残置	—
	その他	3.71	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		4.61	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.70 詳細設計(S-68 地区)

図表 532 S-68 地区



標準地調査の結果をもとに、S-68 地区の現況について図表 533 にまとめる。

図表 533 S-68 地区の現況

施業種	利用間伐
樹種・齢級	ヒノキ、14 齢級(70 年生)
実測面積	0.04ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	52 本(1,300 本/ha)、18.72m <sup>3</sup> (468.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 22cm、平均樹高 19m、形状比 86
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。漏脂病が発生している。
下層植生	下層植生は乏しく、高木性・低木性の広葉樹が主に見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-68 地区の標準地

図表 534 S-68 地区の施業内容

施業種	利用間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	20 本(500 本/ha)、4.60m <sup>3</sup> (115.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 18cm、平均樹高 18m
伐採率	38.5%(本数)、24.6%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 535 にまとめる。

図表 535 S-68 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	ヒノキ	利用間伐 ⇒	ヒノキ
実測面積	0.04ha		0.04ha
本数	52 本(1,300 本/ha)		32 本(800 本/ha)
蓄積	18.72m <sup>3</sup> (468.0m <sup>3</sup> /ha)		14.12m <sup>3</sup> (353.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	22cm、19m		24cm、19m
相対幹距比(Sr)	15%		19%
形状比(H/D)	形状比 86		形状比 79

## ○将来計画

10年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 536 S-68 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	15	利用間伐 38.5% (整備後本数 800 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	17	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

## ○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

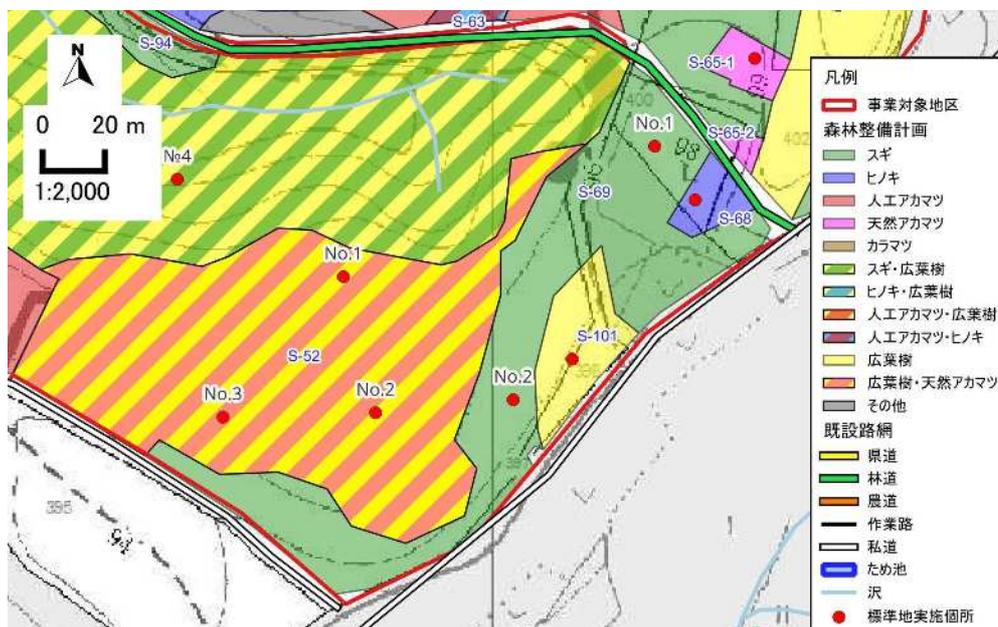
図表 537 S-68 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		4.60	m3	—	—	—
内 訳	AB材	3.11	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C材等	0.64	m3	13.9%	残置	—
	その他	0.85	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		1.06	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.71 詳細設計(S-69 地区)

図表 538 S-69 地区



標準地調査の結果をもとに、S-69 地区の現況について図表 539 にまとめる。

図表 539 S-69 地区の現況

施業種	利用間伐
樹種・齢級	スギ、14 齢級(70 年生)
実測面積	0.63ha
標準地 <sup>※1</sup>	2 箇所(200m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	882 本(1,400 本/ha)、638.51m <sup>3</sup> (1,013.5m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 29cm、平均樹高 23m、形状比 79
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は乏しく、高木性・低木性の広葉樹が主に見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-69 地区の No. 1 標準地



S-69 地区の No. 2 標準地

図表 540 S-69 地区の施業内容

施業種	利用間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	315 本(500 本/ha)、143.64m <sup>3</sup> (228.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 24cm、平均樹高 22m
伐採率	33.3%(本数)、22.3%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 541 にまとめる。

図表 541 S-69 地区の整備後の状況

区 分	整備前	利用間伐 ⇒	整備後
樹種	スギ		スギ
実測面積	0.63ha		0.63ha
本数	882 本(1,400 本/ha)		567 本(900 本/ha)
蓄積	638.51m <sup>3</sup> (1,013.5m <sup>3</sup> /ha)		494.87m <sup>3</sup> (785.5m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	29cm、23m		31cm、23m
相対幹距比(Sr)	12%		14%
形状比(H/D)	形状比 79		形状比 74

○将来計画

10 年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 542 S-69 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	15	利用間伐 33.3%(整備後本数 900 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	17	主伐 100.0%(整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

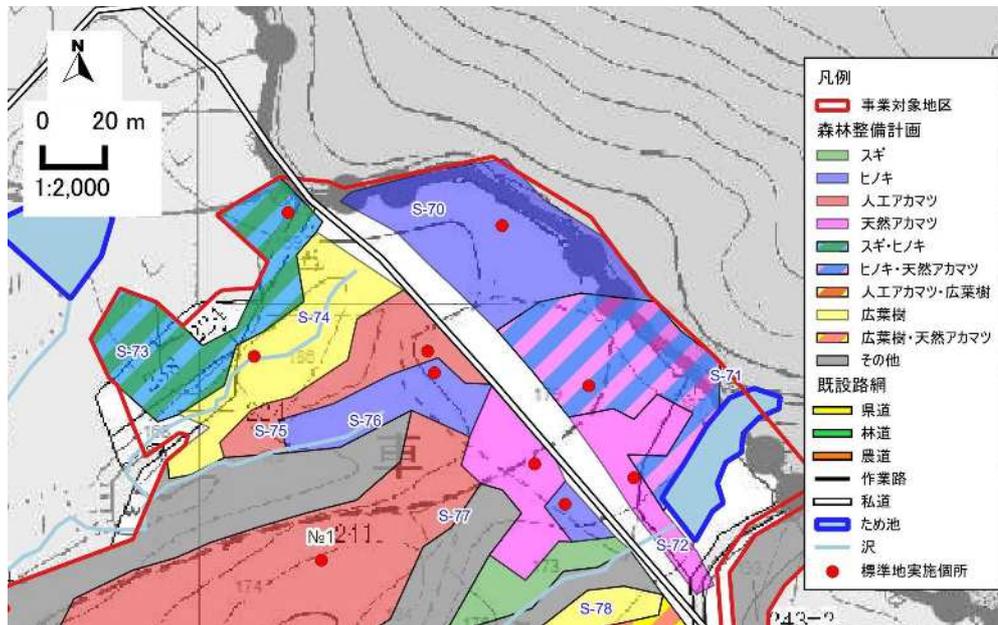
図表 543 S-69 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		143.64	m <sup>3</sup>	—	—	—
内 訳	AB 材	96.96	m <sup>3</sup>	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	19.97	m <sup>3</sup>	13.9%	残置	—
	その他	26.57	m <sup>3</sup>	18.5%	残置	—
枝 葉		33.04	m <sup>3</sup>	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.72 詳細設計(S-70 地区)

図表 544 S-70 地区



標準地調査の結果をもとに、S-70 地区の現況について図表 545 にまとめる。

図表 545 S-70 地区の現況

施業種	利用間伐
樹種・齢級	ヒノキ、8 齢級(36 年生)
実測面積	0.26ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	520 本(2,000 本/ha)、69.68m <sup>3</sup> (268.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 16cm、平均樹高 12m、形状比 75
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。漏脂病が発生している。
下層植生	下層植生は乏しく、高木性・低木性の広葉樹が主に見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-70 地区の標準地

図表 546 S-70 地区の施業内容

施業種	利用間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	156 本(600 本/ha)、15.08m <sup>3</sup> (58.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 14cm、平均樹高 11m
伐採率	30.0%(本数)、21.6%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 547 にまとめる。

図表 547 S-70 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	ヒノキ	利用間伐 ⇒	ヒノキ
実測面積	0.26ha		0.26ha
本数	520 本(2,000 本/ha)		364 本(1,400 本/ha)
蓄積	69.68m <sup>3</sup> (268.0m <sup>3</sup> /ha)		54.60m <sup>3</sup> (210.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	16cm、12m		17cm、12m
相対幹距比(Sr)	19%		22%
形状比(H/D)	形状比 75		形状比 71

## ○将来計画

林木の成長に伴い、再び林内の光環境が悪化していくため、今後 10 年程度の間隔で間伐を実施することが望ましい。

図表 548 S-70 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	8	利用間伐 30.0%(整備後本数 1,400 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	10	間伐 30.0%(整備後本数 980 本/ha)
...	...	...
令和 28 年	12	主伐 100.0%(整備後本数 0 本/ha)

## ○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

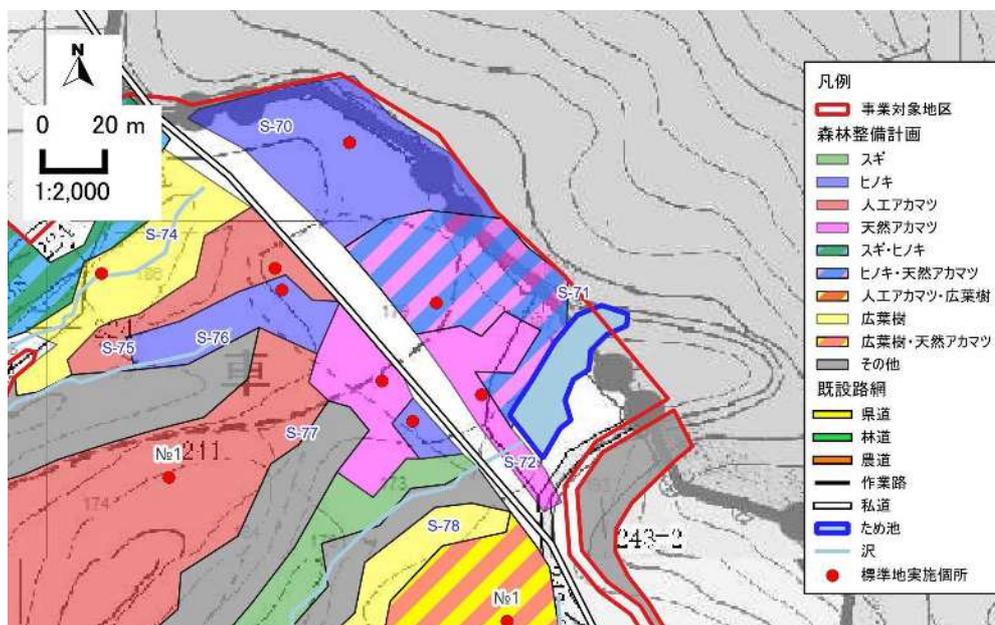
図表 549 S-70 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		15.08	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	10.18	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	2.10	m3	13.9%	残置	—
	その他	2.79	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		3.47	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.73 詳細設計(S-71 地区)

図表 550 S-71 地区



標準地調査の結果をもとに、S-71 地区の現況について図表 551 にまとめる。

図表 551 S-71 地区の現況

施業種	利用間伐
樹種・齢級	ヒノキ・天然アカマツ、8～13 齢級(36～61 年生)
実測面積	0.23ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	483 本(2,100 本/ha)、67.39m <sup>3</sup> (293.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 16cm、平均樹高 12m、形状比 75
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は極めて乏しく、ほとんど見られない。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-71 地区の標準地

図表 552 S-71 地区の施業内容

施業種	利用間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	184 本(800 本/ha)、16.33m <sup>3</sup> (71.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 13cm、平均樹高 12m
伐採率	38.1%(本数)、24.2%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 553 にまとめる。

図表 553 S-71 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	ヒノキ・天然アカマツ	利用間伐 ⇒	ヒノキ・天然アカマツ
実測面積	0.23ha		0.23ha
本数	483 本(2,100 本/ha)		299 本(1,300 本/ha)
蓄積	67.39m <sup>3</sup> (293.0m <sup>3</sup> /ha)		51.06m <sup>3</sup> (222.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	16cm、12m		17cm、13m
相対幹距比(Sr)	18%		21%
形状比(H/D)	形状比 75		形状比 76

○将来計画

林木の成長に伴い、再び林内の光環境が悪化していくため、今後 10 年程度の間隔で間伐を実施することが望ましい。

図表 554 S-71 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	8～13	利用間伐 38.1%(整備後本数 1,300 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	10～15	間伐 30.0%(整備後本数 910 本/ha)
...	...	...
令和 28 年	12～17	主伐 100.0%(整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

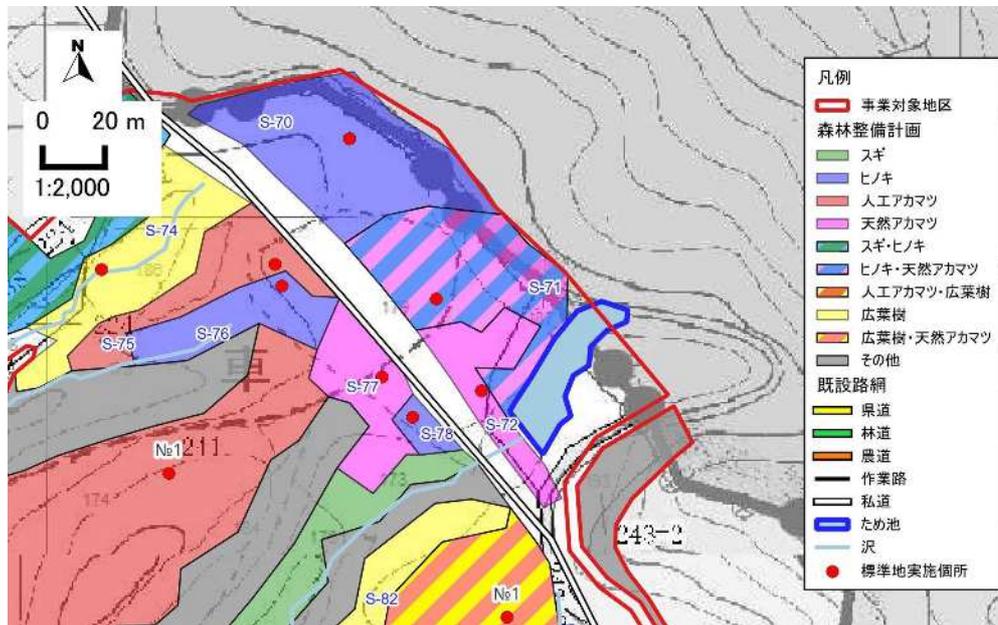
図表 555 S-71 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		16.33	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	11.02	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	2.27	m3	13.9%	残置	—
	その他	3.02	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		3.76	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.74 詳細設計(S-72 地区)

図表 556 S-72 地区



標準地調査の結果をもとに、S-72 地区の現況について図表 557 にまとめる。

図表 557 S-72 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	天然アカマツ、13 齢級(61 年生)
実測面積	0.09ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	171 本(1,900 本/ha)、50.76m <sup>3</sup> (564.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 18cm、平均樹高 12m、形状比 67
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。ミズキ、ヤマザクラ等の高木性の広葉樹が多く混じる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-72 地区の標準地

図表 558 S-72 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	108 本(1,200 本/ha)、31.86m <sup>3</sup> (354.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 17cm、平均樹高 12m
伐採率	63.2%(本数)、62.8%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ。の値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 559 にまとめる。

図表 559 S-72 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	天然アカマツ	更新伐 ⇒	天然アカマツ
実測面積	0.09ha		0.09ha
本数	171 本(1,900 本/ha)		63 本(700 本/ha)
蓄積	50.76m <sup>3</sup> (564.0m <sup>3</sup> /ha)		18.90m <sup>3</sup> (210.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	18cm、12m		19cm、14m
相対幹距比(Sr)	19%		27%
形状比(H/D)	形状比 67		形状比 74

## ○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 560 S-72 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	13	更新伐 63.2% (整備後本数 700 本/ha)
...	...	...
令和 11 年	1	萌芽整理
...	...	...
令和 18 年	2~	除伐

## ○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

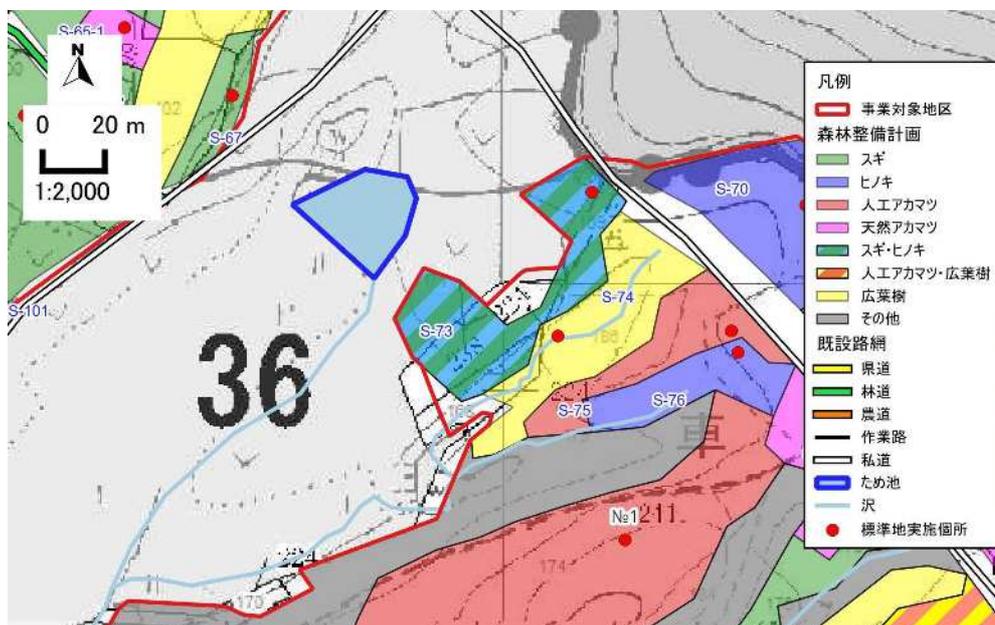
図表 561 S-72 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		31.86	m3	—	—	—
内 訳	AB材	21.51	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C材等	4.43	m3	13.9%	残置	—
	その他	5.89	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		7.33	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.75 詳細設計(S-73 地区)

図表 562 S-73 地区



標準地調査の結果をもとに、S-73 地区の現況について図表 563 にまとめる。

図表 563 S-73 地区の現況

施業種	利用間伐
樹種・齢級	スギ・ヒノキ、5 齢級(25 年生)
実測面積	0.20ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	260 本(1,300 本/ha)、68.60m <sup>3</sup> (343.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 20cm、平均樹高 15m、形状比 75
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	立木密度が高い。
下層植生	下層植生は乏しく、高木性・低木性の広葉樹が主に見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-73 地区の標準地

図表 564 S-73 地区の施業内容

施業種	利用間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	80 本(400 本/ha)、14.00m <sup>3</sup> (70.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 17cm、平均樹高 13m
伐採率	30.8%(本数)、20.4%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 565 にまとめる。

図表 565 S-73 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	スギ・ヒノキ	利用間伐 ⇒	スギ・ヒノキ
実測面積	0.20ha		0.20ha
本数	260 本(1,300 本/ha)		180 本(900 本/ha)
蓄積	68.60m <sup>3</sup> (343.0m <sup>3</sup> /ha)		54.60m <sup>3</sup> (273.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	20cm、15m		21cm、15m
相対幹距比(Sr)	18%		22%
形状比(H/D)	形状比 75		形状比 71

○将来計画

林木の成長に伴い、再び林内の光環境が悪化していくため、今後 10 年程度の間隔で間伐を実施することが望ましい。

図表 566 S-73 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	6	利用間伐 30.8% (整備後本数 900 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	8	間伐 30.0% (整備後本数 630 本/ha)
...	...	...
令和 28 年	10	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

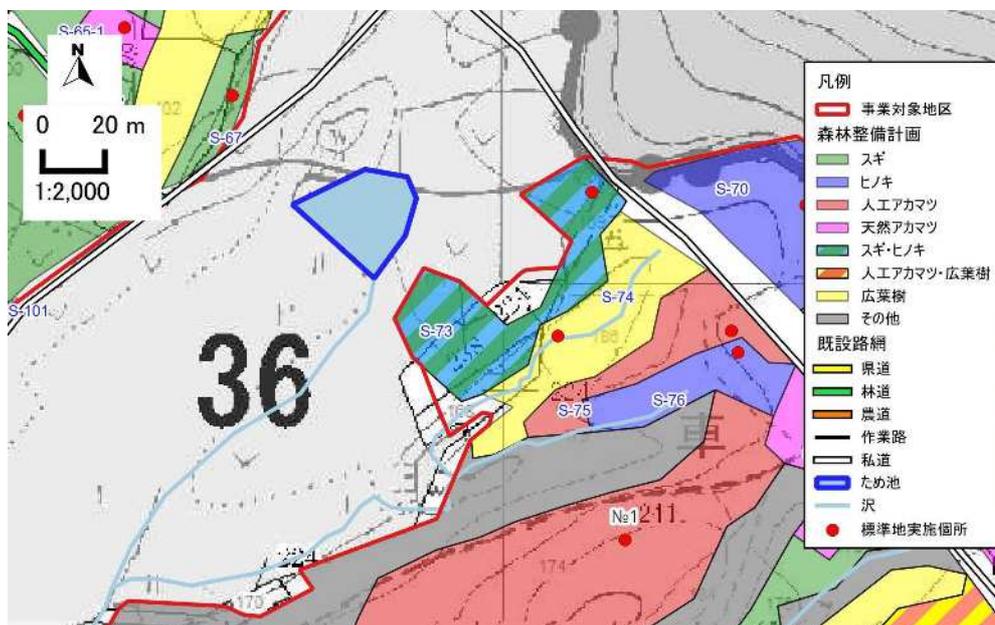
図表 567 S-73 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		14.00	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	9.45	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	1.95	m3	13.9%	残置	—
	その他	2.59	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		3.22	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.76 詳細設計(S-74 地区)

図表 568 S-74 地区



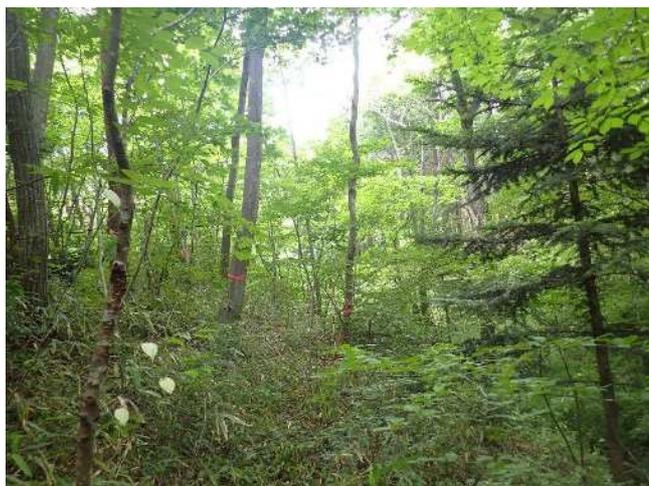
標準地調査の結果をもとに、S-74 地区の現況について図表 569 にまとめる。

図表 569 S-74 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹、13 齢級(61 年生)
実測面積	0.18ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	216 本(1,200 本/ha)、35.46m <sup>3</sup> (197.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 15cm、平均樹高 11m、形状比 73
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	ミズキ、クリ、ホオノキ、ウワミズザクラ等の高木性の樹種が多い。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-74 地区の標準地

図表 570 S-74 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	144 本(800 本/ha)、25.20m <sup>3</sup> (140.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 14cm、平均樹高 10m
伐採率	66.7%(本数)、71.1%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ。の値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 571 にまとめる。

図表 571 S-74 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	広葉樹	更新伐 ⇒	広葉樹
実測面積	0.18ha		0.18ha
本数	216 本(1,200 本/ha)		72 本(400 本/ha)
蓄積	35.46m <sup>3</sup> (197.0m <sup>3</sup> /ha)		10.26m <sup>3</sup> (57.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	15cm、11m		16cm、12m
相対幹距比(Sr)	26%		42%
形状比(H/D)	形状比 73		形状比 75

## ○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 572 S-74 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	13	更新伐 66.7% (整備後本数 400 本/ha)
...	...	...
令和 11 年	1	萌芽整理
...	...	...
令和 18 年	2~	除伐

## ○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

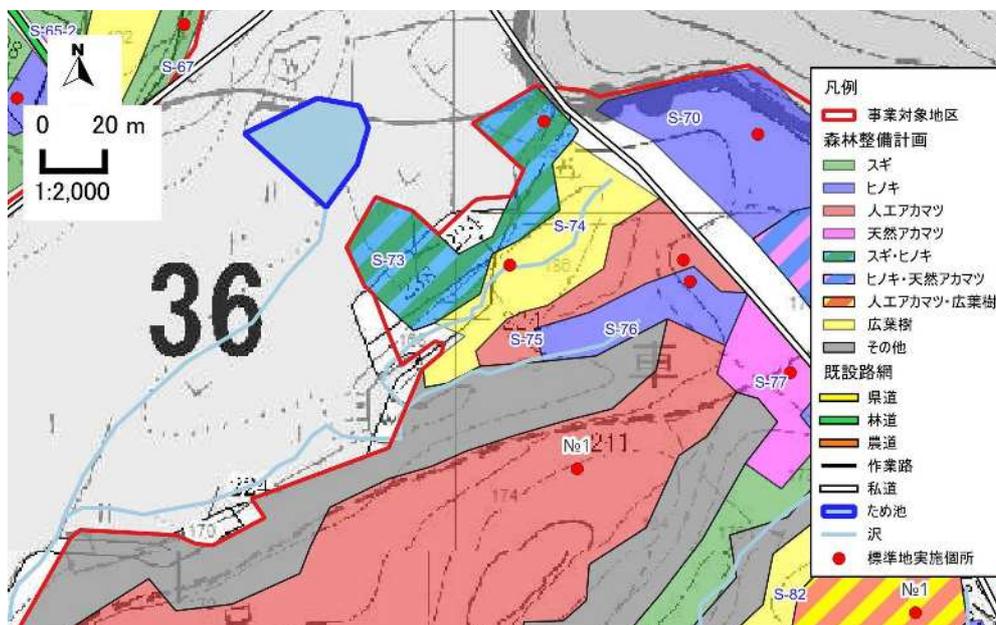
図表 573 S-74 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		25.20	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	17.01	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C 材等	3.50	m3	13.9%	棚積み	—
	その他	4.66	m3	18.5%	棚積み	—
枝 葉		8.06	m3	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.77 詳細設計(S-75 地区)

図表 574 S-75 地区



標準地調査の結果をもとに、S-75 地区の現況について図表 575 にまとめる。

図表 575 S-75 地区の現況

施業種	人工林整理伐
樹種・齢級	人工アカマツ、13 齢級(61 年生)
実測面積	0.12ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	84 本(700 本/ha)、66.96m <sup>3</sup> (558.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 32cm、平均樹高 21m、形状比 66
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	傾斜等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。ミズキ、ヤマザクラ等の高木性の広葉樹が下層に多い。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-75 地区の標準地

図表 576 S-75 地区の施業内容

施業種	人工林整理伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	36 本(300 本/ha)、34.20m <sup>3</sup> (285.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 33cm、平均樹高 24m
伐採率	42.9%(本数)、51.1%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 577 にまとめる。

図表 577 S-75 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	人工アカマツ	人工林 整理伐 ⇒	人工アカマツ
実測面積	0.12ha		0.12ha
本数	84 本(700 本/ha)		48 本(400 本/ha)
蓄積	66.96m <sup>3</sup> (558.0m <sup>3</sup> /ha)		32.76m <sup>3</sup> (273.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	32cm、21m		31cm、18m
相対幹距比(Sr)	18%		28%
形状比(H/D)	形状比 66		形状比 58

○将来計画

10年後には標準伐期齢に達しているため、アカマツを主伐し広葉樹林化を図る。

図表 578 S-75 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	13	人工林整理伐 42.9% (整備後本数 400 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	15	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

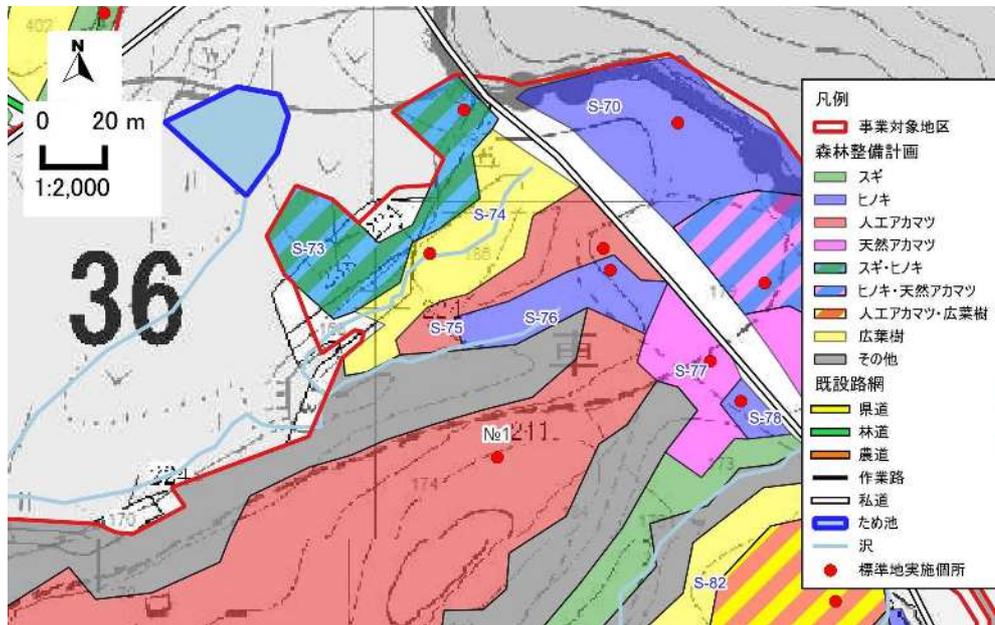
図表 579 S-75 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		34.20	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	23.09	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C 材等	4.75	m3	13.9%	残置	—
	その他	6.33	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		7.87	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.78 詳細設計(S-76 地区)

図表 580 S-76 地区



標準地調査の結果をもとに、S-76 地区の現況について図表 581 にまとめる。

図表 581 S-76 地区の現況

施業種	利用間伐
樹種・齢級	ヒノキ、8 齢級(36 年生)
実測面積	0.10ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	190 本(1,900 本/ha)、30.50m <sup>3</sup> (305.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 18cm、平均樹高 12m、形状比 67
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は極めて乏しく、ほとんど見られない。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-76 地区の標準地

図表 582 S-76 地区の施業内容

施業種	利用間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	60 本(600 本/ha)、7.30m <sup>3</sup> (73.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 16cm、平均樹高 11m
伐採率	31.6%(本数)、23.9%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 583 にまとめる。

図表 583 S-76 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	ヒノキ	利用間伐 ⇒	ヒノキ
実測面積	0.10ha		0.10ha
本数	190 本(1,900 本/ha)		130 本(1,300 本/ha)
蓄積	30.50m <sup>3</sup> (305.0m <sup>3</sup> /ha)		23.20m <sup>3</sup> (232.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	18cm、12m		19cm、13m
相対幹距比(Sr)	19%		21%
形状比(H/D)	形状比 67		形状比 68

## ○将来計画

林木の成長に伴い、再び林内の光環境が悪化していくため、今後 10 年程度の間隔で間伐を実施することが望ましい。

図表 584 S-76 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	8	利用間伐 31.6%(整備後本数 1,300 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	10	間伐 30.0%(整備後本数 910 本/ha)
...	...	...
令和 28 年	12	主伐 100.0%(整備後本数 0 本/ha)

## ○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

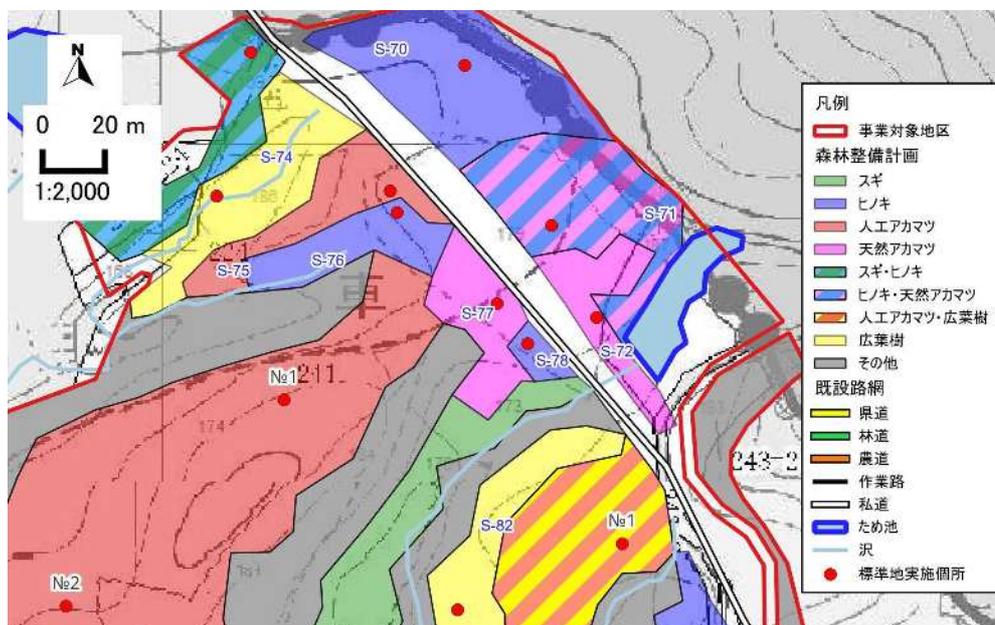
図表 585 S-76 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		7.30	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	4.93	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	1.01	m3	13.9%	残置	—
	その他	1.35	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		1.68	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.79 詳細設計(S-77 地区)

図表 586 S-77 地区



標準地調査の結果をもとに、S-77 地区の現況について図表 587 にまとめる。

図表 587 S-77 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	天然アカマツ、13 齢級(62 年生)
実測面積	0.10ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	170 本(1,700 本/ha)、41.00m <sup>3</sup> (410.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 17cm、平均樹高 13m、形状比 76
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	半枯れ等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。アズキナシ、コシアブラ、クリ等の高木性の広葉樹が多く混じる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-77 地区の標準地

図表 588 S-77 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	110 本(1,100 本/ha)、27.70m <sup>3</sup> (277.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 17cm、平均樹高 13m
伐採率	64.7%(本数)、67.6%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 589 にまとめる。

図表 589 S-77 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	天然アカマツ	更新伐 ⇒	天然アカマツ
実測面積	0.10ha		0.10ha
本数	170 本(1,700 本/ha)		60 本(600 本/ha)
蓄積	41.00m <sup>3</sup> (410.0m <sup>3</sup> /ha)		13.30m <sup>3</sup> (133.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	17cm、13m		17cm、13m
相対幹距比(Sr)	19%		31%
形状比(H/D)	形状比 76		形状比 76

○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 590 S-77 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	13	更新伐 64.7% (整備後本数 600 本/ha)
...	...	...
令和 11 年	1	萌芽整理
...	...	...
令和 18 年	2~	除伐

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

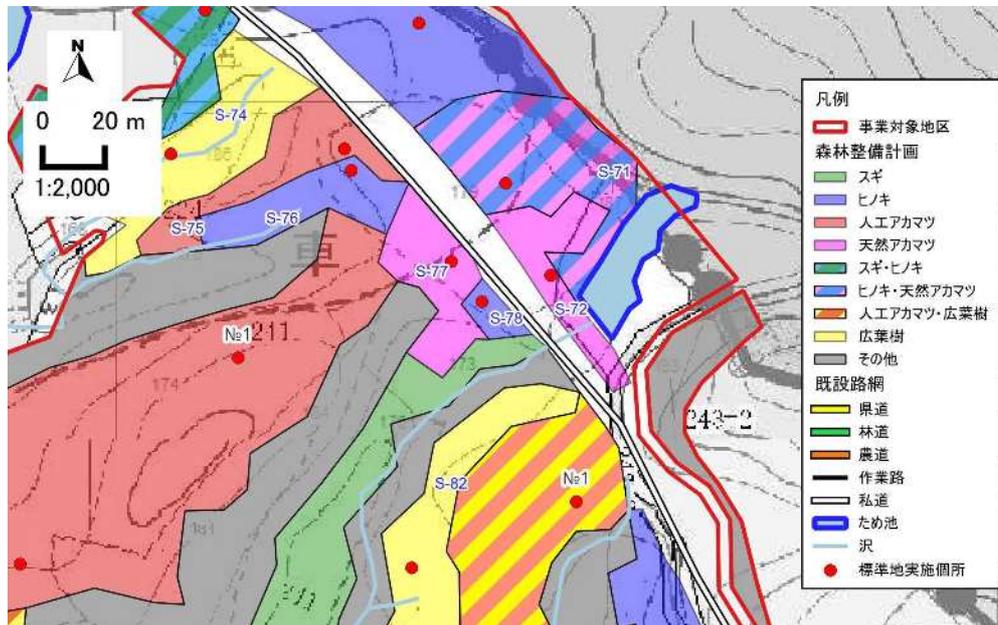
図表 591 S-77 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		27.70	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	18.70	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C 材等	3.85	m3	13.9%	残置	—
	その他	5.12	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		6.37	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.80 詳細設計(S-78 地区)

図表 592 S-78 地区



標準地調査の結果をもとに、S-78 地区の現況について図表 593 にまとめる。

図表 593 S-78 地区の現況

施業種	利用間伐
樹種・齢級	ヒノキ、8 齢級(36 年生)
実測面積	0.02ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	34 本(1,700 本/ha)、7.30m <sup>3</sup> (365.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 18cm、平均樹高 15m、形状比 83
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	漏脂病等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は乏しく、高木性・低木性の広葉樹が主に見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-78 地区の標準地

図表 594 S-78 地区の施業内容

施業種	利用間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	12 本(600 本/ha)、1.50m <sup>3</sup> (75.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 14cm、平均樹高 14m
伐採率	35.3%(本数)、20.5%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 595 にまとめる。

図表 595 S-78 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	ヒノキ	利用間伐 ⇒	ヒノキ
実測面積	0.02ha		0.02ha
本数	34 本(1,700 本/ha)		22 本(1,100 本/ha)
蓄積	7.30m <sup>3</sup> (365.0m <sup>3</sup> /ha)		5.80m <sup>3</sup> (290.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	18cm、15m		21cm、15m
相対幹距比(Sr)	16%		20%
形状比(H/D)	形状比 83		形状比 71

## ○将来計画

林木の成長に伴い、再び林内の光環境が悪化していくため、今後 10 年程度の間隔で間伐を実施することが望ましい。

図表 596 S-78 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	8	利用間伐 35.3%(整備後本数 1,100 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	10	間伐 30.0%(整備後本数 770 本/ha)
...	...	...
令和 28 年	12	主伐 100.0%(整備後本数 0 本/ha)

## ○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

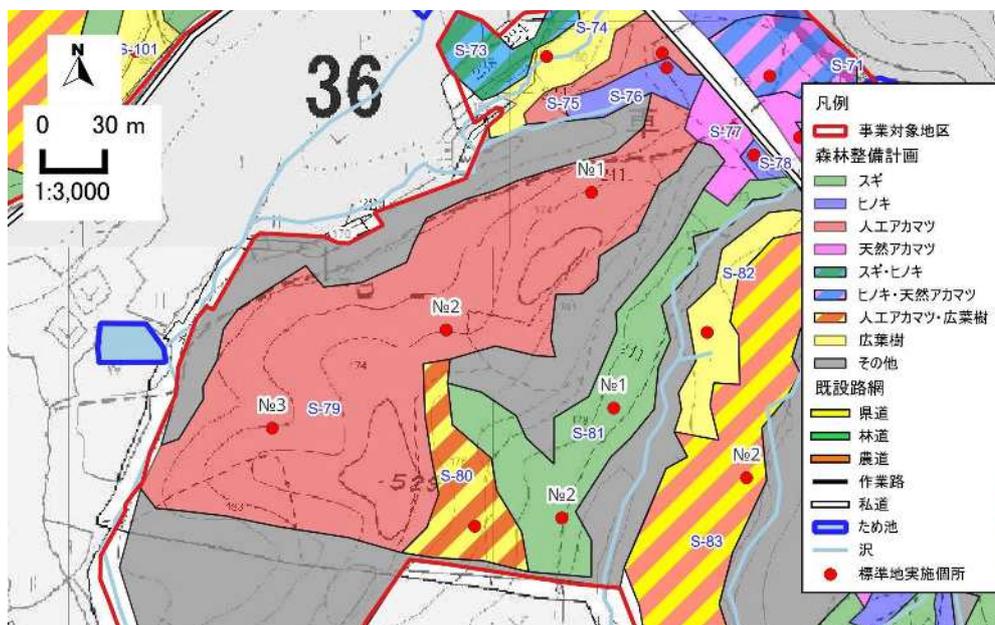
図表 597 S-78 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		1.50	m <sup>3</sup>	—	—	—
内 訳	AB 材	1.01	m <sup>3</sup>	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	0.21	m <sup>3</sup>	13.9%	残置	—
	その他	0.28	m <sup>3</sup>	18.5%	残置	—
枝 葉		0.35	m <sup>3</sup>	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.81 詳細設計(S-79 地区)

図表 598 S-79 地区



標準地調査の結果をもとに、S-79 地区の現況について図表 599 にまとめる。

図表 599 S-79 地区の現況

施業種	人工林整理伐
樹種・齢級	人工アカマツ、13 齢級(61 年生)
実測面積	2.16ha
標準地 <sup>※1</sup>	3 箇所(300m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	2,376 本(1,100 本/ha)、884.95m <sup>3</sup> (409.7m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 24cm、平均樹高 16m、形状比 67
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。コシアブラ、クリ、ウワミズザクラ等の高木性の広葉樹が多く混じる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-79 地区のNo.1 標準地



S-79 地区のNo.2 標準地



S-79 地区のNo.3 標準地

図表 600 S-79 地区の施業内容

施業種	人工林整理伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	864 本(400 本/ha)、274.97m <sup>3</sup> (127.3m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 22cm、平均樹高 15m
伐採率	39.4%(本数)、31.4%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 601 にまとめる。

図表 601 S-79 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	人工アカマツ	人工林 整理伐 ⇒	人工アカマツ
実測面積	2.16ha		2.16ha
本数	2,376 本(1,100 本/ha)		1,512 本(700 本/ha)
蓄積	884.95m <sup>3</sup> (409.7m <sup>3</sup> /ha)		609.77m <sup>3</sup> (282.3m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	24cm、16m		25cm、17m
相対幹距比(Sr)	19%		22%
形状比(H/D)	形状比 67		形状比 68

○将来計画

10 年後には標準伐期齢に達しているため、アカマツを主伐し広葉樹林化を図る。

図表 602 S-79 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	13	人工林整理伐 39.4%(整備後本数 700 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	15	主伐 100.0%(整備後本数 0 本/ha)

## ○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

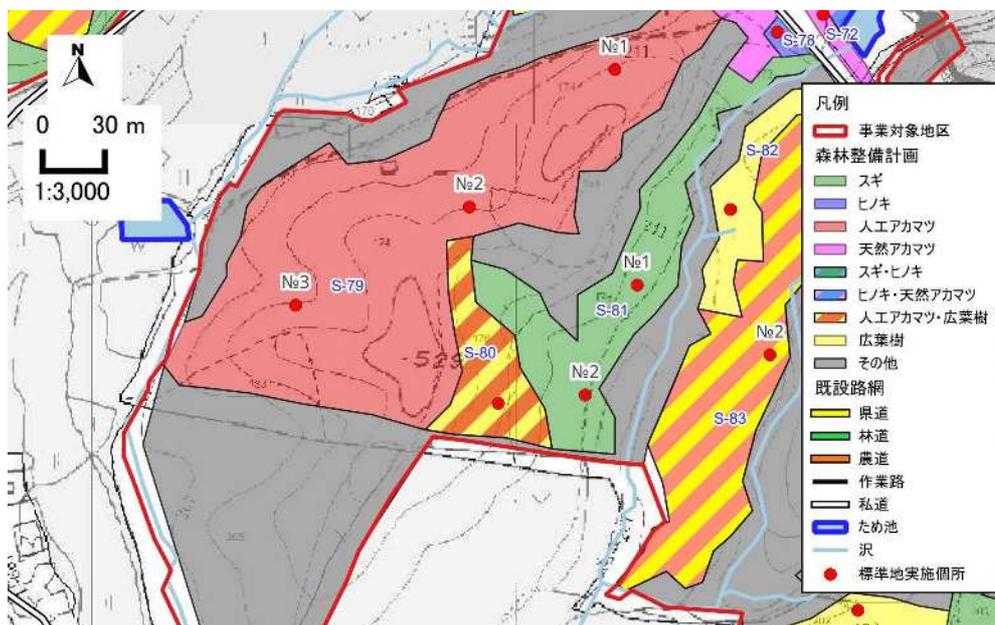
図表 603 S-79 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		274.97	m3	—	—	—
内 訳	AB材	185.60	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C材等	38.22	m3	13.9%	残置	—
	その他	50.87	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		63.24	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.82 詳細設計(S-80 地区)

図表 604 S-80 地区



標準地調査の結果をもとに、S-80 地区の現況について図表 605 にまとめる。

図表 605 S-80 地区の現況

施業種	人工林整理伐
樹種・齢級	人工アカマツ・広葉樹、13 齢級(61 年生)
実測面積	0.27ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	243 本(900 本/ha)、129.06m <sup>3</sup> (478.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 24cm、平均樹高 15m、形状比 63
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。ウワミズザクラ、クリ、ミズキ等の高木性の広葉樹が多く混じる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-80 地区の標準地

図表 606 S-80 地区の施業内容

施業種	人工林整理伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	108 本(400 本/ha)、71.55m <sup>3</sup> (265.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 28cm、平均樹高 17m
伐採率	44.4%(本数)、55.4%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 607 にまとめる。

図表 607 S-80 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	人工アカマツ・広葉樹	人工林 整理伐 ⇒	人工アカマツ・広葉樹
実測面積	0.27ha		0.27ha
本数	243 本(900 本/ha)		135 本(500 本/ha)
蓄積	129.06m <sup>3</sup> (478.0m <sup>3</sup> /ha)		57.51m <sup>3</sup> (213.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	24cm、15m		21cm、14m
相対幹距比(Sr)	22%		32%
形状比(H/D)	形状比 63		形状比 67

○将来計画

10年後には標準伐期齢に達しているため、アカマツを主伐し広葉樹林化を図る。

図表 608 S-80 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	13	人工林整理伐 44.4% (整備後本数 500 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	15	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

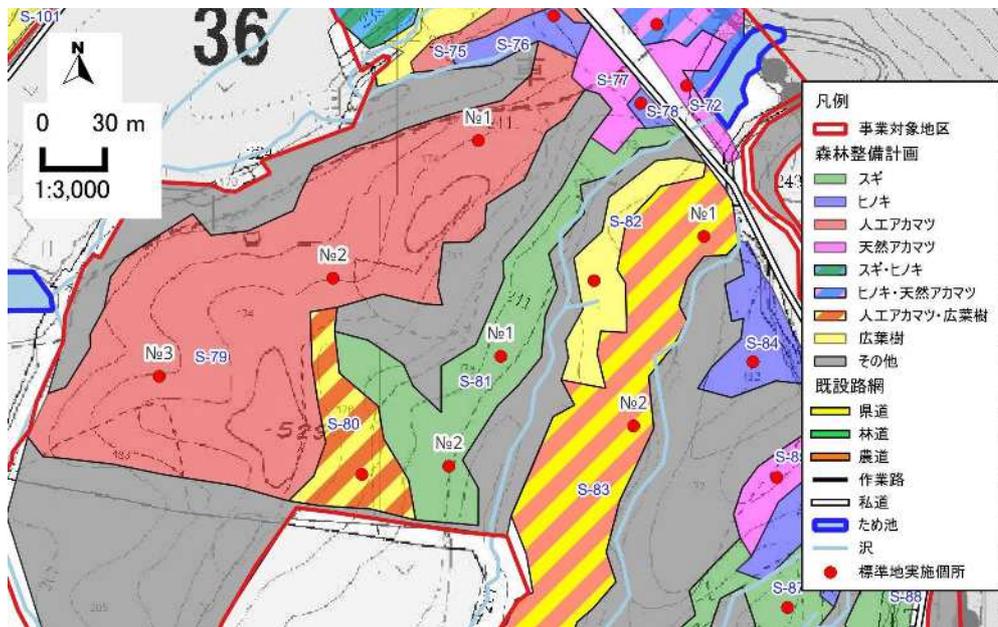
図表 609 S-80 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		71.55	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	48.30	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C 材等	9.95	m3	13.9%	残置	—
	その他	13.24	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		16.46	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.83 詳細設計(S-81 地区)

図表 610 S-81 地区



標準地調査の結果をもとに、S-81 地区の現況について図表 611 にまとめる。

図表 611 S-81 地区の現況

施業種	利用間伐
樹種・齢級	スギ、13 齢級(62 年生)
実測面積	0.65ha
標準地 <sup>※1</sup>	2 箇所(200m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	650 本(1,000 本/ha)、638.30m <sup>3</sup> (982.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 35cm、平均樹高 23m、形状比 66
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-81 地区のNo.1 標準地



S-81 地区のNo.2 標準地

図表 612 S-81 地区の施業内容

施業種	利用間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	260 本(400 本/ha)、158.93m <sup>3</sup> (244.5m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 30cm、平均樹高 21m
伐採率	36.7%(本数)、25.1%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ。の値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 613 にまとめる。

図表 613 S-81 地区の整備後の状況

区 分	整備前	利用間伐 ⇒	整備後
樹種	スギ		スギ
実測面積	0.65ha		0.65ha
本数	650 本(1,000 本/ha)		390 本(600 本/ha)
蓄積	638.30m <sup>3</sup> (982.0m <sup>3</sup> /ha)		479.38m <sup>3</sup> (737.5m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	35cm、23m		38cm、24m
相対幹距比(Sr)	14%		17%
形状比(H/D)	形状比 66		形状比 63

○将来計画

10 年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 614 S-81 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	13	利用間伐 36.7%(整備後本数 600 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	15	主伐 100.0%(整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

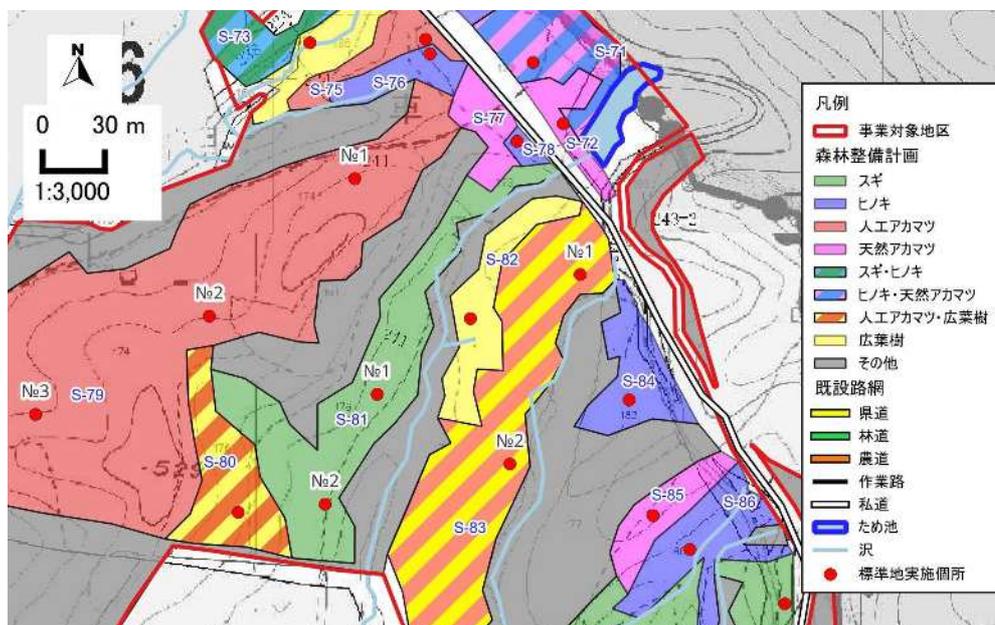
図表 615 S-81 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		158.93	m <sup>3</sup>	—	—	—
内 訳	AB 材	107.28	m <sup>3</sup>	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	22.09	m <sup>3</sup>	13.9%	残置	—
	その他	29.40	m <sup>3</sup>	18.5%	残置	—
枝 葉		36.55	m <sup>3</sup>	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.84 詳細設計(S-82 地区)

図表 616 S-82 地区



標準地調査の結果をもとに、S-82 地区の現況について図表 617 にまとめる。

図表 617 S-82 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹、15 齢級(72 年生)
実測面積	0.21ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	252 本(1,200 本/ha)、90.30m <sup>3</sup> (430.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 21cm、平均樹高 13m、形状比 62
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	コナラ、ミズナラ、ヤマザクラ、ウワミズザクラ等の高木性の樹種が多い。 ナラ枯れが見られる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-82 地区の標準地

図表 618 S-82 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	168 本(800 本/ha)、84.63m <sup>3</sup> (403.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 26cm、平均樹高 15m
伐採率	66.7%(本数)、93.7%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 619 にまとめる。

図表 619 S-82 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	広葉樹	更新伐 ⇒	広葉樹
実測面積	0.21ha		0.21ha
本数	252 本(1,200 本/ha)		84 本(400 本/ha)
蓄積	90.30m <sup>3</sup> (430.0m <sup>3</sup> /ha)		5.67m <sup>3</sup> (27.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	21cm、13m		12cm、11m
相対幹距比(Sr)	22%		45%
形状比(H/D)	形状比 62		形状比 92

○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 620 S-82 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	15	更新伐 66.7% (整備後本数 400 本/ha)
...	...	...
令和 11 年	1	萌芽整理
...	...	...
令和 18 年	2~	除伐

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

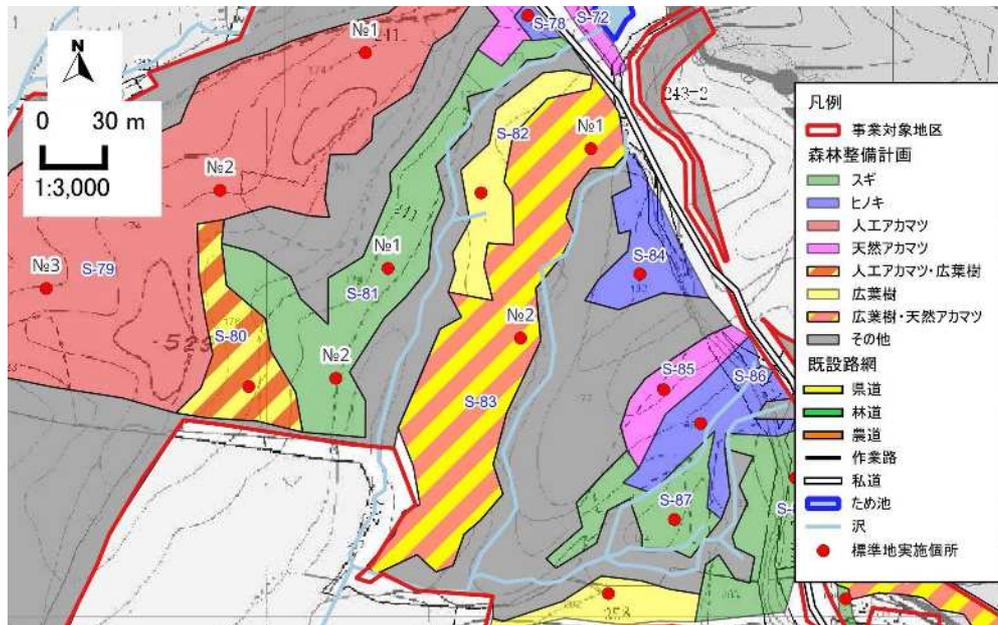
図表 621 S-82 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		84.63	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	57.13	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C 材等	11.76	m3	13.9%	棚積み	—
	その他	15.66	m3	18.5%	棚積み	—
枝 葉		27.08	m3	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.85 詳細設計(S-83 地区)

図表 622 S-83 地区



標準地調査の結果をもとに、S-83 地区の現況について図表 623 にまとめる。

図表 623 S-83 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹・天然アカマツ、15 齢級(72 年生)
実測面積	0.92ha
標準地 <sup>※1</sup>	2 箇所(200m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	1,564 本(1,700 本/ha)、429.18m <sup>3</sup> (466.5m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 18cm、平均樹高 15m、形状比 83
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。クリ、ミズキ等の高木性の広葉樹が多く混じる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-83 地区のNo.1 標準地



S-83 地区のNo.2 標準地

図表 624 S-83 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	1,012本(1,100本/ha)、313.72m <sup>3</sup> (341.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径19cm、平均樹高15m
伐採率	66.4%(本数)、72.5%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ。の値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 625 にまとめる。

図表 625 S-83 地区の整備後の状況

区 分	整備前	更新伐 ⇒	整備後
樹種	広葉樹・天然アカマツ		広葉樹・天然アカマツ
実測面積	0.92ha		0.92ha
本数	1,564本(1,700本/ha)		552本(600本/ha)
蓄積	429.18m <sup>3</sup> (466.5m <sup>3</sup> /ha)		115.46m <sup>3</sup> (125.5m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	18cm、15m		17cm、14m
相対幹距比(Sr)	16%		29%
形状比(H/D)	形状比 83		形状比 82

○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 626 S-83 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	15	更新伐 66.4%(整備後本数 600 本/ha)
...	...	...
令和 11 年	1	萌芽整理
...	...	...
令和 18 年	2~	除伐

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

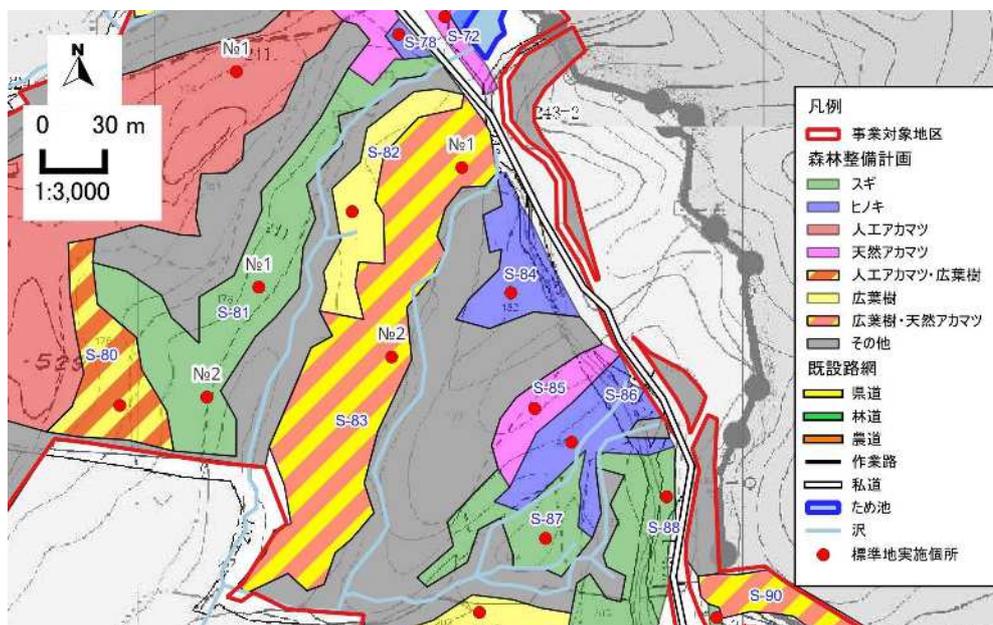
図表 627 S-83 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		313.72	m <sup>3</sup>	—	—	—
内 訳	AB材	211.76	m <sup>3</sup>	67.5%	搬出利用	チップ材
	C材等	43.61	m <sup>3</sup>	13.9%	棚積み	—
	その他	58.04	m <sup>3</sup>	18.5%	棚積み	—
枝 葉		100.39	m <sup>3</sup>	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数=枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.86 詳細設計(S-84 地区)

図表 628 S-84 地区



標準地調査の結果をもとに、S-84 地区の現況について図表 629 にまとめる。

図表 629 S-84 地区の現況

施業種	保育間伐
樹種・齢級	ヒノキ、4 齢級(20 年生)
実測面積	0.19ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	399 本(2,100 本/ha)、74.86m <sup>3</sup> (394.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 19cm、平均樹高 12m、形状比 63
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は極めて乏しく、ほとんど見られない。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-84 地区の標準地

図表 630 S-84 地区の施業内容

施業種	保育間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	152 本(800 本/ha)、17.10m <sup>3</sup> (90.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 16cm、平均樹高 11m
伐採率	38.1%(本数)、22.8%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 631 にまとめる。

図表 631 S-84 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	ヒノキ	保育間伐 ⇒	ヒノキ
実測面積	0.19ha		0.19ha
本数	399 本(2,100 本/ha)		247 本(1,300 本/ha)
蓄積	74.86m <sup>3</sup> (394.0m <sup>3</sup> /ha)		57.76m <sup>3</sup> (304.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	19cm、12m		21cm、13m
相対幹距比(Sr)	18%		21%
形状比(H/D)	形状比 63		形状比 62

○将来計画

林木の成長に伴い、再び林内の光環境が悪化していくため、今後 10 年程度の間隔で間伐を実施することが望ましい。

図表 632 S-84 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	5	保育間伐 38.1%(整備後本数 1,300 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	7	間伐 30.0%(整備後本数 910 本/ha)
...	...	...
令和 28 年	9	間伐 30.0%(整備後本数 637 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

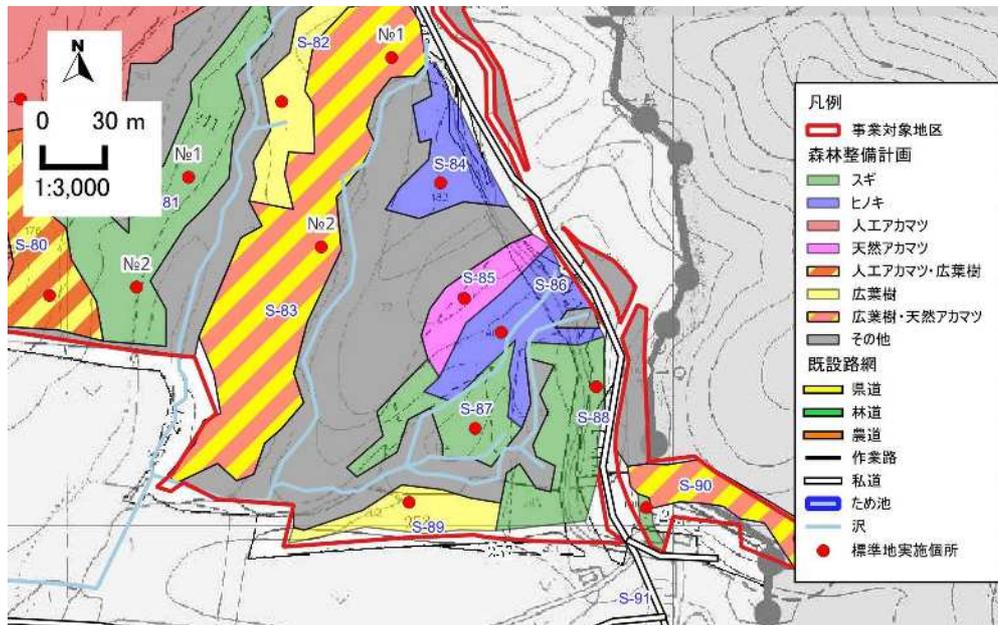
図表 633 S-84 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		17.10	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	11.54	m3	67.5%	残置	—
	C 材等	2.38	m3	13.9%	残置	—
	その他	3.16	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		3.93	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1. 87 詳細設計(S-85 地区)

図表 634 S-85 地区



標準地調査の結果をもとに、S-85 地区の現況について図表 635 にまとめる。

図表 635 S-85 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	天然アカマツ、15 齢級(72 年生)
実測面積	0.13ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	260 本(2,000 本/ha)、34.97m <sup>3</sup> (269.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 13cm、平均樹高 11m、形状比 85
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。ミズキ、ヤマザクラ等の高木性の広葉樹が多く混じる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-85 地区の標準地

図表 636 S-85 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	169 本(1,300 本/ha)、17.16m <sup>3</sup> (132.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 11cm、平均樹高 11m
伐採率	65.0%(本数)、49.1%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 637 にまとめる。

図表 637 S-85 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	天然アカマツ	更新伐 ⇒	天然アカマツ
実測面積	0.13ha		0.13ha
本数	260 本(2,000 本/ha)		91 本(700 本/ha)
蓄積	34.97m <sup>3</sup> (269.0m <sup>3</sup> /ha)		17.81m <sup>3</sup> (137.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	13cm、11m		17cm、12m
相対幹距比(Sr)	20%		31%
形状比(H/D)	形状比 85		形状比 71

## ○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 638 S-85 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	15	更新伐 65.0% (整備後本数 700 本/ha)
...	...	...
令和 11 年	1	萌芽整理
...	...	...
令和 18 年	2~	除伐

## ○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

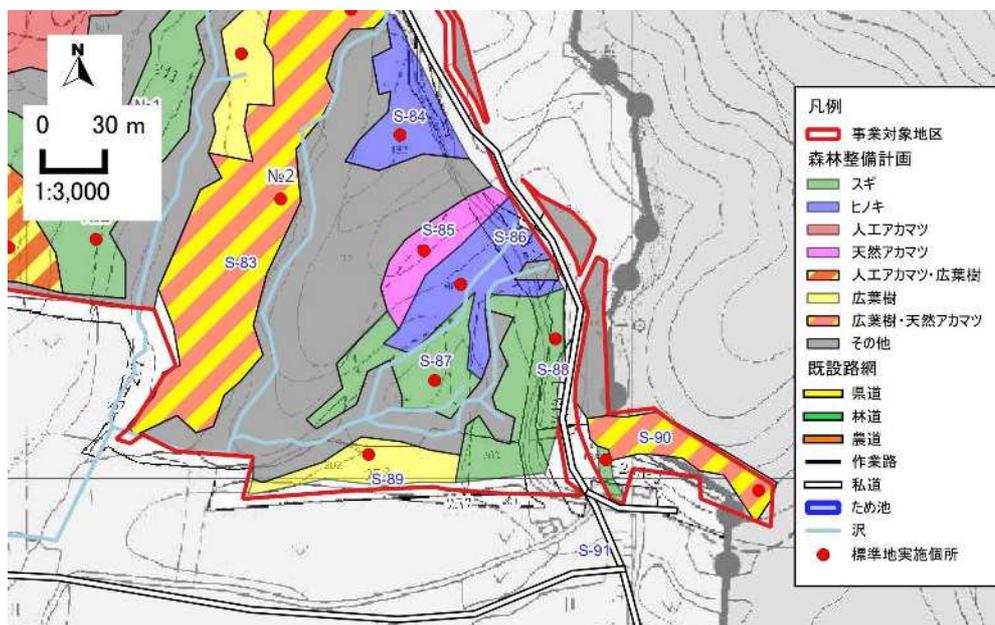
図表 639 S-85 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		17.16	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	11.58	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C 材等	2.39	m3	13.9%	残置	—
	その他	3.17	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		3.95	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.88 詳細設計(S-86 地区)

図表 640 S-86 地区



標準地調査の結果をもとに、S-86 地区の現況について図表 641 にまとめる。

図表 641 S-86 地区の現況

施業種	保育間伐
樹種・齢級	ヒノキ、4 齢級(20 年生)
実測面積	0.25ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	475 本(1,900 本/ha)、81.00m <sup>3</sup> (324.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 18cm、平均樹高 12m、形状比 67
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は乏しく、低木性の広葉樹が主に見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-86 地区の標準地

図表 642 S-86 地区の施業内容

施業種	保育間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	175 本(700 本/ha)、20.00m <sup>3</sup> (80.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 14cm、平均樹高 11m
伐採率	36.8%(本数)、24.7%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 643 にまとめる。

図表 643 S-86 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	ヒノキ	保育間伐 ⇒	ヒノキ
実測面積	0.25ha		0.25ha
本数	475 本(1,900 本/ha)		300 本(1,200 本/ha)
蓄積	81.00m <sup>3</sup> (324.0m <sup>3</sup> /ha)		61.00m <sup>3</sup> (244.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	18cm、12m		20cm、13m
相対幹距比(Sr)	19%		22%
形状比(H/D)	形状比 67		形状比 65

○将来計画

林木の成長に伴い、再び林内の光環境が悪化していくため、今後 10 年程度の間隔で間伐を実施することが望ましい。

図表 644 S-86 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	5	保育間伐 36.8%(整備後本数 1,200 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	7	間伐 30.0%(整備後本数 840 本/ha)
...	...	...
令和 28 年	9	間伐 30.0%(整備後本数 588 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

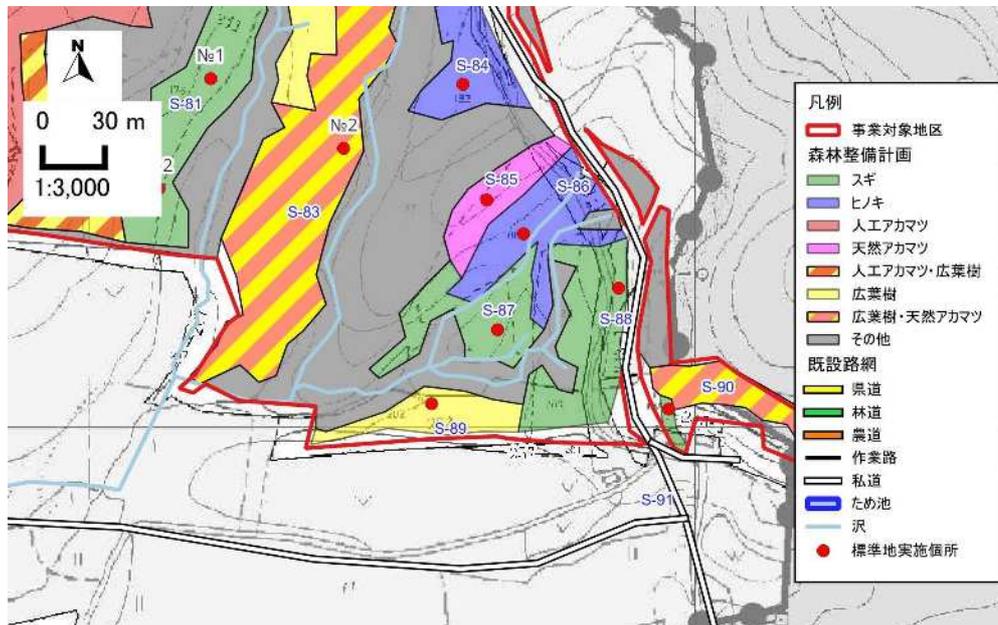
図表 645 S-86 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		20.00	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	13.50	m3	67.5%	残置	—
	C 材等	2.78	m3	13.9%	残置	—
	その他	3.70	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		4.60	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.89 詳細設計(S-87 地区)

図表 646 S-87 地区



標準地調査の結果をもとに、S-87 地区の現況について図表 647 にまとめる。

図表 647 S-87 地区の現況

施業種	利用間伐
樹種・齢級	スギ、11 齢級(55 年生)
実測面積	0.21ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	189 本(900 本/ha)、135.66m <sup>3</sup> (646.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 30cm、平均樹高 21m、形状比 70
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	立木密度が高い。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-87 地区の標準地

図表 648 S-87 地区の施業内容

施業種	利用間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	63 本(300 本/ha)、33.18m <sup>3</sup> (158.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 26cm、平均樹高 20m
伐採率	33.3%(本数)、24.5%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 649 にまとめる。

図表 649 S-87 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	スギ	利用間伐 ⇒	スギ
実測面積	0.21ha		0.21ha
本数	189 本(900 本/ha)		126 本(600 本/ha)
蓄積	135.66m <sup>3</sup> (646.0m <sup>3</sup> /ha)		102.48m <sup>3</sup> (488.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	30cm、21m		32cm、21m
相対幹距比(S <sub>r</sub> )	16%		19%
形状比(H/D)	形状比 70		形状比 66

## ○将来計画

10年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 650 S-87 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	12	利用間伐 33.3% (整備後本数 600 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	14	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

## ○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

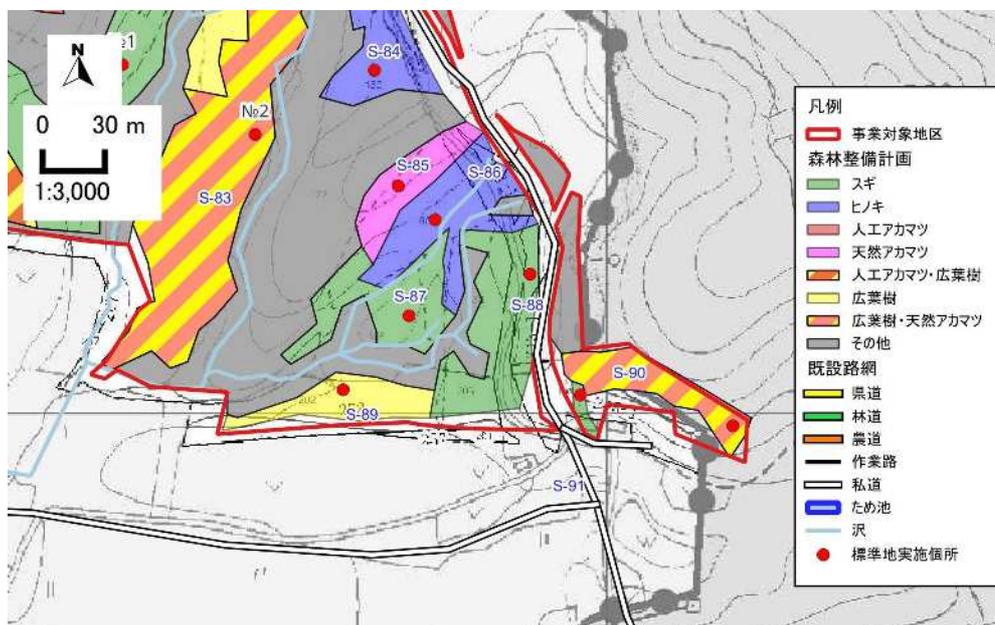
図表 651 S-87 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		33.18	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	22.40	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	4.61	m3	13.9%	残置	—
	その他	6.14	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		7.63	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.90 詳細設計(S-88 地区)

図表 652 S-88 地区



標準地調査の結果をもとに、S-88 地区の現況について図表 653 にまとめる。

図表 653 S-88 地区の現況

施業種	利用間伐
樹種・齢級	スギ、13 齢級(62~64 年生)
実測面積	0.29ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	261 本(900 本/ha)、233.74m <sup>3</sup> (806.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 32cm、平均樹高 21m、形状比 66
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	立木密度が高い。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-88 地区の標準地

図表 654 S-88 地区の施業内容

施業種	利用間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	87 本(300 本/ha)、35.09m <sup>3</sup> (121.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 23cm、平均樹高 18m
伐採率	33.3%(本数)、15.0%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 655 にまとめる。

図表 655 S-88 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	スギ	利用間伐 ⇒	スギ
実測面積	0.29ha		0.29ha
本数	261 本(900 本/ha)		174 本(600 本/ha)
蓄積	233.74m <sup>3</sup> (806.0m <sup>3</sup> /ha)		198.65m <sup>3</sup> (685.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	32cm、21m		37cm、22m
相対幹距比(S <sub>r</sub> )	16%		19%
形状比(H/D)	形状比 66		形状比 59

○将来計画

10年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 656 S-88 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	13～14	利用間伐 33.3% (整備後本数 600 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	15～16	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

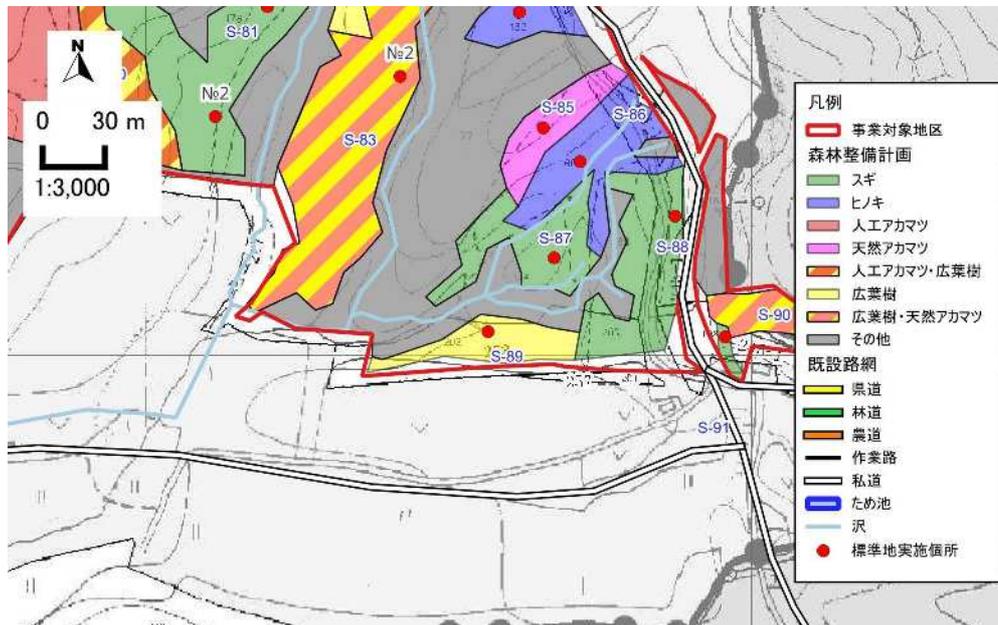
図表 657 S-88 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		35.09	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	23.69	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C 材等	4.88	m3	13.9%	残置	—
	その他	6.49	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		8.07	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.91 詳細設計(S-89 地区)

図表 658 S-89 地区



標準地調査の結果をもとに、S-89 地区の現況について図表 659 にまとめる。

図表 659 S-89 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹、13 齢級(64 年生)
実測面積	0.14ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	308 本(2,200 本/ha)、26.60m <sup>3</sup> (190.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 12cm、平均樹高 11m、形状比 92
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	コナラ、クリ、ヤマザクラ等の高木性の樹種が多い。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-89 地区の標準地

図表 660 S-89 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	210 本(1,500 本/ha)、21.84m <sup>3</sup> (156.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 12cm、平均樹高 11m
伐採率	68.2%(本数)、82.1%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 661 にまとめる。

図表 661 S-89 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	広葉樹	更新伐 ⇒	広葉樹
実測面積	0.14ha		0.14ha
本数	308 本(2,200 本/ha)		98 本(700 本/ha)
蓄積	26.60m <sup>3</sup> (190.0m <sup>3</sup> /ha)		4.76m <sup>3</sup> (34.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	12cm、11m		10cm、10m
相対幹距比(Sr)	19%		38%
形状比(H/D)	形状比 92		形状比 100

## ○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 662 S-89 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	14	更新伐 68.2% (整備後本数 700 本/ha)
...	...	...
令和 11 年	1	萌芽整理
...	...	...
令和 18 年	2~	除伐

## ○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

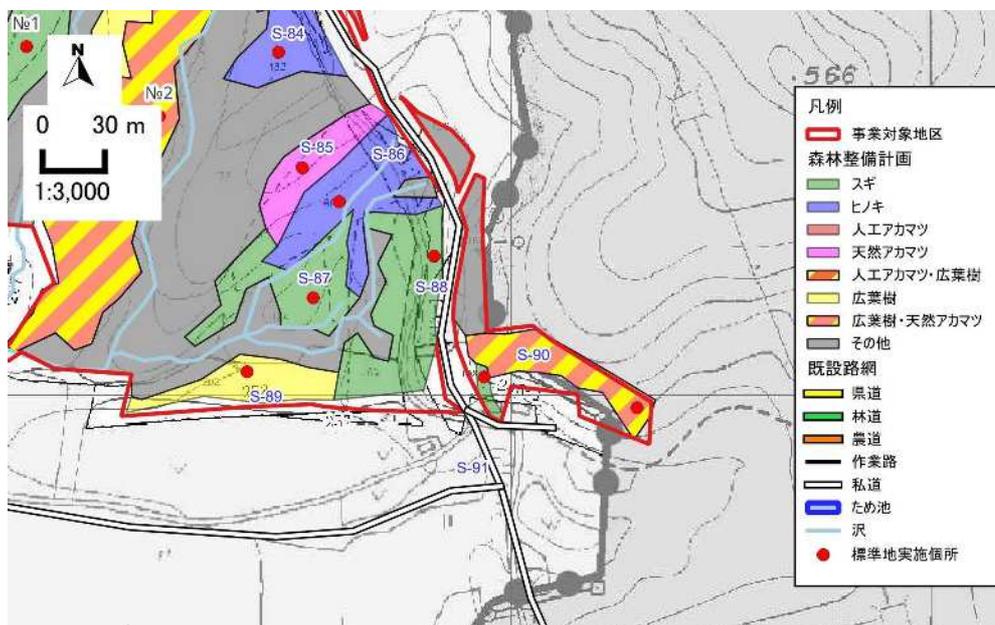
図表 663 S-89 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		21.84	m3	—	—	—
内 訳	AB材	14.74	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C材等	3.04	m3	13.9%	棚積み	—
	その他	4.04	m3	18.5%	棚積み	—
枝 葉		6.99	m3	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.92 詳細設計(S-90 地区)

図表 664 S-90 地区



標準地調査の結果をもとに、S-90 地区の現況について図表 665 にまとめる。

図表 665 S-90 地区の現況

施業種	更新伐
樹種・齢級	広葉樹・天然アカマツ、14 齢級(67 年生)
実測面積	0.15ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	360 本(2,400 本/ha)、92.25m <sup>3</sup> (615.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 15cm、平均樹高 11m、形状比 73
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。コナラ、ヤマザクラ等の高木性の広葉樹が多く混じる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-90 地区の標準地

図表 666 S-90 地区の施業内容

施業種	更新伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。高木性の樹種を優先的に残す。コナラは優先的に伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	225 本(1,500 本/ha)、78.15m <sup>3</sup> (521.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 15cm、平均樹高 11m
伐採率	62.5%(本数)、84.7%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 667 にまとめる。

図表 667 S-90 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	広葉樹・天然アカマツ	更新伐 ⇒	広葉樹・天然アカマツ
実測面積	0.15ha		0.15ha
本数	360 本(2,400 本/ha)		135 本(900 本/ha)
蓄積	92.25m <sup>3</sup> (615.0m <sup>3</sup> /ha)		14.10m <sup>3</sup> (94.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	15cm、11m		12cm、11m
相対幹距比(Sr)	19%		30%
形状比(H/D)	形状比 73		形状比 92

○将来計画

3年後に萌芽の芽かき・刈出しを行い、その後、適宜除伐を実施することが望ましい。

図表 668 S-90 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	14	更新伐 62.5% (整備後本数 900 本/ha)
...	...	...
令和 11 年	1	萌芽整理
...	...	...
令和 18 年	2~	除伐

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

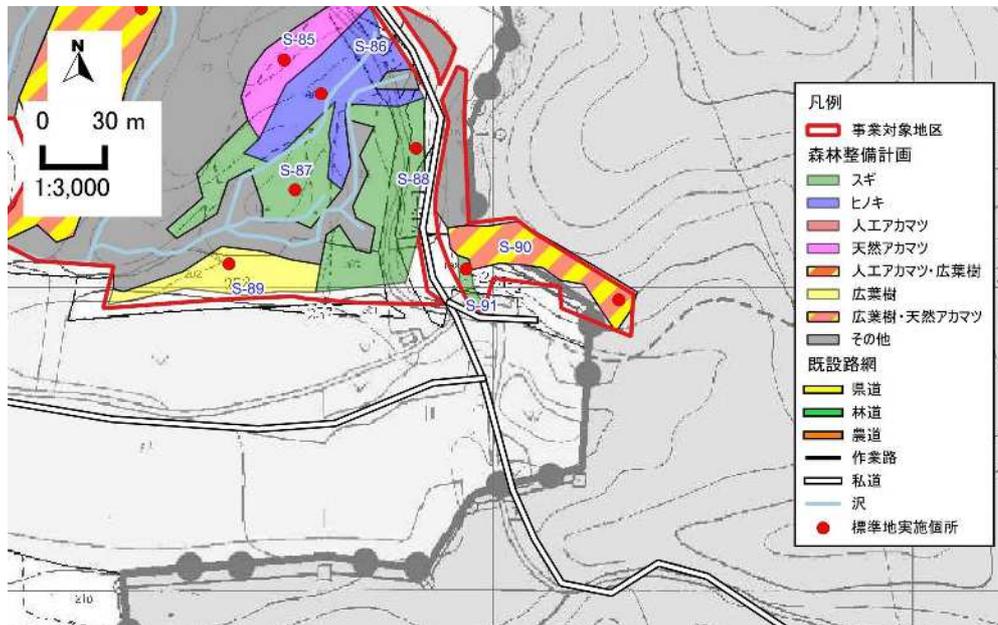
図表 669 S-90 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		78.15	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	52.75	m3	67.5%	搬出利用	チップ材
	C 材等	10.86	m3	13.9%	棚積み	—
	その他	14.46	m3	18.5%	棚積み	—
枝 葉		25.01	m3	拡大係数 1.32	棚積み	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.93 詳細設計(S-91 地区)

図表 670 S-91 地区



標準地調査の結果をもとに、S-91 地区の現況について図表 671 にまとめる。

図表 671 S-91 地区の現況

施業種	利用間伐
樹種・齢級	スギ、14 齢級(67 年生)
実測面積	0.02ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	32 本(1,600 本/ha)、33.76m <sup>3</sup> (1,688.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 36cm、平均樹高 21m、形状比 58
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	欠頂等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-91 地区の標準地

図表 672 S-91 地区の施業内容

施業種	利用間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	12 本(600 本/ha)、8.46m <sup>3</sup> (423.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 29cm、平均樹高 20m
伐採率	37.5%(本数)、25.1%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 673 にまとめる。

図表 673 S-91 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	スギ	利用間伐 ⇒	スギ
実測面積	0.02ha		0.02ha
本数	32 本(1,600 本/ha)		20 本(1,000 本/ha)
蓄積	33.76m <sup>3</sup> (1,688.0m <sup>3</sup> /ha)		25.30m <sup>3</sup> (1,265.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	36cm、21m		39cm、22m
相対幹距比(Sr)	12%		14%
形状比(H/D)	形状比 58		形状比 56

## ○将来計画

10年後には標準伐期齢に達しているため、主伐・更新を適切に行う。

図表 674 S-91 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	14	利用間伐 37.5% (整備後本数 1,000 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	16	主伐 100.0% (整備後本数 0 本/ha)

## ○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

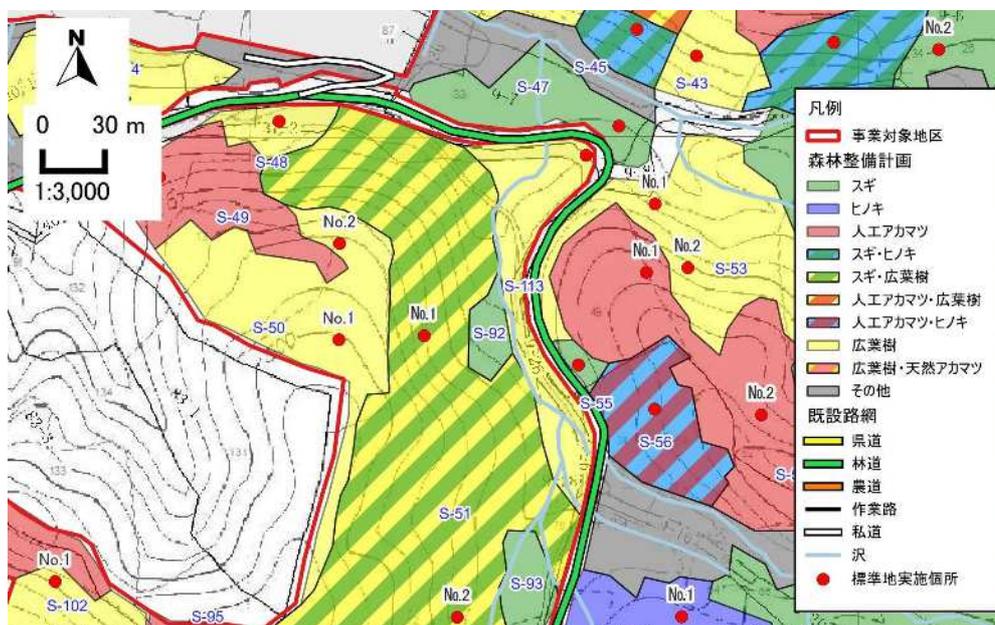
図表 675 S-91 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		8.46	m3	—	—	—
内 訳	AB材	5.71	m3	67.5%	搬出利用	並材
	C材等	1.18	m3	13.9%	残置	—
	その他	1.57	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		1.95	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.94 詳細設計(S-92 地区)

図表 676 S-92 地区



標準地調査の結果をもとに、S-92 地区の現況について図表 677 にまとめる。

図表 677 S-92 地区の現況

施業種	保育間伐
樹種・齢級	スギ、3 齢級(14 年生)
実測面積	0.07ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	189 本(2,700 本/ha)、25.97m <sup>3</sup> (371.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 13cm、平均樹高 10m、形状比 77
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は乏しく、低木性の広葉樹が主に見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-92 地区の標準地

図表 678 S-92 地区の施業内容

施業種	保育間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積※1	70 本(1,000 本/ha)、2.87m <sup>3</sup> (41.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高※1	平均直径 10cm、平均樹高 8m
伐採率	37.0%(本数)、11.1%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 679 にまとめる。

図表 679 S-92 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	スギ	保育間伐 ⇒	スギ
実測面積	0.07ha		0.07ha
本数	189 本(2,700 本/ha)		119 本(1,700 本/ha)
蓄積	25.97m <sup>3</sup> (371.0m <sup>3</sup> /ha)		23.10m <sup>3</sup> (330.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	13cm、10m		15cm、11m
相対幹距比(Sr)	19%		22%
形状比(H/D)	形状比 77		形状比 73

○将来計画

林木の成長に伴い、再び林内の光環境が悪化していくため、今後 10 年程度の間隔で間伐を実施することが望ましい。

図表 680 S-92 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	4	保育間伐 37.0%(整備後本数 1,700 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	6	間伐 30.0%(整備後本数 1,190 本/ha)
...	...	...
令和 28 年	8	間伐 30.0%(整備後本数 833 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

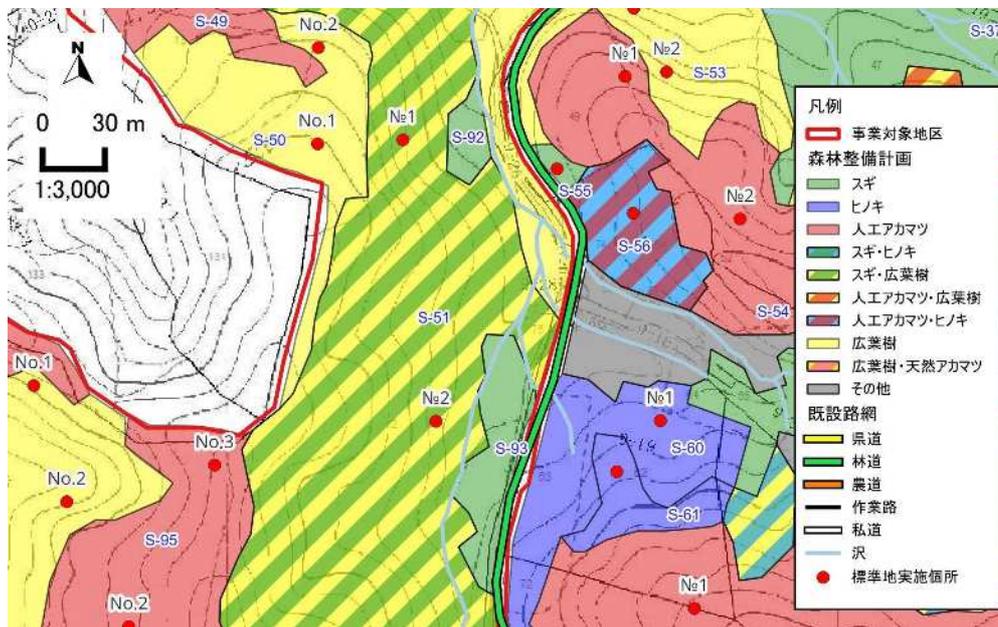
図表 681 S-92 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		2.87	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	1.94	m3	67.5%	残置	—
	C 材等	0.40	m3	13.9%	残置	—
	その他	0.53	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		0.66	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.95 詳細設計(S-93 地区)

図表 682 S-93 地区



標準地調査の結果をもとに、S-93 地区の現況について図表 683 にまとめる。

図表 683 S-93 地区の現況

施業種	保育間伐
樹種・齢級	スギ、3 齢級(14 年生)
実測面積	0.26ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	780 本(3,000 本/ha)、82.94m <sup>3</sup> (319.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 14cm、平均樹高 11m、形状比 79
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は乏しく、低木性の広葉樹が主に見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-93 地区の標準地

図表 684 S-93 地区の施業内容

施業種	保育間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積 <sup>※1</sup>	312 本(1,200 本/ha)、10.14m <sup>3</sup> (39.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高 <sup>※1</sup>	平均直径 9cm、平均樹高 8m
伐採率	40.0%(本数)、12.2%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 685 にまとめる。

図表 685 S-93 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	スギ	保育間伐 ⇒	スギ
実測面積	0.26ha		0.26ha
本数	780 本(3,000 本/ha)		468 本(1,800 本/ha)
蓄積	82.94m <sup>3</sup> (319.0m <sup>3</sup> /ha)		72.80m <sup>3</sup> (280.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	14cm、11m		17cm、12m
相対幹距比(Sr)	17%		20%
形状比(H/D)	形状比 79		形状比 71

## ○将来計画

林木の成長に伴い、再び林内の光環境が悪化していくため、今後 10 年程度の間隔で間伐を実施することが望ましい。

図表 686 S-93 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	4	保育間伐 40.0%(整備後本数 1,800 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	6	間伐 30.0%(整備後本数 1,260 本/ha)
...	...	...
令和 28 年	8	間伐 30.0%(整備後本数 882 本/ha)

## ○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

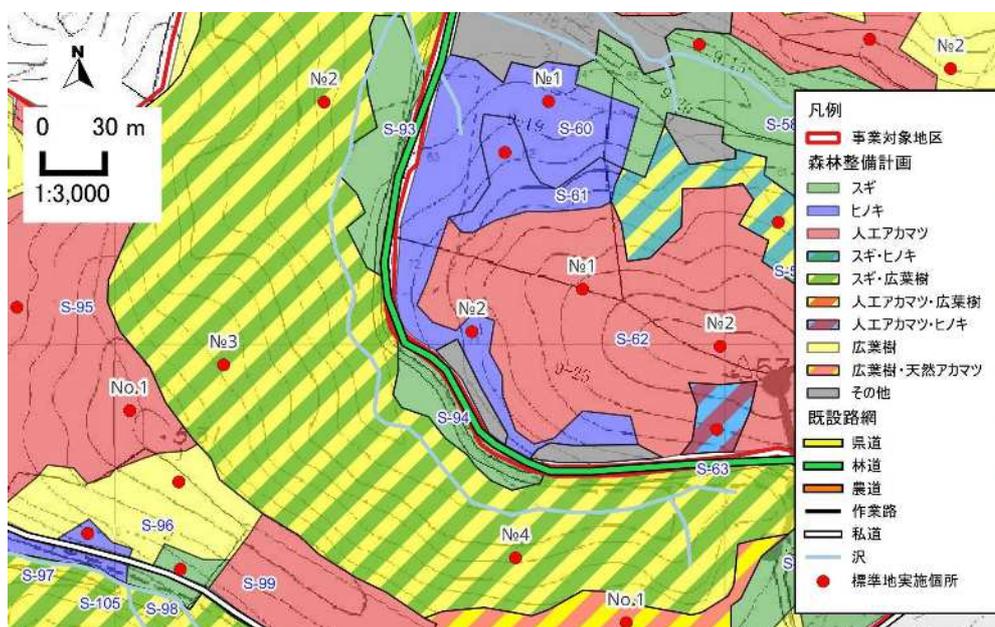
図表 687 S-93 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		10.14	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	6.84	m3	67.5%	残置	—
	C 材等	1.41	m3	13.9%	残置	—
	その他	1.88	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		2.33	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

1.96 詳細設計(S-94 地区)

図表 688 S-94 地区



標準地調査の結果をもとに、S-94 地区の現況について図表 689 にまとめる。

図表 689 S-94 地区の現況

施業種	保育間伐
樹種・齢級	スギ、3 齢級(14 年生)
実測面積	0.15ha
標準地 <sup>※1</sup>	1 箇所(100m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	345 本(2,300 本/ha)、59.40m <sup>3</sup> (396.0m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 14cm、平均樹高 11m、形状比 79
目標林型	人工林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。
下層植生	下層植生は乏しく、低木性の広葉樹が主に見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-94 地区の標準地

図表 690 S-94 地区の施業内容

施業種	保育間伐
方針	劣勢木、不良木を伐採する。配置バランスを考慮して、近接している木を伐採する。
伐採本数・材積※1	135 本(900 本/ha)、6.15m <sup>3</sup> (41.0m <sup>3</sup> /ha)
伐採木直径・樹高※1	平均直径 10cm、平均樹高 9m
伐採率	39.1%(本数)、10.4%(材積)
その他	なし

※1 上層木のみ値。

森林整備に伴う林分状況の変化を図表 691 にまとめる。

図表 691 S-94 地区の整備後の状況

区分	整備前		整備後
樹種	スギ	保育間伐 ⇒	スギ
実測面積	0.15ha		0.15ha
本数	345 本(2,300 本/ha)		210 本(1,400 本/ha)
蓄積	59.40m <sup>3</sup> (396.0m <sup>3</sup> /ha)		53.25m <sup>3</sup> (355.0m <sup>3</sup> /ha)
直径、樹高	14cm、11m		17cm、13m
相対幹距比(Sr)	19%		21%
形状比(H/D)	形状比 79		形状比 76

○将来計画

林木の成長に伴い、再び林内の光環境が悪化していくため、今後 10 年程度の間隔で間伐を実施することが望ましい。

図表 692 S-94 地区の将来計画

年	齢 級	施 業
令和 8 年	4	保育間伐 39.1% (整備後本数 1,400 本/ha)
...	...	...
令和 18 年	6	間伐 30.0% (整備後本数 980 本/ha)
...	...	...
令和 28 年	8	間伐 30.0% (整備後本数 686 本/ha)

○木材利用計画

伐採により発生する木材量と利用方法をまとめる。

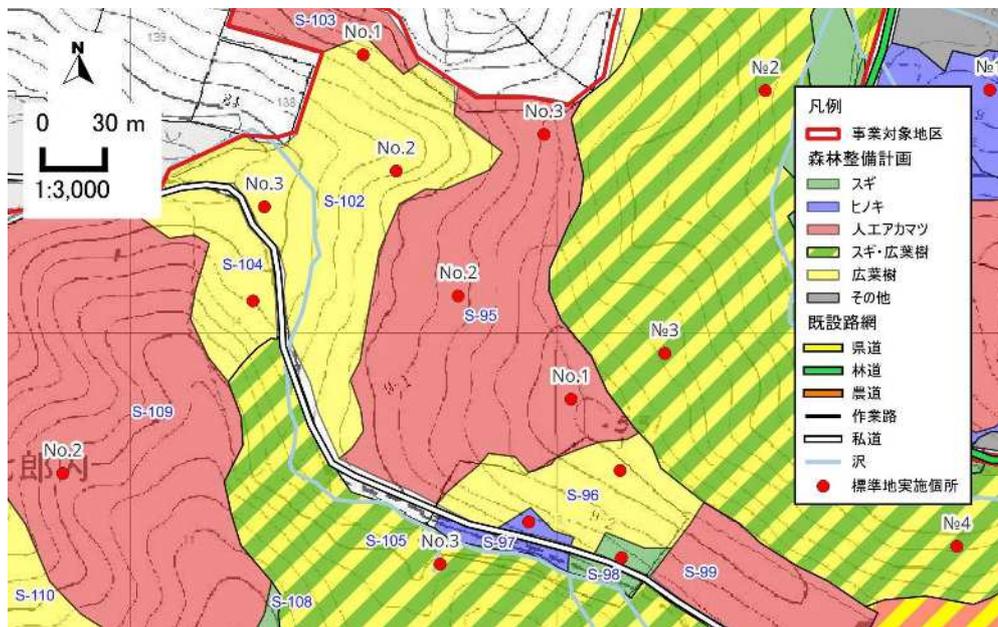
図表 693 S-94 地区の木材量

区 分		内 容			利用方法	材区分
伐採材積(立木)		1.50	m3	—	—	—
内 訳	AB 材	1.01	m3	67.5%	残置	—
	C 材等	0.21	m3	13.9%	残置	—
	その他	0.28	m3	18.5%	残置	—
枝 葉		0.35	m3	拡大係数 1.23	残置	—

※拡大係数＝枝葉を含めた体積/幹材積 針葉樹は 1.23、広葉樹は 1.32。

## 1.97 詳細設計(S-95 地区)

図表 694 S-95 地区



標準地調査の結果をもとに、S-95 地区の現況について図表 695 にまとめる。

図表 695 S-95 地区の現況

施業種	人工林整理伐
樹種・齢級	人工アカマツ、12 齢級(59 年生)
実測面積	1.58ha
標準地 <sup>※1</sup>	3 箇所(300m <sup>2</sup> )
本数・蓄積 <sup>※2</sup>	1,106 本(700 本/ha)、1,149.77m <sup>3</sup> (727.7m <sup>3</sup> /ha)
直径・樹高 <sup>※2</sup>	平均直径 34cm、平均樹高 23m、形状比 68
目標林型	天然生林・成熟段階
立木の状況	曲がり等の不良木が多数発生している。立木密度が高い。ヤマザクラ、ミズキ、クリ等の高木性の広葉樹が多く混じる。
下層植生	下層植生は高木性・低木性の広葉樹が多く見られる。
その他	なし

※1 各標準地の調査結果は、別紙にまとめる。

※2 上層木のみ値。



S-95 地区の No. 1 標準地



S-95 地区の No. 2 標準地



S-95 地区の No. 3 標準地